

学科到達目標

令和4年度以降の入学者に適用
 (i)数学と自然科学を修得し、専門分野に応用することができる。
 (ii)専門分野の基礎を修得し、専門的な問題を解決するために活用できる。
 (iii)専門的な実験を遂行・分析することができ、実習・演習により修得した実践技術をものづくりに活用できる。
 (iv)修得した人文・社会科学の一般知識により広い視野を持ち、技術者として倫理的に行動し、異文化理解・交流を行うことができる。
 (v)地域、社会等の問題解決のために他者と協働し、修得した専門分野の知識・技術を融合して創造することができる。また、その成果を発表することができる。

令和3年度以前の入学者に適用
 (A)自然科学と工学の基礎を身につける。
 (B)専門分野の基礎知識を修得し、技術の実践に応用できる。
 (C)修得した知識を統合し、製品やシステムを考案できる。
 (D)実験・実習・演習により現象の理解を深め、実践力を身につける。
 (E)技術者に必要な人間性、国際性、協調性及び英語による基礎的なコミュニケーション能力を身につける。
 (F)技術が自然や社会に与える影響を理解し、技術者としての倫理観を身につける。
 (G)課題の提案・報告などを適切にまとめ、発表できる。
 (H)コンピュータを技術の実践に活用できる。
 (I)責任を自覚し、互いに協力し合い、チームの目的達成に貢献できる。

科目区分	授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																				担当教員	履修上の区分
					1年				2年				3年				4年				5年					
					前		後		前		後		前		後		前		後		前		後			
					1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4		
一般	必修	総合英語 I A	履修単位	2	4																			岡下 朋世, 布川 香真, 鈴木 真奈, 田矢 恵美子		
一般	必修	総合英語 I B	履修単位	2			4																	大内 真一郎		
一般	必修	現代文 A	履修単位	1	2																			田村 修一		
一般	必修	現代文 B	履修単位	1			2																	田村 修一		
一般	必修	古典 A	履修単位	1	2																			荻田 みどり		
一般	必修	古典 B	履修単位	1			2																	荻田 みどり		
一般	必修	芸術 A	履修単位	1	2																			竹原 豊		
一般	必修	芸術 B	履修単位	1			2																	竹原 豊		
一般	必修	歴史総合 A	履修単位	1	2																			牧野 雅司		
一般	必修	歴史総合 B	履修単位	1			2																	桑林 賢治		
一般	必修	基礎数学 A	履修単位	2	4																			喜友名 朝也, 熊谷 大雅		
一般	必修	基礎数学 B	履修単位	2			4																	喜友名 朝也, 熊谷 大雅		
一般	必修	基礎数学演習 A	履修単位	1	2																			喜友名 朝也, 熊谷 大雅		
一般	必修	基礎数学演習 B	履修単位	1			2																	喜友名 朝也, 熊谷 大雅		
一般	必修	物理 I A	履修単位	1	2																			宝利 剛		
一般	必修	物理 I B	履修単位	1			2																	宝利 剛		
一般	必修	化学 I A	履修単位	1	2																			小島 広孝		

一般	選択	日本語 B	0056	学修単位	2													田村 修一	
一般	必修	人間論	0057	履修単位	1													山根 秀介	
一般	必修	微分積分Ⅱ A	0058	履修単位	2													奥村 昌司, 岡田 浩嗣	
一般	必修	確率統計	0059	履修単位	1													奥村 昌司, 岡田 浩嗣	
一般	必修	微分積分Ⅱ B	0060	履修単位	2													奥村 昌司, 岡田 浩嗣	
一般	必修	微分積分演習	0061	履修単位	1													奥村 昌司, 岡田 浩嗣	
一般	必修	保健体育Ⅲ	0062	履修単位	2													齋藤 康男, 西本 信介, 木村 健二	
一般	必修	哲学	0065	学修単位	2													山根 秀介	
一般	必修	総合英語Ⅳ A	0066	学修単位	2													クロシ ユニ	
一般	必修	総合英語Ⅳ B	0067	学修単位	2													荒川 吉孝	
一般	必修	現代社会	0070	学修単位	2													児玉 圭司	
一般	必修	法学	0071	学修単位	2													児玉 圭司	
一般	必修	物理Ⅲ (M)	0072	学修単位	2													姉川 尊徳	
一般	必修	物理Ⅲ (C)	0073	学修単位	2													宝利 剛	
一般	選択	物理Ⅲ (E、S)	0074	学修単位	2													上杉 智子	選択必修
一般	選択	化学Ⅲ	0075	学修単位	2													松田 若菜	選択必修
一般	選択	保健体育Ⅳ	0076	履修単位	2													小野 伸一郎, 木村 健二	
一般	選択	日本語 C	0085	学修単位	2													田村 修一	
一般	選択	日本語 D	0086	学修単位	2													田村 修一	
一般	選択	保健体育Ⅴ	0077	履修単位	2													小野 伸一郎, 木村 健二	
一般	選択	総合英語Ⅴ	0078	学修単位	2													荒川 吉孝	
一般	選択	人文特論Ⅰ A	0079	学修単位	2													林 大地	
一般	選択	人文特論Ⅱ A	0080	学修単位	2													荻田 みどり	
一般	選択	人文特論Ⅲ A	0081	学修単位	2													牧野 雅司	
一般	選択	人文特論Ⅳ A	0082	学修単位	2													山根 秀介	
一般	選択	日本語 E	0087	学修単位	2													田村 修一	
一般	選択	日本語 F	0088	学修単位	2													田村 修一	
一般	選択	人文特論Ⅰ B	0114	学修単位	2													林 大地	
一般	選択	人文特論Ⅱ B	0115	学修単位	2													荻田 みどり	
一般	選択	人文特論Ⅲ B	0116	学修単位	2													牧野 雅司	
一般	選択	人文特論Ⅳ B	0117	学修単位	2													山根 秀介	

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	総合英語 I A
科目基礎情報					
科目番号	0001		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科目		対象学年	1	
開設期	前期		週時間数	4	
教科書/教材	検定教科書「New Rays English Communication I」(いいずな書店)、いいずな書店編集部「Evergreen English Grammar 25 Lessons」(いいずな書店)、投野由紀夫「フェイバリット英単語・熟語<テーマ別> コーパス4500」(東京書籍)、いいずな書店編集部「Evergreen English Grammar 25 Lessons Workbook updated」(いいずな書店)、参考書:川崎芳人「Evergreen」(いいずな書店)				
担当教員	岡下 朋世,布川 香,鈴木 真奈,田矢 恵美子				
到達目標					
1 聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。 2 説明や物語などの文章を毎分 100 語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、適切に音読あるいは発話できる。	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できない。		
評価項目2	説明や物語などの文章を毎分 100 語程度の速度で聞き手に伝わるように音読が十分にできる。	説明や物語などの文章を毎分 100 語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	説明や物語などの文章を毎分 100 語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (iv)					
教育方法等					
概要	様々なジャンルの英語に触れながら「読む」「書く」「聴く」「話す」の4技能を総合的に学ぶ。特に英語の構文を身につけ英語による理解や自己表現ができるようになるための基礎を養う。				
授業の進め方・方法	<p>【授業方法】 週2回の授業でリーディングと文法を並行して学ぶ。リーディングは単語の発音、本文の聴き取りと音読、意味の理解を中心とし、文法については例文の説明と練習問題を通して、英語表現の基礎となる文法構造を身につける。適宜、課題、小テスト、発表等を課す。</p> <p>【学習方法】 毎回予習をして授業に臨むこと。具体的には、分からない単語の意味と品詞を辞書で調べ、自分自身の単語帳を作成する、ノートに教科書の英文や例文を筆写し、訳文を書くといった作業を行っておくこと。授業には辞書を持参すること。復習として、音読を怠らないこと。</p>				
注意点	<p>【成績の評価方法・評価基準】 2回の定期試験を行う。時間は50分とする。2回の試験の平均 (60%) と、小テスト・課題・発表・演習 (40%) から総合的に成績を評価する。上述の到達目標に基づき、授業に対する積極的な取り組みと授業内容の理解および運用力を評価基準とする。</p> <p>【教員の連絡先】 研究室 岡下朋世 A棟3階 (A-325) 内線電話 8955 E-mail : t.okashita アットマーク maizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること。)</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	シラバス内容の説明 Lesson 1 The Future Is Yours / Lesson 1 動詞と時制 (1)	1, 2	
		2週	Lesson 1 The Future Is Yours / Lesson 2 動詞と時制 (2)	1, 2	
		3週	Lesson 1 The Future Is Yours / Lesson 3 動詞と時制 (3)	1, 2	
		4週	Lesson 2 The Power of Design / Lesson 4 完了形 (1)	1, 2	
		5週	Lesson 2 The Power of Design / Plus 完了形	1, 2	
		6週	Lesson 2 The Power of Design / Lesson 5 完了形 (2)	1, 2	
		7週	まとめ	1, 2	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	Lesson 3 Plastic Is Everywhere / Lesson 6 助動詞 (1)	1, 2	
		10週	Lesson 3 Plastic Is Everywhere / Lesson 7 助動詞 (2)	1, 2	
		11週	Lesson 3 Plastic Is Everywhere / Plus 助動詞	1, 2	

		12週	Lesson 4 Orihime - A Vehicle of Your Heart / Lesson 8 態 (1)	1, 2
		13週	Lesson 4 Orihime - A Vehicle of Your Heart / Lesson 9 態 (2)	1, 2
		14週	Lesson 4 Orihime - A Vehicle of Your Heart / Plus 態	1, 2
		15週	まとめ	1, 2
		16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・達成度確認	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	1	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15
			英語運用能力の基礎固め	説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	1	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	40	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	40	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	総合英語 I B
科目基礎情報					
科目番号	0002		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科目		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	4	
教科書/教材	検定教科書「New Rays English Communication I」(いっずな書店)、いっずな書店編集部「Evergreen English Grammar 25 Lessons」(いっずな書店)、投野由紀夫「フェイバリット英単語・熟語<テーマ別> コーパス4500」(東京書籍)、いっずな書店編集部「Evergreen English Grammar 25 Lessons Workbook updated」(いっずな書店)、参考書:川崎芳人「Evergreen」(いっずな書店)				
担当教員	大内 真一郎				
到達目標					
1 聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。 2 説明や物語などの文章を毎分 100 語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、適切に音読あるいは発話できる。	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できない。		
評価項目2	説明や物語などの文章を毎分 100 語程度の速度で聞き手に伝わるように音読が十分にできる。	説明や物語などの文章を毎分 100 語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	説明や物語などの文章を毎分 100 語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (iv)					
教育方法等					
概要	様々なジャンルの英語に触れながら「読む」「書く」「聴く」「話す」の4技能を総合的に学ぶ。特に英語の構文を身につけ英語による理解や自己表現ができるようになるための基礎を養う。				
授業の進め方・方法	<p>【授業方法】 週2回の授業でリーディングと文法を並行して学ぶ。リーディングは単語の発音、本文の聴き取りと音読、意味の理解を中心とし、文法については例文の説明と練習問題を通して、英語表現の基礎となる文法構造を身につける。適宜、課題、小テスト、発表等を課す。</p> <p>【学習方法】 毎回予習をして授業に臨むこと。具体的には、分からない単語の意味と品詞を辞書で調べ、自分自身の単語帳を作成する、ノートに教科書の英文や例文を筆写し、訳文を書くといった作業を行っておくこと。授業には辞書を持参すること。復習として、音読を怠らないこと。</p>				
注意点	<p>【成績の評価方法・評価基準】 2回の定期試験を行う。時間は50分とする。2回の試験の平均(60%)と、小テスト・課題・発表・演習(40%)から総合的に成績を評価する。上述の到達目標に基づき、授業に対する積極的な取り組みと授業内容の理解および運用力を評価基準とする。</p> <p>【教員の連絡先】 研究室 大内真一郎 A棟3階(A-301) 内線電話 8906 E-mail: s.ouchi アットマーク maizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること。)</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	シラバス内容の説明 Lesson 5 Satoko and Nada	1, 2	
		2週	Lesson 5 Satoko and Nada / Lesson 10 不定詞(1)	1, 2	
		3週	Lesson 5 Satoko and Nada / Lesson 10 不定詞(2)	1, 2	
		4週	Lesson 6 The Voice of Children / Lesson 11 不定詞(3)	1, 2	
		5週	Lesson 6 The Voice of Children / Plus 不定詞 ①	1, 2	
		6週	Lesson 6 The Voice of Children / Plus 不定詞 ②	1, 2	
		7週	まとめ	1, 2	
		8週	中間試験		
	4thQ	9週	後期中間試験の到達度確認 Lesson 7 Human Habitation on Mars	1, 2	
		10週	Lesson 7 Human Habitation on Mars / Lesson 13 動名詞	1, 2	
		11週	Lesson 7 Human Habitation on Mars / Plus 動名詞	1, 2	
		12週	Lesson 8 A Loving Story / Plus 動名詞と不定詞	1, 2	
		13週	Lesson 8 A Loving Story / 復習	1, 2	
		14週	Lesson 8 A Loving Story / 復習	1, 2	
		15週	まとめ	1, 2	

		16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・達成度確認	
--	--	-----	----------------------------------	--

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	1	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			英語運用能力の基礎固め	説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	1	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	40	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	40	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	現代文A
科目基礎情報					
科目番号	0003		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般科目		対象学年	1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	検定教科書: 『高等学校 現代の国語』(第一学習社), 『高等学校 言語文化』(第一学習社) 参考書: 『新訂総合国語便覧』(第一学習社), 『新しい常用漢字』(数研出版)				
担当教員	田村 修一				
到達目標					
1 文章を客観的に理解し人間, 社会, 自然などについての考えを広げることができる。 2 文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り, 自分の意見を述べるができる。 3 現代日本語の基礎的運用, 語句の意味を習得する。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	文章を客観的に理解し, 人間, 社会, 自然などについての考えを広げることが顕著にできるようになった。		文章を客観的に理解し, 人間, 社会, 自然などについての考えを広げることができると認められる。		文章を客観的に理解し, 人間, 社会, 自然などについての考えを広げることができない。
評価項目2	文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り, 自分の意見を述べる事が顕著にできるようになった。		文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り, 自分の意見を述べる事ができると認められる。		文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り, 自分の意見を述べる事ができない。
評価項目3	現代日本語の基礎的運用, 語句の意味を顕著に習得した。		現代日本語の基礎的運用, 語句の意味を習得したと認められる。		現代日本語の基礎的運用, 語句の意味を習得できない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (iv)					
教育方法等					
概要	さまざまなジャンルの文章を読み解いていく。高校1年レベルの検定教科書掲載の作品を中心に採りあげる。作文課題も与えられる。				
授業の進め方・方法	【授業方法】 ・授業は講義形式で進められる。 ・文学作品に関わるレポート課題を与える。 【学習方法】 ・復習は必ず行うこと。 ・普段から, 本・新聞など, 文章をできるだけ多く読むことを心がけること。				
注意点	【成績の評価方法・評価基準】 成績評価は, 上述の到達目標を基準とする定期試験(70%), レポート・小テストなどの課題提出(15%), 授業中の音読等(15%)による総合評価。定期試験は中間・期末の2回おこなう。定期試験の試験時間は50分とする。 【教員の連絡先】 研究室 B棟3階(B-303) 内線電話 8905 e-mail: tamura@maizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること。)				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	シラバス内容の説明, 評論 山崎正和「水の東西」	1, 3	
		2週	評論 山崎正和「水の東西」	1, 3	
		3週	評論 高階秀爾「『間』の感覚」	1, 3	
		4週	評論 高階秀爾「『間』の感覚」	1, 3	
		5週	小説 芥川龍之介「羅生門」	2, 3	
		6週	小説 芥川龍之介「羅生門」	2, 3	
		7週	小説 芥川龍之介「羅生門」	2, 3	
		8週	中間試験	1, 2, 3	
	2ndQ	9週	評論 平野啓一郎「『本当の自分』幻想」	1, 3	
		10週	評論 平野啓一郎「『本当の自分』幻想」	1, 3	
		11週	評論 鈴木孝夫「ものとことば」	1, 3	
		12週	評論 鈴木孝夫「ものとことば」	1, 3	
		13週	詩 三好達治「蝨のうへ」	2, 3	
		14週	詩 中原中也「一つのメルヘン」	2, 3	
		15週	詩 吉野弘「I was born」	2, 3	
		16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・達成度確認	1, 2, 3	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べることができる。	3	前5,前6,前7,前8,前13,前14,前15	
評価割合							
	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	15	0	0	15	0	100
基礎的能力	70	15	0	0	15	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	現代文 B
科目基礎情報					
科目番号	0004		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般科目		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	検定教科書: 『高等学校 現代の国語』 (第一学習社) 参考書: 『新訂総合国語便覧』 (第一学習社), 『新しい常用漢字』 (数研出版)				
担当教員	田村 修一				
到達目標					
1 論理的な文章 (論説や評論) の構成や展開を的確にとらえ, 要約できる。 2 文学的な文章 (小説や随筆) に描かれた人物やものの見方を表現に即して深く読み取ることができる。 3 現代日本語の基礎的運用, 語句の意味を広く習得する。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	論理的な文章 (論説や評論) の構成や展開を的確にとらえ, 要約することが顕著にできるようになった。		論理的な文章 (論説や評論) の構成や展開を的確にとらえ, 要約できると認められる。		論理的な文章 (論説や評論) の構成や展開を的確にとらえ, 要約することができない。
評価項目2	文学的な文章 (小説や随筆) に描かれた人物やものの見方を表現に即して深く読み取ることが顕著にできるようになった。		文学的な文章 (小説や随筆) に描かれた人物やものの見方を表現に即して深く読み取ることができると認められる。		文学的な文章 (小説や随筆) に描かれた人物やものの見方を表現に即して深く読み取ることができない。
評価項目3	現代日本語の基礎的運用, 語句の意味を非常に広く習得できた。		現代日本語の基礎的運用, 語句の意味を広く習得したと認められる。		現代日本語の基礎的運用, 語句の意味を広く習得したと認められない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (iv)					
教育方法等					
概要	さまざまなジャンルの文章を読み解いていく。高校1年レベルの検定教科書掲載の作品を中心に採りあげる。作文課題も与えられる。				
授業の進め方・方法	【授業方法】 ・授業は講義形式で進められる。 ・評論に関わるレポート課題を与える。 【学習方法】 ・復習は必ず行うこと。 ・普段から本・新聞など, 文章をできるだけ多く読むことを心がけること。				
注意点	【成績の評価方法・評価基準】 成績評価は, 上述の到達目標を基準とする定期試験 (70%), レポート・小テスト (15%), 音読・質疑応答 (15%) による総合評価。定期試験は中間・期末の2回おこなう。試験時間は50分とする。 【教員の連絡先】 研究室 B棟3階 (B-303) 内線電話 8905 e-mail: tamura@attマークmaizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること。)				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	シラバス内容の説明, 評論 港千尋「無彩色の色」	1, 3	
		2週	評論 港千尋「無彩色の色」	1, 3	
		3週	評論 池内了「『文化』としての科学」	1, 3	
		4週	評論 池内了「『文化』としての科学」	1, 3	
		5週	小説 夏目漱石「夢十夜」	2, 3	
		6週	小説 夏目漱石「夢十夜」	2, 3	
		7週	小説 夏目漱石「夢十夜」	2, 3	
		8週	中間試験	1, 2, 3	
	4thQ	9週	評論 内田樹「フェアな競争」	1, 3	
		10週	評論 内田樹「フェアな競争」	1, 3	
		11週	評論 林香里「現代の『世論操作』」	1, 3	
		12週	評論 林香里「現代の『世論操作』」	1, 3	
		13週	小説 志賀直哉「城の崎にて」	2, 3	
		14週	小説 志賀直哉「城の崎にて」	2, 3	
		15週	小説 志賀直哉「城の崎にて」	2, 3	
		16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・達成度確認	1, 2, 3	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	3	後1,後2,後3,後4,後8,後9,後10,後11,後12,後16

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	15	15	100
基礎的能力	70	0	0	0	15	15	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	古典 A
科目基礎情報					
科目番号	0005		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般科目		対象学年	1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	検定教科書 『高等学校 言語文化』 (第一学習社) 参考書 『古典常識も学べる新明説総合古典文法』 (尚文出版), 『新訂総合国語便覧』 (第一学習社)				
担当教員	荻田 みどり				
到達目標					
1 歴史的仮名遣いを習得する。 2 伝統的な言語文化への興味・関心を広く持ち、その特徴を説明できる。 3 いくつかの代表的な古典に描かれた、ものの見方を理解し、自分の意見を述べることができる。 4 漢文訓読、読解におけるルールを習得する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	歴史的仮名遣いをほぼ正確に読むことができる。	歴史的仮名遣いを概ね正確に読むことができる。	歴史的仮名遣いを正確に読むことができない。		
評価項目2	伝統的な言語文化への興味・関心を広く持ち、その特徴を的確に説明できる。	伝統的な言語文化への興味・関心を広く持ち、その特徴を説明できる。	伝統的な言語文化への興味・関心を広く持ち、その特徴を説明できない。		
評価項目3	古典の内容や表現の特徴を把握し、人物・心情・情景について十分に考えを巡らすことができる。	古典の内容や表現の特徴を把握し、人物・心情・情景について考えることができる。	古典の内容や表現の特徴を把握し、人物・心情・情景について考えることができない。		
評価項目4	漢文訓読、読解におけるルールを習得した。	漢文訓読、読解におけるルールを概ね習得した。	漢文訓読、読解におけるルールを理解できない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (iv)					
教育方法等					
概要	古典作品の読解を通して日本文化や言葉に馴染み、ものの見方・考え方を広げる。読解に必要な基礎的知識・能力を習得するため、高校1年レベルの検定教科書掲載の作品を中心に採り上げる。適宜課題も課す。				
授業の進め方・方法	【授業方法】 授業は主に講義形式で進める。適宜、小テストや課題提出、グループワーク、発表等を課す。 【学習方法】 予習・復習は必ず行うこと。「なぜこうなのか」と、主体的に考えることを大事にする。わからないことがあれば、質問すること。				
注意点	【成績の評価基準・評価方法】 2回の定期試験を行う。時間は50分とする。2回の試験の平均 (70%) と、小テスト・提出課題・発表・質疑応答等 (30%) から、総合的に評価する。到達目標への到達度を評価基準とする。 【備考】 古語辞典は毎回持参すること。 【教員の連絡先】 研究室 B棟3階 (B-301) 内線電話 8904 e-mail: m.ogita@maizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること。)				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	シラバス内容の説明, 古典入門, 古典を学ぶにあたって、仮名遣い	1, 2, 3	
		2週	『御伽草子』 「浦島太郎」, 古典文法 (品詞・活用形)	1, 2, 3	
		3週	『御伽草子』 「浦島太郎」, 古典文法 (動詞)	1, 2, 3	
		4週	『御伽草子』 「浦島太郎」, 古典文法 (動詞)	1, 2, 3	
		5週	『御伽草子』 「浦島太郎」	1, 2, 3	
		6週	『徒然草』	1, 2, 3	
		7週	『徒然草』	1, 2, 3	
		8週	中間試験	2, 3, 4	
	2ndQ	9週	中間試験返却, 漢文	2, 3, 4	
		10週	漢文	2, 3, 4	
		11週	和歌	1, 2, 3	
		12週	和歌	1, 2, 3	

	13週	AIを使ってくずし字を読む	2, 3
	14週	『伊勢物語』	1, 2, 3
	15週	『伊勢物語』	1, 2, 3
	16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・達成度確認	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	10	0	0	20	0	100
基礎的能力	70	10	0	0	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	古典B
科目基礎情報					
科目番号	0006		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般科目		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	検定教科書『高等学校 言語文化』(第一学習社) 参考書『古典常識も学べる 新明説総合古典文法』(尚文出版), 『新訂総合国語便覧』(第一学習社)				
担当教員	荻田 みどり				
到達目標					
1 古典の表現に触れ、人物の行動や心情を読み解くことができる。 2 いくつかの代表的な古典に描かれた、ものの見方を理解し、自分の意見を述べるができる。 3 多角的に探究し、自己の表現力・創造力・想像力の向上に資することができる。 4 他者の考えに傾聴し、建設的な評価や助言ができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	古典の表現に触れ、人物の行動や心情を十分に読み解くことができる。	古典の表現に触れ、人物の行動や心情を読み解くことができると認められる。	古典の表現に触れ、人物の行動や心情を読み解くことができない。		
評価項目2	いくつかの代表的な古典に描かれた、ものの見方を理解し、自分の意見を述べる事が十分にできる。	いくつかの代表的な古典に描かれた、ものの見方を理解し、自分の意見を述べる事ができると認められる。	いくつかの代表的な古典に描かれた、ものの見方を理解し、自分の意見を述べる事ができない。		
評価項目3	多角的に探究し、自己の表現力・創造力・想像力の向上に資することができる。	多角的に探究し、自己の表現力・創造力・想像力の向上に資することができる。	多角的に探究し、自己の表現力・創造力・想像力の向上に資することができない。		
評価項目4	他者の考えに傾聴し、建設的な評価や助言が十分にできる。	他者の考えに傾聴し、建設的な評価や助言ができる。	他者の考えに傾聴できず、建設的な評価や助言ができない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (iv)					
教育方法等					
概要	古典作品の読解を通して日本文化や言葉に馴染み、ものの見方・考え方を広げる。古典作品について自身で探究し、レポートや口頭発表により他者に伝える。				
授業の進め方・方法	【授業方法】 授業は講義形式だけでなく、適宜提出課題やグループワーク、発表等を課す。 【学習方法】 予習・復習は必ず行い、「なぜこうなのか」と、自分で主体的に考える。分からないところは質問すること。				
注意点	【成績の評価基準・評価方法】 定期試験は中間試験のみ実施する。 中間試験 (35%) ・ 提出課題・小テスト (35%) ・ 口頭発表・質疑応答 (30%) から総合的に成績を評価する。 到達目標への到達度を評価基準とする。 【備考】 辞書は毎回持参すること。 【教員の連絡先】 研究室 B棟3階 (B-301) 内線電話 8904 e-mail: m.ogita@maizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること。)				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	シラバス内容の説明、軍記物語	1, 2, 3, 4	
		2週	軍記物語	1, 2, 3, 4	
		3週	軍記物語	1, 2, 3, 4	
		4週	資料の調べ方	1, 2, 3	
		5週	芸能	1, 2, 3	
		6週	芸能	1, 2, 3	
		7週	俳諧	1, 2, 3	
		8週	中間試験		
	4thQ	9週	中間試験返却・達成度確認、源氏物語	1, 2, 3	
		10週	源氏物語	1, 2, 3	
		11週	発表準備	1, 2, 3	
		12週	口頭発表	1, 2, 3, 4	
		13週	口頭発表	1, 2, 3, 4	
		14週	口頭発表	1, 2, 3, 4	

	15週	口頭発表	1, 2, 3, 4
	16週	(15週目の後に期末試験は実施しない) 発表講評・達成度確認	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	35	30	0	0	35	0	100
基礎的能力	35	30	0	0	35	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	芸術 A
科目基礎情報					
科目番号	0007	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般科目	対象学年	1		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材	検定教科書「高校美術」 日本文教出版				
担当教員	竹原 豊				
到達目標					
1 モデル (対象) をよく見て客観的に描写する 2 感動や思考を交えて対象を主観的に表現する 3 表現の内容や方法に意図・工夫・創作を込める 4 空想やイメージを表現 5 色彩と形態空間構成 抽象的な表現 6 描画材(物質的特性)や描画行為 (身体性) を考察 7 柔軟で豊かな発想や感性や表現, 創作欲を育む					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	モデル (対象) の観察が鋭くて客観的な巧みな描写ができる	モデル (対象) を見て, 客観的に描写しようとする	モデル (対象) をよく見ず, 見える通りに描こうとしない、描けない		
評価項目2	感動や深い思考をこめて対象を主観的に表現性豊かに表現できる	感動や思考を交えて対象を主観的に表現しようと工夫する	感動や思考を生めず, 交えず, 表現を独自に工夫しようとする		
評価項目3	表現の内容や方法に, 明確な意図, 工夫, 創作を込めることができる	表現の内容や方法に, 意図, 工夫, 創作を込めようとする	表現の内容や方法に, 意図, 工夫, 創作を込めようとする		
評価項目4	空想やイメージを豊かに描出表現し, 自由に, 大胆に, 工夫した画面の構成を生み出せる	空想やイメージを着想し, 自由に描いて画面の構成を工夫しよう努力できる	空想やイメージを発想できず, 描けず, 自由に画面構成ができない		
評価項目5	具象的なモデルの描写ではなく, 色彩と形態と構成を自由に操って主観的に抽象的な表現ができる	具象的にモデルを描写せず, 色彩と形態と空間構成による表現を工夫し, 抽象的に表現しようとする	具象的にモデルを描いて, 色彩, 形態, 構成の自由な工夫や抽象的な表現ができない		
評価項目6	描画材 (物質的特性) や描画行為 (身体性) を考察, 発見した内容を活かして創作することができる	描画材 (物質的特性) や描画行為 (身体性) を考察し, 自分の創作に活かそうと努力できる	描画材 (物質的特性) や描画行為 (身体性) を考察工夫せず, 作品や表現に応用しようとする		
評価項目7	柔軟で豊かな発想や感性や表現, 創作欲を身につけ, 発揮する	新鮮で個性的な発想や感性, 自分を表現することへの意欲がある。	発想や表現が消極的で工夫がなく, 表現意欲がない		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (iv)					
教育方法等					
概要	描写・表現・イメージ構想・色彩・構成・美・自分表現・創造など, 美術造形表現の基礎を学習。				
授業の進め方・方法	【授業方法】 テーマの説明, 参照作品 (図版) 解説紹介やヒントの提示, 試作習作・作品制作等により行う。 【学習方法】 テーマを理解, ヒントを取り込んで表現意欲と構想を生む。主体的, 創造的な作品の制作を行う。				
注意点	【成績の評価方法・評価基準】 作品やプランに関し 1. 課題の理解度 発想や構想を生む力 表現力 操作行く意欲 (50%) 2. 表現や作業への強いこだわりや工夫の有無 特別な努力の跡 作業・作品の完成度 (25%) 3. 制作造形の技能 絵画空間構成力 ユニークな美術造形感性の発揮 (25%) を上述の到達目標に基づき評価 【備考】 B～2 B の鉛筆または0.9～1.2mm芯シャープペンシルで制作する。彩色道具不要。 【教員の連絡先】 研究室 B棟2階 非常勤講師室 (B-206) 内線電話 8125				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	シラバス内容の説明 高校美術のガイダンス		
		2週	モデルを見て写實的に「描写」する	1, 2	
		3週	「見えるとおりに描く」から表現へ 表現のためにモデルを「大胆モデルに変形工夫=デフォルメ=」して個性的に描く (1)	2, 3	
		4週	「見えるとおりに描く」から表現へ 表現のためにモデルを「大胆モデルに変形工夫=デフォルメ=」して個性的に描く (2)	3, 4	

2ndQ	5週	絵画画面の中のカタチや色、動きの「配置・構成・構図」(1)	2, 3, 4
	6週	絵画画面の中のカタチや色、動きの「配置・構成・構図」(2)	4, 5
	7週	絵画画面の中のカタチや色、動きの「配置・構成・構図」(3)	4, 5
	8週	「空想」で描く イメージや不思議をあそぶ絵画(1)	2, 3, 4, 5
	9週	「空想」で描く イメージや不思議をあそぶ絵画(2)	4, 5
	10週	「空想」で描く イメージや不思議をあそぶ絵画(3)	7
	11週	「コラージュ」・「寄せ集め」、多視点的複合的表現の試み 自分のこと・もの=今/高専生生活/所有物/関心事 =のイメージの断片を絵画に構成して自分自身を表現(1)	1, 2, 3, 4
	12週	「コラージュ」・「寄せ集め」、多視点的複合的表現の試み 自分のこと・もの=今/高専生生活/所有物/関心事 =のイメージの断片を絵画に構成して自分自身を表現(2)	3, 4, 5
	13週	「コラージュ」・「寄せ集め」、多視点的複合的表現の試み 自分のこと・もの=今/高専生生活/所有物/関心事 =のイメージの断片を絵画に構成して自分自身を表現(3)	4, 5, 7
	14週	普段は現れることがない「鉛筆が秘め持つ表現力」を探り現す作業=鉛筆によるドローイング:描画行為=(1)	6, 7
	15週	普段は現れることがない「鉛筆が秘め持つ表現力」を探り現す作業=鉛筆によるドローイング:描画行為=(2)	6, 7
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ その他	合計	
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	100	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	芸術B
科目基礎情報					
科目番号	0008		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般科目		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	検定教科書「高校美術」(日本文教出版)				
担当教員	竹原 豊				
到達目標					
1 創意に富むアイデアをたくさんプランする 2 造形表現・デザインによる視覚的情報伝達を工夫する 3 映像体験を活用したアニメーションを構想する 4 構想を整理・編集して提案(プレゼンテーション)する 5 立体構成・空間造形の構想 6 機能と美 人間・生活と親和する道具や環境のデザインを考案する					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	創意に富むアイデアをたくさんプランする	創意あるアイデアを数多くプランニングできる	創意工夫, アイデアを生みず, 図示できない		
評価項目2	造形表現・デザインによる視覚的情報伝達ができる	造形表現・デザインを工夫し, 情報を個性化して伝達しようとする	造形表現・デザインの工夫が乏しく, 情報の伝達意欲を欠く		
評価項目3	映像体験を活用したアニメーションが発想豊かに構想できる	アニメーションを、動きを工夫して構想しようとする	アニメーションを動画・映像として、作る側からの考案ができない		
評価項目4	構想の整理・編集構成, 簡潔提示(プレゼンテーション)ができる	構想を多数生み, 伝えるべき内容を選定し, 見やすく図示できる	発想をまとめ, 他人に伝達するための提示ができない		
評価項目5	立体構成や空間造形の構想が巧みにできる	立体構成や空間造形に興味をもち, 試作, 考案や提案ができる	立体構成や空間造形が理解できず, 試作や考案が多様にできない		
評価項目6	人間・生活・社会と親和する道具や環境のデザインを考案できる	人間・生活と親和する道具や環境のデザインを工夫しようとする	生活周辺の道具や環境のデザインに無関心で, 提案ができない		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (iv)					
教育方法等					
概要	自分表現や創作的な造形工夫の追求, 仲間・同世代人や社会一般に対する意見メッセージを造形表現, 現実を考慮した提案型新デザインの考案等, 主体的・積極的な造形表現意欲や企画構想力, 創造力を育む。				
授業の進め方・方法	【授業方法】 テーマの説明, 参照制作(図版)解説紹介やヒントの提示, アイデアプランニング・プレゼンテーション(制作まとめ記録)・レポートの提出等により行う。 【学習方法】 課題を理解, 多数のアイデアをプランし, 簡潔で, 創造的なデザイン・制作・提案(プレゼンテーション)を生み出す。				
注意点	【成績の評価方法・評価基準】 プランやプレゼンテーションについて 1. 課題の理解度 創作的意欲 = 豊かな企画・発想を生む力 (40%) 2. デザインとしての社会性と実用性が考慮できる アイデアの伝達やプレゼンテーションができる (25%) 3. 感性や表現力, 造形力, 制作技能 (25%) を上述の到達目標に基づき評価 【教員の連絡先】 研究室 B棟2階 非常勤講師室 (B-206) 内線電話 8125				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	シラバス内容の説明 芸術B授業のガイダンス		
		2週	文字のデザイン アイデアプランニング		1
		3週	文字のデザイン アイデアのプレゼンテーション		1, 2
		4週	マークのデザイン プランニング		1, 2, 6
		5週	マークのデザイン プレゼンテーション		1, 2, 6
		6週	情報のデザイン プランニング 記事文案		1, 2, 4, 6
		7週	情報のデザイン イラストレーション 構成レイアウト		1, 2, 4, 6
		8週	情報のデザイン プレゼンテーション		1, 2, 4, 6
	4thQ	9週	紙を用いた立体造形 = 空間構成 = の試み 試作作業		1, 5
		10週	紙を用いた立体造形 = 空間構成 = の試み 作品制作へ		1, 5
		11週	便利道具・楽しいおもちゃ 企画構想 アイデアプランニング		1, 4, 6

	12週	便利道具・楽しい道具・おもちゃ プレゼンテーション	1, 4, 6
	13週	映像表現（アニメーション）のプラン 構想スケッチ	1, 2, 3, 4
	14週	映像表現（アニメーション）のプラン 構想スケッチ	1, 2, 3, 4
	15週	映像表現（アニメーション） 絵コンテ	1, 2, 3, 4
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	100	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	歴史総合 A	
科目基礎情報						
科目番号	0009		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般科目		対象学年	1		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	検定教科書『現代の歴史総合 みる・読みとく・考える』(山川出版社)					
担当教員	牧野 雅司					
到達目標						
1 19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。 2 異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	1. について説明できる。		1. について概ね説明できる。		1. について説明できない。	
評価項目2	2. について解釈できる。		2. について概ね解釈できる。		2. について解釈できない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 (iv)						
教育方法等						
概要	いくつかのトピックを通して日本を中心とした歴史の流れを習得する。また、地域の視点から日本の歴史を概観し、人々の営みについての理解を深める。					
授業の進め方・方法	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業は講義形式で行う。 ・スライドに沿って授業を行い、適宜教科書を参照する。 <p>【学習方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・板書を写すだけでなく、授業の内容をよく聞き、適宜メモを取ること。 					
注意点	<p>【成績の評価方法・評価基準】</p> <p>成績評価は、中間および期末試験の結果 (100%) により評価する。試験時間は50分とする。到達目標の習得度を評価基準とする。</p> <p>【備考】</p> <p>毎時間必ずノートと教科書を持参すること。</p> <p>【教員の連絡先】</p> <p>研究室 B棟3階 (B-309) 内線電話 8903 e-mail: m.makino@maizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること。)</p>					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	シラバスの内容の説明、歴史を学ぶにあたって	2		
		2週	近代化と私たち 天皇制と日本の古代	2		
		3週	近代化と私たち 中近世の天皇と武士	2		
		4週	近代化と私たち 近代天皇制の誕生	1, 2		
		5週	近代化と私たち 近代天皇制の展開	1, 2		
		6週	近代化と私たち 東アジア世界と日本	1, 2		
		7週	まとめと復習	1, 2		
		8週	中間試験			
	2ndQ	9週	前期中間試験の解答と解説			
		10週	東アジア世界の変容 近代日本と東アジア	1, 2		
		11週	東アジア世界の変容 軍隊の誕生	1		
		12週	東アジア世界の変容 日清・日露戦争	1, 2		
		13週	東アジア世界の変容 総力戦の時代	1		
		14週	東アジア世界の変容 第二次世界大戦	1		
		15週	まとめと復習	1, 2		
		16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・達成度確認			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。	3	
				民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	
				19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	3	

	工学基礎	グローバル ゼーション ・異文化多 文化理解	グローバル ゼーション ・異文化多 文化理解	異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	3	
--	------	---------------------------------	---------------------------------	----------------------------	---	--

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	歴史総合B
科目基礎情報					
科目番号	0010		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般科目		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	「現代の歴史総合 みる・読みとく・考える」(山川出版社), 「新詳地理資料COMPLETE2023」(帝国書院), 「高等地図帳」(二宮書店)				
担当教員	桑林 賢治				
到達目標					
1 地理情報の基礎を学び、世界の姿を正しく理解できる。 2 国際化の進む現代社会の実態について理解できる。 3 自然環境の差異とその生活への影響を理解できる。 4 民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。 5 世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。 6 地球的諸課題とその背景、および解決に向けた現在までの国際的な取り組みについて理解できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	地理情報の基礎を学び、世界の姿を十分に正しく理解できる。	地理情報の基礎を学び、世界の姿を正しく理解できる。	地理情報の基礎を学び、世界の姿を正しく理解できない。		
評価項目2	国際化の進む現代社会の実態について十分に理解できる。	国際化の進む現代社会の実態について理解できる。	国際化の進む現代社会の実態について理解できない。		
評価項目3	自然環境の差異とその生活への影響を十分に理解できる。	自然環境の差異とその生活への影響を理解できる。	自然環境の差異とその生活への影響を理解できない。		
評価項目4	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について十分に考察できる。	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できない。		
評価項目5	世界の資源、産業の分布や動向の概要を十分に説明できる。	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できない。		
評価項目6	地球的諸課題とその背景、および解決に向けた現在までの国際的な取り組みについて十分に理解できる。	地球的諸課題とその背景、および解決に向けた現在までの国際的な取り組みについて理解できる。	地球的諸課題とその背景、および解決に向けた現在までの国際的な取り組みについて理解できない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (iv)					
教育方法等					
概要	様々な自然環境や社会環境について理解を深め、多様な社会や人々と融和的に生きていく力を養う。				
授業の進め方・方法	【授業方法】 授業は講義形式で行う。 【学習方法】 板書を写すだけでなく、授業の内容をよく聞き、適宜メモを取ること。				
注意点	【成績の評価方法・評価基準】 中間・期末試験の2回の定期試験 (80%), および平常点 (20%) で成績を評価する。試験時間は50分とする。平常点は、授業時に課す小レポート等に基づいて評価する。 【備考】 授業の内容をよく聞き、適宜メモを取ること。 【教員の連絡先】 研究室 B棟2階 非常勤講師室				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	シラバス内容の説明、地理と現代史	1	
		2週	高度経済成長および安定成長と国内人口移動	6	
		3週	工業立地論	5	
		4週	都市・居住問題の展開	6	
		5週	都市の発達史	6	
		6週	農業の構造変化と農村	2, 3	
		7週	過疎、地域活性化とその課題	2	
		8週	中間試験		
	4thQ	9週	後期中間試験の解説		
		10週	ヨーロッパ地誌①: 農業立地と自然・人文環境	3, 4	
		11週	ヨーロッパ地誌②: ヨーロッパの統合と課題①	2, 4, 6	
		12週	ヨーロッパ地誌③: ヨーロッパの統合と課題②	2, 4, 6	

	13週	東南アジア地誌①：欧米による植民地支配とその影響	2, 4, 6
	14週	東南アジア地誌②：東西冷戦下の国づくり①	2, 4, 6
	15週	東南アジア地誌③：東西冷戦下の国づくり②	2, 4, 6
	16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・達成度確認	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14,後15

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	基礎数学A
科目基礎情報					
科目番号	0011		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科目		対象学年	1	
開設期	前期		週時間数	4	
教科書/教材	教科書: 佐々木良勝ほか「LIBRARY工学基礎 & 高専TEXT 基礎数学 [第2版]」(数理工学社) / 問題集: 佐々木良勝ほか「LIBRARY工学基礎 & 高専TEXT 基礎数学問題集 [第2版]」(数理工学社)				
担当教員	喜友名 朝也, 熊谷 大雅				
到達目標					
1 数と式の法則を理解し, 計算できる。 2 方程式と不等式の性質を理解し, 解ける。 3 関数の性質を理解し, グラフを描ける。 4 指数関数の性質を理解し, 計算できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	数と式の法則を理解し, 計算できるだけでなく, 他者に説明もできる。	数と式の法則を理解し, 計算できる。	数と式の法則を理解していない。		
評価項目2	方程式と不等式の性質を理解し, 解けるだけでなく, 他者に説明もできる。	方程式と不等式の性質を理解し, 解ける。	方程式と不等式の性質を理解していない。		
評価項目3	数の性質を理解し, グラフを描けるだけでなく, 他者に説明もできる。	関数の性質を理解し, グラフを描ける。	関数の性質を理解していない。		
評価項目4	指数関数の性質を理解し, 計算できるだけでなく, 他者に説明もできる。	指数関数の性質を理解し, 計算できる。	指数関数の性質を理解していない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (i)					
教育方法等					
概要	数学の基礎となる考え方や方法をしっかりと身につけることを目的として, 以下の内容を学習する。 数と式, 方程式と不等式, 関数とグラフ, 指数関数				
授業の進め方・方法	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書に沿って講義をする。 黒板を用いた板書が中心だが, 必要に応じて補助プリントを配布する。 適宜, 問題演習も行う。 必要に応じてレポート課題を課す。 <p>【学習方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 黒板の内容は必ずノートに取る。 教科書や問題集の問題を日頃から反復的に解く。 授業でわからなかったところはそのままにせず, 放課後などを利用して積極的に教員に質問すること。担当教員が不在の場合などは, 専任数学教員が対応する。 				
注意点	<p>【成績の評価方法・評価基準】</p> <p>定期試験を中間・期末の2回実施する。試験時間は90分とする。 成績は, 試験の結果 (60%) と課題の提出 (40%) によって総合的に評価する。 到達目標の各項目の到達度を評価基準とする。</p> <p>【備考】</p> <p>問題集を持参すること。</p> <p>【教員の連絡先】</p> <p>研究室 A棟2階 (喜友名: A-213 / 熊谷: A-211) 内線電話 喜友名: 8912 / 熊谷: 8957 e-mail 喜友名: t.kiyuna / 熊谷: t.kumagai : アットマーク maizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること)</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	シラバス内容の説明, 整式の加法・減法, 整式の乗法, 因数分解	1	
	2週	因数分解, 整式の除法, 組立除法, 剰余の定理と因数定理	1		
	3週	最大公約数・最小公倍数, 実数, 平方根, 分数式	1		
	4週	分数式, 2次方程式の解の公式, 複素数, 複素数の計算	1, 2		
	5週	複素数平面, 判別式, 解と係数の関係, 解の公式による因数分解	2		
	6週	連立方程式, いろいろな方程式, 1次不等式, 連立不等式, 2次不等式	2		
	7週	絶対値を含む方程式・不等式, 恒等式, 高次方程式・高次不等式	2		

	8週	中間試験	
2ndQ	9週	中間試験返却, シラバス内容の説明, 集合, 命題, 背理法, 等式の証明	2
	10週	不等式の証明, 独立変数と従属変数, 関数記号, 関数のグ`ラフ, 平行移動	2, 3
	11週	対称移動, 回転移動と拡大・縮小, 1次関数の最大値・最小値, 逆関数, 合成関数	3
	12週	2次関数のグ`ラフ, 2次方程式とグ`ラフ, 2次不等式とグ`ラフ	3
	13週	2次不等式とグ`ラフ, 2次関数の最大値・最小値, 無理関数	3
	14週	無理関数, 分数関数, へ`き関数, 偶関数・奇関数	3
	15週	指数の拡張 (0, 負の整数), 累乗根, 指数の拡張 (有理数), 指数関数とそのグ`ラフ	4
	16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・到達度確認	

モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	数学	数学	整式の加減乗除の計算や、式の展開ができる。	3	前1
			因数定理等を利用して、4次までの簡単な整式の因数分解ができる。	3	前2
			分数式の加減乗除の計算ができる。	3	前3,前4
			実数・絶対値の意味を理解し、絶対値の簡単な計算ができる。	3	前3
			平方根の基本的な計算ができる(分母の有理化も含む)。	3	前3
			複素数の相等を理解し、その加減乗除の計算ができる。	3	前5
			解の公式等を利用して、2次方程式を解くことができる。	3	前4,前5
			因数定理等を利用して、基本的な高次方程式を解くことができる。	3	前7
			簡単な連立方程式を解くことができる。	3	前6
			無理方程式・分数方程式を解くことができる。	3	前7
			1次不等式や2次不等式を解くことができる。	3	前6
			恒等式と方程式の違いを区別できる。	3	前7
			2次関数の性質を理解し、グラフをかくことができ、最大値・最小値を求めることができる。	3	前12,前13
			分数関数や無理関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	3	
			簡単な場合について、関数の逆関数を求め、そのグラフをかくことができる。	3	
累乗根の意味を理解し、指数法則を拡張し、計算に利用することができる。	3	前15			
指数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	3	前15			
指数関数を含む簡単な方程式を解くことができる。	3	前15			

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	40	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	40	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	基礎数学B
科目基礎情報					
科目番号	0012		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科目		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	4	
教科書/教材	教科書: 佐々木良勝ほか「LIBRARY工学基礎 & 高専TEXT 基礎数学 [第2版]」(数理工学社) / 問題集: 佐々木良勝ほか「LIBRARY工学基礎 & 高専TEXT 基礎数学問題集 [第2版]」(数理工学社)				
担当教員	喜友名 朝也, 熊谷 大雅				
到達目標					
1 対数関数の性質を理解し, 計算できる。 2 三角比と三角関数を理解し, 計算できる。 3 図形と式の性質を理解し, 計算できる。 4 場合の数の法則を理解し, 計算できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	対数関数の性質を理解し, 計算できるだけでなく, 他者に説明もできる。	対数関数の性質を理解し, 計算できる。	対数関数の性質を理解していない。		
評価項目2	三角比と三角関数を理解し, 計算できるだけでなく, 他者に説明もできる。	三角比と三角関数を理解し, 計算できる。	三角比と三角関数を理解していない。		
評価項目3	図形と式の性質を理解し, 計算できるだけでなく, 他者に説明もできる。	図形と式の性質を理解し, 計算できる。	図形と式の性質を理解していない。		
評価項目4	場合の数の法則を理解し, 計算できるだけでなく, 他者に説明もできる。	場合の数の法則を理解し, 計算できる。	場合の数の法則を理解していない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (i)					
教育方法等					
概要	数学の基礎となる考え方や方法をしっかりと身につけることを目的として, 以下の内容を学習する。 対数関数, 三角関数, 図形と式, 場合の数				
授業の進め方・方法	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書に沿って講義をする。 黒板を用いた板書が中心だが, 必要に応じて補助プリントを配布する。 適宜, 問題演習も行う。 必要に応じてレポート課題を課す。 <p>【学習方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 黒板の内容は必ずノートに取る。 教科書や問題集の問題を日頃から反復的に解く。 授業でわからなかったところはそのまませず, 放課後などを利用して積極的に教員に質問すること。担当教員が不在の場合などは, 専任数学教員が対応する。 				
注意点	<p>【成績の評価方法・評価基準】</p> <p>定期試験を中間・期末の2回実施する。試験時間は90分とする。 成績は, 試験の結果 (60%) と課題の提出 (40%) によって総合的に評価する。 到達目標の各項目の到達度を評価基準とする。</p> <p>【備考】</p> <p>問題集を持参すること。</p> <p>【教員の連絡先】</p> <p>研究室 A棟2階 (喜友名: A-213 / 熊谷: A-211) 内線電話 喜友名: 8912 / 熊谷: 8957 e-mail 喜友名: t.kiyuna / 熊谷: t.kumagai: アットマーク maizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること)</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	シラバ` ス内容の説明, 対数とその性質, 対数関数とそのグ` ラフ	1	
		2週	常用対数, 鋭角の三角比	1, 2	
		3週	三角比の拡張, 三角比の相互関係, 正弦定理	2	
		4週	余弦定理, 三角形の面積, 一般角, 弧度法	2	
		5週	三角関数の定義, 三角関数の相互関係, 三角関数の性質	2	
		6週	三角関数のグ` ラフ, 三角関数を含む方程式・不等式, 加法定理	2	
		7週	2倍角の公式, 半角の公式, 三角関数の合成, 積和の公式・和積の公式	2	
		8週	中間試験		

4thQ	9週	中間試験返却, シラバス内容の説明, 2点間の距離, 内分点と外分点, 直線の方程式	3
	10週	直線の方程式, 直線の平行と垂直, 軌跡と円, 楕円	3
	11週	楕円, 双曲線, 放物線	3
	12週	放物線, 2次曲線の平行移動, 2次曲線と直線, 不等式の表す領域	3
	13週	不等式の表す領域, 領域と線形計画法, 樹形図	3, 4
	14週	和の法則と積の法則, 階乗, 順列と組合せ	4
	15週	順列と組合せ, 二項定理, いろいろな問題	4
	16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・到達度確認	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	数学	数学	数学	対数の意味を理解し、対数を利用した計算ができる。	3	後1,後2
				対数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	3	後1
				対数関数を含む簡単な方程式を解くことができる。	3	後1
				角を弧度法で表現することができる。	3	後4,後5
				三角関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	3	後5
				加法定理および加法定理から導出される公式等を使うことができる。	3	後5,後6,後7
				三角関数を含む簡単な方程式を解くことができる。	3	後7
				三角比を理解し、簡単な場合について、三角比を求めることができる。	3	後2,後3
				一般角の三角関数の値を求めることができる。	3	後4
				2点間の距離を求めることができる。	3	後9
				内分点の座標を求めることができる。	3	後9
				2つの直線の平行・垂直条件を利用して、直線の方程式を求めることができる。	3	後10
				簡単な場合について、円の方程式を求めることができる。	3	後10
				放物線、楕円、双曲線の図形的な性質の違いを区別できる。	3	後10,後11,後12
簡単な場合について、不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表すことができる。	3	後12,後13				
積の法則と和の法則を利用して、簡単な事象の場合の数を数えることができる。	3	後14				
簡単な場合について、順列と組合せの計算ができる。	3	後14,後15				

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	40	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	40	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	基礎数学演習 A
科目基礎情報					
科目番号	0013		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般科目		対象学年	1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 佐々木良勝ほか「LIBRARY工学基礎 & 高専TEXT 基礎数学 [第2版]」(数理工学社) / 問題集: 佐々木良勝ほか「LIBRARY工学基礎 & 高専TEXT 基礎数学問題集 [第2版]」(数理工学社), 阿蘇和寿ほか「ドリルと演習シリーズ 基礎数学」(電気書院)				
担当教員	喜友名 朝也, 熊谷 大雅				
到達目標					
1 数と式の法則を理解し, 計算できる。 2 方程式と不等式の性質を理解し, 解ける。 3 2次関数の性質を理解し, グラフを描ける。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	理解した数と式の法則を使って, 応用問題が解ける。	数と式の法則を理解し, 計算できる。	数と式の法則を理解していない。		
評価項目2	理解した方程式と不等式の性質を使って, 応用問題が解ける。	方程式と不等式の性質を理解し, 解ける。	方程式と不等式の性質を理解していない。		
評価項目3	理解した2次関数の性質・グラフを使って, 応用問題が解ける。	2次関数の性質を理解し, グラフを描ける。	2次関数の性質を理解していない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (i)					
教育方法等					
概要	基礎数学Aで学んだ内容を理解し, その知識を定着させることを目的として演習を行う。				
授業の進め方・方法	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の内容に沿って, 問題集, 補助プリント, 指定のドリルなどを用いた演習を行う。 必要に応じてレポート課題を課す。 <p>【学習方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書, 問題集, ドリルを持参すること。 教科書や問題集の問題を日頃から反復的に解くこと。 授業でわからなかったところはそのままにせず, 放課後などを利用して積極的に教員に質問すること。担当教員が不在の場合などは, 専任数学教員が対応する。 				
注意点	<p>【成績の評価方法・評価基準】</p> <p>定期試験を中間・期末の2回実施する。試験時間は50分とする。 成績は, 試験の結果 (40%) と課題の提出 (60%) によって総合的に評価する。 到達目標の各項目の到達度を評価基準とする。</p> <p>【備考】</p> <p>分からない問題はそのままにせず, 放課後などを利用して教員に質問すること。担当教員が不在の場合などは, 専任数学教員に質問すること。</p> <p>【教員の連絡先】</p> <p>研究室 A棟2階 (喜友名: A-213 / 熊谷: A-211) 内線電話 喜友名: 8912 / 熊谷: 8957 e-mail 喜友名: t.kiyuna / 熊谷: t.kumagai : アットマーク maizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること)</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	シラバス内容の説明, 中学の復習	1	
		2週	基礎力診断テスト	1	
		3週	整式の加法・減法, 整式の乗法, 因数分解	1	
		4週	因数分解, 整式の除法, 組立除法, 剰余の定理と因数定理	1	
		5週	最大公約数・最小公倍数, 実数, 平方根, 分数式	1	
		6週	分数式, 2次方程式の解の公式, 複素数, 複素数の計算	1, 2	
		7週	複素数平面, 判別式, 解と係数の関係, 解の公式による因数分解	2	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	中間試験返却, シラバス内容の説明, 連立方程式, いろいろな方程式, 不等式	2	
		10週	絶対値を含む方程式・不等式, 恒等式, 高次方程式・高次不等式	2	
		11週	集合, 命題, 背理法, 等式の証明, 不等式の証明	2	
		12週	独立変数と従属変数, 関数記号, 関数のグラフ, 平行移動	3	

	13週	対称移動, 回転移動と拡大・縮小, 逆関数, 合成関数	3
	14週	2次関数のグラフ, 2次方程式とグラフ	3
	15週	2次不等式とグラフ, 2次関数の最大値・最小値	3
	16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・達成度確認	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	0	0	0	60	0	100
基礎的能力	40	0	0	0	60	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	基礎数学演習 B
科目基礎情報					
科目番号	0014		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般科目		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 佐々木良勝ほか「LIBRARY工学基礎 & 高専TEXT 基礎数学 [第2版]」(数理工学社) / 問題集: 佐々木良勝ほか「LIBRARY工学基礎 & 高専TEXT 基礎数学問題集 [第2版]」(数理工学社), 阿蘇和寿ほか「ドリルと演習シリーズ 基礎数学」(電気書院)				
担当教員	喜友名 朝也, 熊谷 大雅				
到達目標					
1 いろいろな関数の性質を理解し, 計算できる。 2 三角比と三角関数を理解し, 計算できる。 3 図形と式の性質を理解し, 計算できる。 4 場合の数の法則を理解し, 計算できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	理解したいろいろな関数の性質を使って, 応用問題が解ける。	いろいろな関数の性質を理解し, 計算できる。	いろいろな関数の性質を理解していない。		
評価項目2	理解した三角比と三角関数を使って, 応用問題が解ける。	三角比と三角関数を理解し, 計算できる。	三角比と三角関数を理解していない。		
評価項目3	理解した図形と式の性質を使って, 応用問題が解ける。	図形と式の性質を理解し, 計算できる。	図形と式の性質を理解していない。		
評価項目4	理解した場合の数の法則の知識を使って, 応用問題が解ける。	場合の数の法則を理解し, 計算できる。	場合の数の法則を理解していない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (i)					
教育方法等					
概要	基礎数学A・Bで学んだ内容を理解し, その知識を定着させることを目的として演習を行う。				
授業の進め方・方法	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の内容に沿って, 問題集, 補助プリント, 指定のドリルなどを用いた演習を行う。 必要に応じてレポート課題を課す。 <p>【学習方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書, 問題集, ドリルを持参すること。 教科書や問題集の問題を日頃から反復的に解くこと。 授業でわからなかったところはそのままにせず, 放課後などを利用して積極的に教員に質問すること。担当教員が不在の場合などは, 専任数学教員が対応する。 				
注意点	<p>【成績の評価方法・評価基準】</p> <p>定期試験を中間・期末の2回実施する。試験時間は50分とする。 成績は, 試験の結果 (40%) と課題の提出 (60%) によって総合的に評価する。 到達目標の各項目の到達度を評価基準とする。</p> <p>【備考】</p> <p>分からない問題はそのままにせず, 放課後などを利用して教員に質問すること。担当教員が不在の場合などは, 専任数学教員に質問すること。</p> <p>【教員の連絡先】</p> <p>研究室 A棟2階 (喜友名: A-213 / 熊谷: A-211) 内線電話 喜友名: 8912 / 熊谷: 8957 e-mail 喜友名: t.kiyuna / 熊谷: t.kumagai : アットマーク maizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること)</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	シラバス内容の説明, 無理関数, 分数関数, べき関数, 偶関数・奇関数	1	
		2週	指数の拡張 (0, 負の整数), 累乗根, 指数の拡張 (有理数), 指数関数とそのグラフ	1	
		3週	対数とその性質, 対数関数とそのグラフ, 常用対数	1	
		4週	鋭角の三角比, 三角比の拡張, 三角比の相互関係	2	
		5週	正弦定理, 余弦定理, 三角形の面積	2	
		6週	一般角, 弧度法	2	
		7週	三角関数の定義, 三角関数の相互関係, 三角関数の性質, 三角関数のグラフ	2	
		8週	中間試験		
	4thQ	9週	中間試験返却, シラバス内容の説明, 三角関数を含む方程式・不等式, 加法定理	2	
		10週	倍角の公式・半角の公式, 三角関数の合成, 積和の公式・和積の公式	2	
		11週	2点間の距離, 内分点と外分点	3	

	12週	直線の方程式, 直線の平行と垂直, 軌跡と円	3
	13週	楕円, 双曲線, 放物線, 2次曲線の平行移動	3
	14週	2次曲線と直線, 不等式の表す領域, 領域と線形計画法	3
	15週	樹形図, 和の法則と積の法則, 階乗, 順列と組合せ, 二項定理	4
	16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・達成度確認	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	0	0	0	60	0	100
基礎的能力	40	0	0	0	60	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	物理 I A
科目基礎情報					
科目番号	0015		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般科目		対象学年	1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	検定教科書「物理基礎」「物理」(第一学習者), 問題集「ネオバルノート物理基礎」「スタディノート物理」(第一学習社), 問題集「物理基礎学習ノート」(数研出版)				
担当教員	宝利 剛				
到達目標					
1 物体の直線運動・平面運動の表し方を理解する。 2 物体にはたらく力, 運動の法則を理解する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	直線運動・平面運動の変位, 速度, 加速度のベクトルを作図し, 向きや大きさを計算できる。		直線運動・平面運動の変位, 速度, 加速度を理解している。		直線運動・平面運動の変位, 速度, 加速度を理解していない。
評価項目2	物体の運動方程式を立て, それを解いて運動を求めることができる。		物体にはたらく力を理解し, 運動方程式を立てることができる。		物体にはたらく力を理解していない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (i)					
教育方法等					
概要	身の回りの様々な現象や自然の法則を理解するための, 物理の基礎を学ぶ。とくに, 力学について学習する。				
授業の進め方・方法	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業は講義に適宜, 演習を取り入れて行う。 毎回, 課題を出す。 <p>【学習方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 黒板の内容は必ずノートに取る。 予習をしておくことが好ましい。 ノートを見ながら復習を行い, 授業で配布したプリントや教科書・問題集の問題を解く。 分からないことがあれば質問すること。 				
注意点	<p>【成績の評価方法・評価基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中間試験と期末試験の2回の定期試験を行う。時間はそれぞれ50分とする。 2回の定期試験 (60%) とポートフォリオ (小テストやレポート課題) (40%) から総合的に成績を評価する。 到達目標への到達度を評価基準とする。 <p>【備考】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業中は, 電卓を使用してもよい。ただし, 定期試験での電卓の使用は不可。 <p>【教員の連絡先】</p> <p>研究室 A棟2階 (A-210) 内線電話 8917 e-mail: t.houri (後ろに@maizuru-ct.ac.jpをつける)</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング <input type="checkbox"/> ICT 利用 <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	シラバスの説明, 物理量の表し方	1	
		2週	直線上の運動: 速さ, 変位と速度, 等速直線運動, 速度の合成, 相対速度	1	
		3週	直線上の運動: 加速度, 等加速度直線運動	1	
		4週	直線上の運動: 落体の運動 (自由落下, 鉛直投射)	1	
		5週	平面内の運動: 変位と速度, 速度の合成と分解, 相対速度	1	
		6週	平面内の運動: 加速度, 等加速度直線運動	1	
		7週	平面内の運動: 落体の運動 (水平投射, 斜方投射)	1	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	中間試験返却・到達度確認, 力とそのはたらき	2	
		10週	力の合成と分解	2	
		11週	力のつりあい, 作用反作用	2	
		12週	運動の法則	2	
		13週	さまざまな運動	2	
		14週	摩擦を受ける運動	2	
		15週	液体や気体から受ける力	2	
		16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・到達度確認		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	自然科学	物理	力学	速度と加速度の概念を説明できる。	3	前2,前5
				直線および平面運動において、2物体の相対速度、合成速度を求めることができる。	3	前3,前4
				等加速度直線運動の公式を用いて、物体の座標、時間、速度に関する計算ができる。	3	前6,前7
				平面内を移動する質点の運動を位置ベクトルの変化として扱うことができる。	3	前2
				平均の速度、平均の加速度を計算することができる。	3	前5
				自由落下、及び鉛直投射した物体の座標、速度、時間に関する計算ができる。	3	前6
				水平投射、及び斜方投射した物体の座標、速度、時間に関する計算ができる。	3	前7
				物体に作用する力を図示することができる。	3	前9
				力の合成と分解をすることができる。	3	前10
				重力、抗力、張力、圧力について説明できる。	3	前9
				フックの法則を用いて、弾性力の大きさを求めることができる。	3	前9
				質点にはたらく力のつりあいの問題を解くことができる。	3	前11
				慣性の法則について説明できる。	3	前12
				作用と反作用の関係について、具体例を挙げて説明できる。	3	前12
				運動方程式を用いた計算ができる。	3	前12,前13,前14,前15
				運動の法則について説明できる。	3	前12
静止摩擦力がはたしている場合の力のつりあいについて説明できる。	3	前13				
最大摩擦力に関する計算ができる。	3	前13				
動摩擦力に関する計算ができる。	3	前13				

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	40	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	40	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	物理 I B
科目基礎情報					
科目番号	0016		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般科目		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	検定教科書「物理基礎」「物理」(第一学習者), 問題集「ネオバルノート物理基礎」「スタディノート物理」(第一学習社), 問題集「物理基礎学習ノート」(数研出版)				
担当教員	宝利 剛				
到達目標					
1 物体に働く力, 運動の法則を理解する。 2 仕事と力学的エネルギーについて理解する。 3 波の伝わり方と種類, 波の性質を理解する。 4 音波の伝わり方と発音体の振動, 共振・共鳴現象等を理解する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	剛体に働く力のモーメント・合力を求めることができる。	剛体に働く力のモーメントを理解している。	剛体に働く力を理解していない。		
評価項目2	力学的エネルギー保存則を用いて物体の運動を求めることができる。	仕事と力学的エネルギーを求めることができる。	仕事と力学的エネルギーを理解していない。		
評価項目3	波の性質を利用した様々な現象を計算から求めることができる。	波の伝わり方と種類・性質を理解している。	波の伝わり方と種類・性質を理解していない。		
評価項目4	音波の伝わり方と発音体の振動などを計算により説明できる。	音波の伝わり方と発音体の振動等を理解している。	音波の性質を理解していない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (i)					
教育方法等					
概要	身の回りの様々な現象や自然の法則を理解するための, 物理の基礎を学ぶ。最初に力学について学習し, 続いて波動について学習する。				
授業の進め方・方法	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業は講義に適宜, 演習を取り入れて行う。 ・ 毎回, 課題を出す。 <p>【学習方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 黒板の内容は必ずノートに取ること。 ・ 予習をしておくことが好ましい。 ・ ノートを見ながら復習を行い, 授業で配布したプリントや教科書・問題集の問題を解く。 ・ 分からないことがあれば質問すること。 				
注意点	<p>【成績の評価方法・評価基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中間試験と期末試験の2回の定期試験を行う。時間はそれぞれ50分とする。 ・ 2回の定期試験 (50%) とポートフォリオ (小テストやレポート課題) (50%) から総合的に成績を評価する。 ・ 到達目標への到達度を評価基準とする。 <p>【備考】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中は, 電卓を使用してもよい。ただし, 定期試験での電卓の使用は不可。 <p>【教員の連絡先】</p> <p>研究室 A棟2階 (A-210) 内線電話 8917 e-mail: t.houri (後ろに@maizuru-ct.ac.jpをつける)</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	シラバスの説明, 剛体に働く力・力のモーメント	1	
		2週	剛体に働く力の合力, 偶力, 重心	1	
		3週	剛体に働く力のつりあい	1	
		4週	仕事の原理と仕事量, 仕事と運動エネルギーの関係	2	
		5週	保存力と位置エネルギー	2	
		6週	力学的エネルギーの保存	2	
		7週	演習 (仕事と力学的エネルギー)	2	
		8週	中間試験		
	4thQ	9週	波の伝わり方と種類	3	
		10週	波の重ね合わせの原理, 波の干渉	3	
		11週	波の反射, 屈折, 回折	3	
		12週	音の伝わり方	4	
		13週	発音体の振動と共振・共鳴	4	
		14週	実験 (定常波)	4	

	15週	演習（波の性質・音波）	4
	16週	（15週目の後に期末試験を実施） 期末試験返却・到達度確認	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	自然科学	力学	仕事と仕事率に関する計算ができる。	3	後4,後7
			物体の運動エネルギーに関する計算ができる。	3	後4,後7
			重力による位置エネルギーに関する計算ができる。	3	後5,後7
			弾性力による位置エネルギーに関する計算ができる。	3	後5,後7
			力学的エネルギー保存則を様々な物理量の計算に利用できる。	3	後6,後7
			力のモーメントを求めることができる。	3	後1
			剛体における力のつり合いに関する計算ができる。	3	後2,後3
			重心に関する計算ができる。	3	後2,後3
		波動	波の振幅、波長、周期、振動数、速さについて説明できる。	3	後9
			横波と縦波の違いについて説明できる。	3	後9
			波の重ね合わせの原理について説明できる。	3	後10
			波の独立性について説明できる。	3	後10
			2つの波が干渉するとき、互いに強めあう条件と弱めあう条件について計算できる。	3	後10
			定常波の特徴(節、腹の振動のようすなど)を説明できる。	3	後10
		ホイヘンスの原理について説明できる。	3	後11	
		波の反射の法則、屈折の法則、および回折について説明できる。	3	後11	

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	0	0	0	50	0	100
基礎的能力	50	0	0	0	50	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	化学 I A
科目基礎情報					
科目番号	0017		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般科目		対象学年	1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	検定教科書「工業化学 1」(実教出版), 問題集「セミナー化学基礎+化学」(第一学習社), 参考書「フォトサイエンス化学図録」(数研出版), 教材「HGS分子構造模型 有機化学学生用セット」(丸善出版)				
担当教員	小島 広孝				
到達目標					
1 物質の構成について理解する。 2 固体の性質について理解する。 3 物質量, 化学反応式について理解する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	物質の構成について十分に理解している。		物質の構成について基本を理解している。		物質の構成について理解していない。
評価項目2	固体の性質について十分に理解している。		固体の性質について基本を理解している。		固体の性質について理解していない。
評価項目3	物質量, 化学反応式について十分に理解している。		物質量, 化学反応式について基本を理解している。		物質量, 化学反応式について理解していない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (i)					
教育方法等					
概要	素材として物質を扱う技術者にとって物質の知識は必須であるだけでなく、膨大な物質に囲まれている現代社会において生きるための技術である。化学の扱う領域は物質科学すべてを包括し複雑多岐にわたり、自然法則を物質の側面から捉える化学は自然科学の中心に位置している。 本授業では化学に関する基本的な事項、物質の構成、固体の性質、物質量、化学反応式について理解する。				
授業の進め方・方法	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業は講義に一部演習を取り入れて行う。 スライドを用いて授業を行い、適宜教科書、参考書を参照する。 適宜授業後に確認テストを出題する。また、必要に応じてレポート課題を出す。 <p>【学習方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 板書を写すだけでなく、授業の内容をよく聞き、適宜メモを取る。 確認テストを利用して講義内容を復習すること。 化学科目の内容は積み重ねであるため、もし分からないことがあれば放置せず、オンライン、オフラインを問わず質問すること。 				
注意点	<p>【成績の評価方法・評価基準】</p> <p>定期試験を行う。時間は50分とする。試験(60%)と、その他レポート・確認テスト等(40%)から、総合的に成績を評価する。到達目標への到達度を評価基準とする。</p> <p>【備考】</p> <p>スライドの印刷物の配布は行わない。必要に応じて印刷し持参すること。 スライドを閲覧する目的に限り、タブレットやノートパソコン等の持ち込みを許可する。 課題は授業の復習を主な目的としているため、期限直前に提出することのないこと。</p> <p>【教員の連絡先】</p> <p>研究室 A棟2階(A-212) 内線電話 8940 e-mail: h.kojima@maizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること。)</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	シラバス内容の説明		
		2週	人の暮らしと化学	1	
		3週	物質の構成と原子の構造	1	
		4週	電子配置とイオンの生成	1	
		5週	イオン結合	1	
		6週	共有結合	1	
		7週	配位結合	1	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	中間試験返却, 金属結合	1	
		10週	分子間力	1	
		11週	結晶格子1	2	
		12週	結晶格子2	2	
		13週	物理変化と化学変化	3	
		14週	原子量と物質量	3	

	15週	水と空気	1
	16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・到達度確認	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	自然科学	化学(一般)	化学(一般)	代表的な金属やプラスチックなど有機材料について、その性質、用途、また、その再利用など生活とのかかわりについて説明できる。	3	
				洗剤や食品添加物等の化学物質の有効性、環境へのリスクについて説明できる。	3	
				物質が原子からできていることを説明できる。	3	
				単体と化合物がどのようなものか具体例を挙げて説明できる。	3	
				同素体がどのようなものか具体例を挙げて説明できる。	3	
				純物質と混合物の区別が説明できる。	3	
				物質を構成する分子・原子が常に運動していることが説明できる。	3	
				水の状態変化が説明できる。	3	
				物質の三態とその状態変化を説明できる。	3	
				原子の構造(原子核・陽子・中性子・電子)や原子番号、質量数を説明できる。	3	
				同位体について説明できる。	3	
				放射性同位体とその代表的な用途について説明できる。	3	
				原子の電子配置について電子殻を用い書き表すことができる。	3	
				価電子の働きについて説明できる。	3	
				原子のイオン化について説明できる。	3	
				代表的なイオンを化学式で表すことができる。	3	
				原子番号から価電子の数を見積もることができ、価電子から原子の性質について考えることができる。	3	
				元素の性質を周期表(周期と族)と周期律から考えることができる。	3	
				イオン式とイオンの名称を説明できる。	3	
				イオン結合について説明できる。	3	
				イオン結合性物質の性質を説明できる。	3	
				イオン性結晶がどのようなものか説明できる。	3	
				共有結合について説明できる。	3	
				構造式や電子式により分子を書き表すことができる。	3	
				自由電子と金属結合がどのようなものか説明できる。	3	
				金属の性質を説明できる。	3	
				原子の相対質量が説明できる。	3	
				天然に存在する原子が同位体の混合物であり、その相対質量の平均値として原子量を用いることを説明できる。	3	
	アボガド定数を理解し、物質量(mol)を用い物質の量を表すことができる。	3				
	分子量・式量がどのような意味をもつか説明できる。	3				
	気体の体積と物質量の関係を説明できる。	3				
	化学反応を反応物、生成物、係数を理解して組み立てることができる。	3				
	化学反応を用いて化学量論的な計算ができる。	3				

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	40	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	40	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	化学 I B
科目基礎情報					
科目番号	0018		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般科目		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	検定教科書「工業化学 1」(実教出版), 問題集「セミナー化学基礎+化学」(第一学習社), 参考書「フォトサイエンス化学図録」(数研出版), 教材「HGS分子構造模型 有機化学学生用セット」(丸善出版)				
担当教員	小島 広孝				
到達目標					
1 溶液の性質について理解する。 2 酸・塩基について理解する。 3 気体の性質について理解する。 4 典型元素について理解する。 5 実験を行い, 結果をレポートにまとめる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	溶液の性質について十分に理解している。	溶液の性質について基本を理解している。	溶液の性質について理解していない。		
評価項目2	酸・塩基について十分に理解している。	酸・塩基について基本を理解している。	酸・塩基について理解していない。		
評価項目3	気体の性質について十分に理解している。	気体の性質について基本を理解している。	気体の性質について理解していない。		
評価項目4	典型元素について十分に理解している。	典型元素について基本を理解している。	典型元素について理解していない。		
評価項目5	正しく実験を行い, 結果を適切にレポートにまとめることができる。	実験を行い, 結果をレポートにまとめることができる。	実験を行い, 結果をレポートにまとめることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (i)					
教育方法等					
概要	素材として物質を扱う技術者にとって物質の知識は必須であるだけでなく, 膨大な物質に囲まれている現代社会において生きるための技術である。化学の扱う領域は物質科学すべてを包括し複雑多岐にわたり, 自然法則を物質の側面から捉える化学は自然科学の中心に位置している。 本授業では化学に関する基本的な事項, 溶液の性質, 酸・塩基, 気体の性質, 典型元素について理解する。				
授業の進め方・方法	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業は講義に一部演習を取り入れて行う。 ・スライドを用いて授業を行い, 適宜教科書, 参考書を参照する。 ・適宜授業後に確認テストを出題する。また, 必要に応じてレポート課題を出す。 <p>【学習方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・板書を写すだけでなく, 授業の内容をよく聞き, 適宜メモを取ること。 ・確認テストを利用して講義内容を復習すること。 ・化学科目の内容は積み重ねであるため, もし分からないことがあれば放置せず, オンライン, オフラインを問わず質問すること。 				
注意点	<p>【成績の評価方法・評価基準】</p> <p>定期試験を行う。時間は50分とする。試験 (60%) と, その他レポート・確認テスト等 (40%) から, 総合的に成績を評価する。到達目標への到達度を評価基準とする。</p> <p>【備考】</p> <p>スライドの印刷物の配布は行わない。必要に応じて印刷し持参すること。 スライドを閲覧する目的に限り, タブレットやノートパソコン等の持ち込みを許可する。 課題は授業の復習を主な目的としているため, 期限直前に提出することのないこと。</p> <p>【教員の連絡先】</p> <p>研究室 A棟2階 (A-212) 内線電話 8940 e-mail: h.kojima@maizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること。)</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	シラバス内容の説明, 溶液の濃度	1	
		2週	希薄溶液の性質	1	
		3週	コロイド	1	
		4週	酸・塩基	2	
		5週	中和	2	
		6週	塩	2	
		7週	中和滴定実験	2, 5	
		8週	中間試験		
	4thQ	9週	中間試験返却, いろいろな気体1	3	

	10週	いろいろな気体2	3
	11週	気体の性質	3
	12週	混合気体	3
	13週	典型元素1	4
	14週	典型元素2	4
	15週	無機化学実験	3, 4, 5
	16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・到達度確認	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	自然科学	化学(一般)	ボイルの法則、シャルルの法則、ボイル-シャルルの法則を説明でき、必要な計算ができる。	3	
			気体の状態方程式を説明でき、気体の状態方程式を使った計算ができる。	3	
			電離について説明でき、電解質と非電解質の区別ができる。	3	
			質量パーセント濃度の説明ができ、質量パーセント濃度の計算ができる。	3	
			モル濃度の説明ができ、モル濃度の計算ができる。	3	
			酸・塩基の定義(ブレンステッドまで)を説明できる。	3	
			酸・塩基の化学式から酸・塩基の価数をつけることができる。	3	
			電離度から酸・塩基の強弱を説明できる。	3	
			pHを説明でき、pHから水素イオン濃度を計算できる。また、水素イオン濃度をpHに変換できる。	3	
			中和反応がどのような反応であるか説明できる。	3	
	中和滴定の計算ができる。	3			
	化学実験	化学実験	測定と測定値の取り扱いができる。	3	
			有効数字の概念・測定器具の精度が説明できる。	3	
			レポート作成の手順を理解し、レポートを作成できる。	3	
			ガラス器具の取り扱いができる。	3	
			基本的な実験器具に関して、目的に応じて選択し正しく使うことができる。	3	
			試薬の調製ができる。	3	
			代表的な気体発生の実験ができる。	3	
代表的な無機化学反応により沈殿を作り、ろ過ができる。			3		

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	40	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	40	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	保健体育 I
科目基礎情報					
科目番号	0019		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科目		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書 和唐正勝他著「現代保健体育」(大修館)/ 教材 近畿地区高等専門学校体育研究会編「保健体育概論(改訂新版)」(晃洋書房)				
担当教員	小野 伸一郎, 佐々木 保江, 木村 健二				
到達目標					
1 積極的に運動し, 運動を楽しみ, 協力や責任を果すことができる。 2 課題の解決を目指し, 活動を工夫できる。 3 運動技術を理解し, 運動技能を高めることができる。 4 技術・健康・体力に関する事項を理解し, 身につけることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目 1	積極的に運動し, 運動を楽しみ, 協力や責任を果すことができる。	運動し, 運動を楽しみ, 協力や責任を果すことができる。	運動し, 運動を楽しみ, 協力や責任を果すことができない。		
評価項目 2	積極的に課題の解決を目指し, 活動を工夫できる。	課題の解決を目指し, 活動を工夫できる。	課題の解決を目指し, 活動を工夫できない。		
評価項目 3	積極的に運動技術を理解し, 運動技能を高めることができる。	運動技術を理解し, 運動技能を高めることができる。	運動技術を理解し, 運動技能を高めることができない。		
評価項目 4	十分に技術・健康・体力に関する事項を理解し, 身につけることができる。	技術・健康・体力に関する事項を理解し, 身につけることができる。	技術・健康・体力に関する事項を理解し, 身につけることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (v)					
教育方法等					
概要	健康・安全や運動についての理解と運動の合理的・計画的な実践を通して, 生涯にわたる豊かなスポーツライフを維持する資質や能力を育てると共に, 明るく豊かで活力のある生活を営む態度を育てることを目的とする。				
授業の進め方・方法	【授業方法】 ・毎回の授業は実技を中心に行う。 ・授業内容については天候等により順序変更を行う。 ・体調の変化について自己管理すると同時に, 体調不良の場合は担当教員に報告すること。健康および安全に留意して授業に参加すること。 【学習方法】 ・レポートについては授業中に詳細を説明する。				
注意点	【成績の評価方法・評価基準】 1. 関心・意欲・態度, 2. 思考・判断, 3. 運動の技能, 4. 知識・理解, の4つの観点から, 実技参加態度点70%, レポート5%および50分の理論試験(後期期末試験)25%の比率で評価する。 【備考】 運動着・ジャージ, 運動にふさわしいシューズを着用すること。 【教員の連絡先】 研究室 B棟3階 小野 (B-302) 研究室 A棟2階 木村 (A-207) 内線電話 8910(小野)、8915(木村) e-mail: onoアットマークmaizuru-ct.ac.jp (小野) , k.kimuraアットマークmaizuru-ct.ac.jp (木村)				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	シラバス内容の説明, オリエンテーション, 体カトレニング	1, 2, 3	
		2週	体カトレニング	1, 2, 3	
		3週	陸上競技(短距離:100m走)練習及び記録測定	1, 2, 3	
		4週	陸上競技(短距離4×100mリレー, 4×400mリレー)練習及び記録測定	1, 2, 3	
		5週	陸上競技(跳躍:走り幅跳び)練習, (長距離:1500m走)記録測定	1, 2, 3	
		6週	陸上競技(跳躍:走り幅跳び)記録測定	1, 2, 3	
		7週	陸上競技予備	1, 2, 3	
		8週	レポート(スポーツの科学)	4	
	2ndQ	9週	水泳(オリエンテーション, プール清掃および水慣れ)	1, 2, 3	
		10週	水泳 基礎1(クロール, 平泳ぎ, 背泳ぎ, バタフライ, 潜水の泳法練習)	1, 2, 3	

後期		11週	水泳 基礎2 (ブルブイ・ビート板による基礎泳法技術の習得と25m泳)	1, 2, 3	
		12週	水泳 基礎3 (基礎泳法の定着、長距離泳)	1, 2, 3	
		13週	水泳 テスト種目の練習 (クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ、潜水、25m自由形、100泳)	1, 2, 3	
		14週	水泳 テスト	1, 2, 3	
		15週	ソフトバレーボール	1, 2, 3	
		16週			
	3rdQ	1週	陸上競技 持久走及び走り高跳び (ハサミ跳び、ベリーロール)	1, 2, 3	
		2週	陸上競技 持久走及び走り高跳び (記録測定)	1, 2, 3	
		3週	陸上競技 持久走・野外走 (5km)	1, 2, 3	
		4週	陸上競技 持久走・野外走 (5km)	1, 2, 3	
		5週	陸上競技 駅伝	1, 2, 3	
		6週	ソフトバレーボール	1, 2, 3	
		7週	バドミントン (基本技術の習得, ゲーム法)	1, 2, 3	
		8週	バドミントン (基本技術の習得, ゲーム法)	1, 2, 3	
		4thQ	9週	バドミントン (基本技術の習得, ゲーム法)	1, 2, 3
			10週	保健体育理論 「薬物依存、喫煙・飲酒と健康」	4
11週	バドミントン (基本技術の習得, シングルスゲーム)		1, 2, 3		
12週	保健体育理論 「スポーツトレーニング」		4		
13週	バドミントン (ハーフコート・シングルスゲーム)		1, 2, 3		
14週	保健体育理論 「思春期の性, 男と女の性」		4		
15週	バドミントン (ハーフコート・シングルスゲーム)		1, 2, 3		
16週	(15週の後)に期末試験を実施) 期末試験返却・到達度確認				

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ その他	合計
総合評価割合	25	0	0	70	5 0	100
基礎的能力	25	0	0	70	5 0	100

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	保健体育 I (女子)
科目基礎情報					
科目番号	0020		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科目		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書 衛藤隆他著「現代高等保健体育」/ 教材 近畿地区高等専門学校体育研究会編「保健体育概論 (改訂新版)」				
担当教員	堀田 和美, 木村 健二				
到達目標					
1 積極的に運動し, 運動を楽しみ, 協力や責任を果すことができる。 2 課題の解決を目指し, 活動を工夫できる。 3 運動技術を理解し, 運動技能を高めることができる。 4 技術・健康・体力に関する事項を理解し, 身につけることができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	積極的に運動し, 運動を楽しみ, 協力や責任を果すことができる。	運動し, 運動を楽しみ, 協力や責任を果すことができる。	運動し, 運動を楽しみ, 協力や責任を果すことができない。		
評価項目2	積極的に課題の解決を目指し, 活動を工夫できる。	課題の解決を目指し, 活動を工夫できる。	課題の解決を目指し, 活動を工夫できない。		
評価項目3	積極的に運動技術を理解し, 運動技能を高めることができる。	運動技術を理解し, 運動技能を高めることができる。	運動技術を理解し, 運動技能を高めることができない。		
評価項目4	十分に技術・健康・体力に関する事項を理解し, 身につけることができる。	技術・健康・体力に関する事項を理解し, 身につけることができる。	技術・健康・体力に関する事項を理解し, 身につけることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (v)					
教育方法等					
概要	健康・安全や運動についての理解と運動の合理的・計画的な実践を通して, 生涯にわたる豊かなスポーツライフを維持する資質や能力を育てると共に, 明るく豊かで活力のある生活を営む態度を育てることを目的とする。				
授業の進め方・方法	【授業方法】 授業内容については天候等により順序変更を行う。体調の変化について自己管理すると同時に, 担当教員に報告し, 健康および安全に留意して授業に参加する。 【学習方法】 レポートについては授業中に詳細を説明する。				
注意点	【成績の評価方法・評価基準】 1. 関心・意欲・態度, 2. 思考・判断, 3. 運動の技能, 4. 知識・理解, の4つの観点から, 実技点75%および50分の理論試験 (後期末試験) 25%の比率で評価する。 【備考】 運動着・ジャージ, 運動にふさわしいシューズを着用すること。 【教員の連絡先】 研究室 B棟3階 小野 (B-302) 研究室 A棟2階 木村 (A-207) 内線電話 8910(小野)、8915(木村) e-mail: onoアットマークmaizuru-ct.ac.jp (小野) , k.kimuraアットマークmaizuru-ct.ac.jp (木村)				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	シラバス内容の説明, オリエンテーション, 体カトレーニング	1, 2, 3	
		2週	陸上競技 (短距離: 50m走) 練習及び記録測定	1, 2, 3	
		3週	陸上競技 (4種競技: 100m走, 走幅跳び, ボール投げ, 1000m走) 練習及び記録測定	1, 2, 3	
		4週	陸上競技 (短距離 4 × 100mリレー) 練習及び記録測定	1, 2, 3	
		5週	ソフトボール 基本技術の習得	1, 2, 3	
		6週	ソフトボール ゲーム技術の習得	1, 2, 3	
		7週	ソフトボール ゲーム	1, 2, 3	
		8週	レポート (スポーツの科学)	1, 2, 3	
	2ndQ	9週	水泳 (水慣れおよび各種泳法)	1, 2, 3	
		10週	水泳 基礎 1 (クロール, 平泳ぎ, 背泳ぎ, バタフライ, 潜水の泳法練習)	1, 2, 3	
		11週	水泳 基礎 2 (ブルブイ・ビート板による基礎泳法技術の習得と25m泳)	1, 2, 3	
		12週	水泳 基礎 3 (基礎泳法の定着, 長距離泳175m)	1, 2, 3	

		13週	水泳 基礎4 (クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ、潜水、25m自由形)	1, 2, 3
		14週	水泳 短距離泳およびテスト種目の練習 (潜水, 長距離泳, 短距離泳)	1, 2, 3
		15週	水泳 テスト (潜水, 長距離泳, 短距離泳)	1, 2, 3
		16週		
後期	3rdQ	1週	シラバス内容の説明, 陸上競技 跳躍: 走高跳び, 長距離: 持久走	1, 2, 3
		2週	陸上競技 跳躍: 走高跳び, 長距離: 持久走	1, 2, 3
		3週	陸上競技 持久走 (6km)	1, 2, 3
		4週	陸上競技 持久走 (6km)	1, 2, 3
		5週	バスケットボールとソフトバレーボール 基本技術の習得	1, 2, 3
		6週	バスケットボールとソフトバレーボール ゲーム技術の習得	1, 2, 3
		7週	バスケットボールとソフトバレーボール ゲーム	1, 2, 3
		8週	レポート (スポーツの科学)	4
	4thQ	9週	バドミントン 基本技術の習得, シングルスゲームのルール	1, 2, 3
		10週	保健体育理論 「心身の成熟と思春期の性」	4
		11週	バドミントン ハーフコートシングルスゲーム	1, 2, 3
		12週	保健体育理論 「健康と生活習慣」	4
		13週	バドミントン ゲーム技術の習得, ダブルスゲームのルール	1, 2, 3
		14週	保健体育理論 「受精・妊娠・出産と育児」	4
		15週	バドミントンダブルスゲーム	1, 2, 3
		16週	(15週の後)に期末試験を実施) 期末試験返却・到達度確認	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	25	0	0	70	5	0	100
基礎的能力	25	0	0	70	5	0	100

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	総合英語Ⅱ A
科目基礎情報					
科目番号	0021		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科目		対象学年	2	
開設期	前期		週時間数	4	
教科書/教材	検定教科書「Ambition English Communication II」(開隆堂), いいずな書店編集部「Evergreen English Grammar 25 Lessons」(いいずな書店), 桐原書店編集部「Data Base 3000」(桐原書店) / 参考書: 川崎芳人「Evergreen」(いいずな書店)				
担当教員	藤田 憲司				
到達目標					
1 聞き手に伝わるよう, 句・文における基本的なリズムやイントネーション, 音のつながりに配慮して, 音読あるいは発話できる。 2 明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう, 英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。 3 説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。 4 平易な英語で書かれた文章を読み, その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	聞き手に伝わるよう, 句・文における基本的なリズムやイントネーション, 音のつながりに配慮して, 音読あるいは発話を適切に行うことができる。	聞き手に伝わるよう, 句・文における基本的なリズムやイントネーション, 音のつながりに配慮して, 音読あるいは発話をする程度行うことができる。	聞き手に伝わるよう, 句・文における基本的なリズムやイントネーション, 音のつながりに配慮して, 音読あるいは発話を適切に行うことができない。		
評価項目2	明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう, 英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう, 英語の発音・アクセントの規則を習得してある程度運用できる。	明瞭で聞き手に伝わるような発話ができず, 英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できない。		
評価項目3	説明や物語などの文章を毎分 100 語程度の速度で聞き手に伝わるように音読が十分にできる。	説明や物語などの文章を毎分 100 語程度の速度で聞き手に伝わるように音読がある程度できる。	説明や物語などの文章を毎分 100 語程度の速度で聞き手に伝わるように音読することができない。		
評価項目4	平易な英語で書かれた文章を読み, その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	平易な英語で書かれた文章を読み, その概要を把握し必要な情報がある程度読み取ることができる。	平易な英語で書かれた文章を読み, その概要を把握し必要な情報を読み取ることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (iv)					
教育方法等					
概要	様々なジャンルの英語に触れながら, 「読む」「書く」「聴く」「話す」の4技能を総合的に学ぶ。特に, 英語の構文を身につけ, 英語による理解や自己表現ができるようになるための基礎を養う。				
授業の進め方・方法	【授業方法】 週2回の授業でリーディングと文法を並行して学ぶ。リーディングについては予習を前提としたうえで, 単語の発音, 本文の聴き取りと音読, 意味の理解を中心として, 発音と読解力の基礎を身につける。文法については例文の説明と練習問題を通して, 英語表現の基礎となる文法構造を身につける。適宜, 課題, 小テスト, 発表等を課す。 【学習方法】 毎回事前に, 分からない単語の品詞と意味を辞書で調べ, 自分自身の単語帳を作成し, ノートに教科書の英文を筆写し, 訳文を書いて授業に臨むこと。授業には辞書を持参すること。復習として, 毎日繰り返し英文筆写と音読を怠らないこと。				
注意点	【成績の評価方法・評価基準】 2回の定期試験を行う。時間は50分とする。2回の試験の平均(60%)と, 小テスト・課題・発表・演習(40%)から総合的に成績を評価する。上述の到達目標, 授業に対する積極的な取り組み, 授業内容の理解および運用力への到達を評価基準とする。 【備考】 毎回, 参考書と辞書を持参すること。 【教員の連絡先】 研究室: A棟3階(A-303) 内線電話: 8900 E-mail: k.fujita アットマーク maizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること)				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	シラバス内容の説明 英文読解, Grammar Lesson 14 分詞(1)	1, 2, 3, 4	
		2週	英文読解, Grammar Lesson 15 分詞(2)	1, 2, 3, 4	
		3週	英文読解, Grammar Lesson 16 分詞(3)	1, 2, 3, 4	
		4週	英文読解, Grammar Plus 分詞	1, 2, 3, 4	
		5週	英文読解, Grammar Review	1, 2, 3, 4	
		6週	英文読解, Grammar Review	1, 2, 3, 4	
		7週	英文読解, Grammar Review	1, 2, 3, 4	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	英文読解, Grammar Lesson 17 比較(1)	1, 2, 3, 4	

	10週	英文読解, Grammar Lesson 18 比較 (2)	1, 2, 3, 4
	11週	英文読解, Grammar Plus 比較	1, 2, 3, 4
	12週	英文読解, Grammar Review	1, 2, 3, 4
	13週	英文読解, Grammar Review	1, 2, 3, 4
	14週	英文読解, Grammar Review	1, 2, 3, 4
	15週	英文読解, Grammar Review	1, 2, 3, 4
	16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・達成度確認	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	2	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15
			英語運用の基礎となる知識	明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	2	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15
			英語運用能力の基礎固め	説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	2	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15
			英語運用能力の基礎固め	平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	2	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	40	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	40	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	総合英語ⅡB
科目基礎情報					
科目番号	0022		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科目		対象学年	2	
開設期	後期		週時間数	4	
教科書/教材	検定教科書「Ambition English Communication II」(開隆堂), いいずな書店編集部「Evergreen English Grammar 25 Lessons」(いいずな書店), 桐原書店編集部「Data Base 3000」(桐原書店) / 参考書: 川崎芳人「Evergreen」(いいずな書店)				
担当教員	岡下 朋世				
到達目標					
1 聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。 2 明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。 3 説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。 4 平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話を適切に行うことができる。		聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話がある程度行うことができる。		聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話を適切に行うことができない。
評価項目2	明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。		明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得してある程度運用できる。		明瞭で聞き手に伝わるような発話ができず、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できない。
評価項目3	説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読が十分にできる。		説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読がある程度できる。		説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読することができない。
評価項目4	平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。		平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報がある程度読み取ることができる。		平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (iv)					
教育方法等					
概要	様々なジャンルの英語に触れながら、「読む」「書く」「聴く」「話す」の4技能を総合的に学ぶ。特に、英語の構文を身につけ、英語による理解や自己表現ができるようになるための基礎を養う。				
授業の進め方・方法	【授業方法】 週2回の授業でリーディングと文法を並行して学ぶ。リーディングについては予習を前提としたうえで、単語の発音、本文の聴き取りと音読、意味の理解を中心として、発音と読解力の基礎を身につける。文法については例文の説明と練習問題を通して、英語表現の基礎となる文法構造を身につける。適宜、課題、小テスト、発表等を課す。 【学習方法】 毎回事前に、分からない単語の品詞と意味を辞書で調べ、自分自身の単語帳を作成し、ノートに教科書の英文を筆写し、訳文を書いて授業に臨むこと。授業には辞書を持参すること。復習として、毎日繰り返し英文筆写と音読を怠らないこと。				
注意点	【成績の評価方法・評価基準】 2回の定期試験を行う。時間は50分とする。2回の試験の平均(60%)と、小テスト・課題・発表・演習(40%)から総合的に成績を評価する。上述の到達目標、授業に対する積極的な取り組み、授業内容の理解および運用力への到達を評価基準とする。 【備考】 毎回、参考書と辞書を持参すること。 【教員の連絡先】 研究室: A棟3階(A-302) 内線電話: 8909 E-mail: e.hirao アットマーク maizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること)				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	シラバス内容の説明 英文読解, Grammar Lesson 19 関係詞 (1)	1, 2, 3, 4	
		2週	英文読解, Grammar Lesson 20 関係詞 (2)	1, 2, 3, 4	
		3週	英文読解, Grammar Lesson 21 関係詞 (3)	1, 2, 3, 4	
		4週	英文読解, Grammar Plus 関係詞	1, 2, 3, 4	
		5週	英文読解, Grammar Review	1, 2, 3, 4	
		6週	英文読解, Grammar Review	1, 2, 3, 4	
		7週	英文読解, Grammar Review	1, 2, 3, 4	
		8週	中間試験		
	4thQ	9週	英文読解, Grammar Lesson 22 仮定法 (1)	1, 2, 3, 4	

	10週	英文読解, Grammar Lesson 23 仮定法 (2)	1, 2, 3, 4
	11週	英文読解, Grammar Plus 仮定法	1, 2, 3, 4
	12週	英文読解, Grammar Lesson 24 否定	1, 2, 3, 4
	13週	英文読解, Grammar Lesson 25 接続詞	1, 2, 3, 4
	14週	英文読解, Grammar Review	1, 2, 3, 4
	15週	英文読解, Grammar Review	1, 2, 3, 4
	16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・達成度確認	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	2	後1, 後2, 後3, 後4, 後5, 後6, 後7, 後9, 後10, 後11, 後12, 後13, 後14, 後15
			英語運用の基礎となる知識	明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	2	後1, 後2, 後3, 後4, 後5, 後6, 後7, 後9, 後10, 後11, 後12, 後13, 後14, 後15
			英語運用能力の基礎固め	説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	2	後1, 後2, 後3, 後4, 後5, 後6, 後7, 後9, 後10, 後11, 後12, 後13, 後14, 後15
			英語運用能力の基礎固め	平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	2	後1, 後2, 後3, 後4, 後5, 後6, 後7, 後9, 後10, 後11, 後12, 後13, 後14, 後15

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	40	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	40	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	総合国語 I A
科目基礎情報					
科目番号	0023		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般科目		対象学年	2	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	『高等学校改訂版現代文 B』 (第一学習社), 『新訂七訂 総合国語便覧』 (第一学習社), 『新しい常用漢字』 (数研出版)				
担当教員	大西 洋平				
到達目標					
1 文学作品に親しみ、鑑賞することができる。 2 論理的な文章を読み解くことができる。 3 実用的な文章 (手紙・メール) を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。 4 報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットなどから適切な情報を収集できる。 5 収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。 6 報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	文学作品に親しみ、鑑賞することができる。	文学作品に親しみ、鑑賞することができる。	文学作品に親し、鑑賞することができない。		
評価項目2	論理的な文章を読み解くことが顕著にできる。	論理的な文章を読み解くことができる。	論理的な文章を読み解くことができない。		
評価項目3	実用的な文章 (手紙・メール) を、相手に応じた体裁や語句を用いて作成することができる。	実用的な文章 (手紙・メール) を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	実用的な文章 (手紙・メール) を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できない。		
評価項目4	報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットなどから適切な情報を顕著に収集できる。	報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットなどから適切な情報を収集できる。	報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットなどから適切な情報を収集できない。		
評価項目5	収集した情報を分析し、目的に応じて整理することが顕著にできる。	収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	収集した情報を分析し、目的に応じて整理できない。		
評価項目6	報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することが顕著にできる。	報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (iv)					
教育方法等					
概要	評論、文学作品を精読する。また、実用的な文章の書き方、情報収集・論文の書き方のトレーニングを行う。				
授業の進め方・方法	【授業方法】 ・講義形式・グループ学習を必要に応じて用いる。 【学習方法】 ・復習は必ず行うこと。 ・情報収集・文章作成については主体的な学習が求められる。				
注意点	【成績の評価方法・評価基準】 上述の到達目標を基準とする定期試験 (70%), 課題レポートなどの提出物・小テスト (15%), 口頭発表・質疑応答・音読 (15%) を加えた総合評価とする。試験時間は50分とする。 【教員の連絡先】 研究室 非常勤講師控室 内線電話 - e-mail: -				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	シラバス内容の説明、実用的な文章 (手紙・メール) の作成	3	
		2週	評論 日高敏隆「ユクスキュルの環世界」	2	
		3週	評論 日高敏隆「ユクスキュルの環世界」	2	
		4週	評論 立川健二「記号論と生のリアリティ」	2	
		5週	評論 立川健二「記号論と生のリアリティ」	2	
		6週	評論 立川健二「記号論と生のリアリティ」	2	
		7週	評論 立川健二「記号論と生のリアリティ」	2	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	試験返却、到達度確認、評論 ドミニク・チェン「未来をつくる言葉」	2	
		10週	評論 ドミニク・チェン「未来をつくる言葉」	2	
		11週	評論 ドミニク・チェン「未来をつくる言葉」	2	

	12週	小説 中島敦「山月記」	1, 4, 5, 6
	13週	小説 中島敦「山月記」	1, 4, 5, 6
	14週	小説 中島敦「山月記」	1, 4, 5, 6
	15週	小説 中島敦「山月記」	1, 4, 5, 6
	16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・達成度確認	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3	前1
			報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	前12,前13,前14,前15
			収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	前12,前13,前14,前15
			報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	前12,前13,前14,前15

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	15	0	0	15	0	100
基礎的能力	70	15	0	0	15	0	100

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	総合国語 I B
科目基礎情報					
科目番号	0024		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般科目		対象学年	2	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	『高等学校改訂版現代文B』(第一学習社), 『新訂七訂 総合国語便覧』(第一学習社), 『新しい常用漢字』(数研出版), ほか適宜プリント配布				
担当教員	大西 洋平				
到達目標					
1 文学作品を創作された時代背景から鑑賞することができる。 2 高度な評論を読み解くことができる。 3 作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを, 的確に口頭発表することができる。 4 課題に応じ, 根拠に基づいて議論できる。 5 相手の立場や考えを尊重しつつ, 議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。 6 新たな発想や他者の視点の理解に努め, 自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	文学作品を創作された時代背景から鑑賞することができる。		文学作品を創作された時代背景から鑑賞することができる。		文学作品を創作された時代背景から鑑賞することができない。
評価項目2	高度な評論を読み解くことが顕著にできる。		高度な評論を読み解くことができる。		高度な評論を読み解くことができない。
評価項目3	作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを, 的確に口頭発表することができる。		作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを, 的確に口頭発表することができる。		作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを, 的確に口頭発表することができない。
評価項目4	課題に応じ, 根拠に基づいて優れて議論できる。		課題に応じ, 根拠に基づいて議論できる。		課題に応じ, 根拠に基づいて議論できない。
評価項目5	相手の立場や考えを尊重しつつ, 議論を通して集団としての思いや考えをまとめることが顕著にできる。		相手の立場や考えを尊重しつつ, 議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。		相手の立場や考えを尊重しつつ, 議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができない。
評価項目6	新たな発想や他者の視点の理解に努め, 自分の思いや考えを整理するための手法を顕著に実践できる。		新たな発想や他者の視点の理解に努め, 自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。		新たな発想や他者の視点の理解に努め, 自分の思いや考えを整理するための手法を実践できない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (iv)					
教育方法等					
概要	評論, 文学作品を精読する。また, 口頭発表, 議論のトレーニングをおこなう。				
授業の進め方・方法	【授業方法】 ・講義形式・グループ学習を必要に応じて用いる。 【学習方法】 ・復習は必ず行うこと。 ・口頭発表・議論においては主体的な学習が求められる。				
注意点	【成績の評価方法・評価基準】 上述の到達目標を基準とする定期試験(70%), 課題レポートなどの提出物・小テスト(15%)発表・音読・質疑応答(15%)を加えた総合評価とする。試験時間は50分とする。 【教員の連絡先】 研究室 非常勤講師控室 内線電話 — e-mail: —				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	シラバス内容の説明, 小説 夏目漱石「こころ」	1	
		2週	小説 夏目漱石「こころ」	1	
		3週	小説 夏目漱石「こころ」	1	
		4週	小説 夏目漱石「こころ」	1	
		5週	小説 夏目漱石「こころ」	1	
		6週	評論 原研哉「情報の彫刻」	2	
		7週	評論 原研哉「情報の彫刻」	2	
		8週	中間試験		
	4thQ	9週	試験返却・到達度確認	2	
		10週	評論 住原則也「『グローバル化』の中の異文化理解」	2, 3, 4, 5, 6	
		11週	評論 住原則也「『グローバル化』の中の異文化理解」	2, 3, 4, 5, 6	

		12週	評論 和田伸一郎「メディアと倫理」	2
		13週	評論 和田伸一郎「メディアと倫理」	2
		14週	評論 和田伸一郎「メディアと倫理」	2
		15週	評論 和田伸一郎「メディアと倫理」	2
		16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・達成度確認	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	後10,後11
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	後10,後11
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	後10,後11
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	後10,後11

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	15	0	0	15	0	100
基礎的能力	70	15	0	0	15	0	100

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	公共 A
科目基礎情報					
科目番号	0025		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般科目		対象学年	2	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	検定教科書『公共』（東京書籍）				
担当教員	牧野 雅司				
到達目標					
1 現代社会に生起する現象について、その発生や経緯を理解し、その概要を説明できる。 2 自らを取りまく社会や環境に目を向け、そこに内在する諸問題について、その概要を説明できる。 3 近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。 4 帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。 5 科学技術が社会に与えてきた影響をもとに、技術者の役割や責任を説明できる。 6 科学者や技術者が、様々な困難を克服しながら技術の発展に寄与した姿を通し、技術者の使命・重要性について説明できる。 7 それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。 8 それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	1. について説明できる。	1. について概ね説明できる。	1. について説明できない。		
評価項目2	2. について説明できる。	2. について概ね説明できる。	2. について説明できない。		
評価項目3	3. について説明できる。	3. について概ね説明できる。	3. について説明できない。		
評価項目4	4. について考察できる。	4. について概ね考察できる。	4. について考察できない。		
評価項目5	5. について説明できる。	5. について概ね説明できる。	5. について説明できない。		
評価項目6	6. について説明できる。	6. について概ね説明できる。	6. について説明できない。		
評価項目7	7. について認識している。	7. について概ね認識している。	7. について認識できていない。		
評価項目8	8. について説明できる。	8. について概ね説明できる。	8. について説明できない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (iv)					
教育方法等					
概要	現代社会に生起する様々な問題について、基礎的な知識を獲得する。また、その生起した要因を過去にさかのぼり考察することで、それぞれの事象についての理解を深める。				
授業の進め方・方法	【授業方法】 ・授業は講義形式で行う。 ・スライドを用いて授業を行い、適宜教科書を参照する。 【学習方法】 ・板書を写すだけでなく、授業の内容をよく聞き、適宜メモを取ること。				
注意点	【成績の評価方法・評価基準】 成績評価は、中間および期末試験の結果（100%）により評価する。試験時間は50分とする。到達目標の習得度を評価基準とする。 【備考】 毎時間必ずノートと教科書を持参すること。 【教員の連絡先】 研究室 B棟3階 (B-309) 内線電話 8903 e-mail: m.makino@maizuru-ct.ac.jp （アットマークは@に変えること。）				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1週	シラバス内容の説明、公共Aを学ぶにあたって			
	2週	国際社会のなかで生きる私たち 日本とは何か (1)	1, 2, 7		
	3週	国際社会のなかで生きる私たち 日本とは何か (2)	1, 2, 7		
	4週	国際社会のなかで生きる私たち 東アジアのなかの日本 (1)	1, 2, 7, 8		
	5週	国際社会のなかで生きる私たち 東アジアのなかの日本 (2)	1, 2, 7, 8		
	6週	国際社会のなかで生きる私たち 東アジアのなかの日本 (3)	1, 2, 7, 8		
	7週	国際社会のなかで生きる私たち 東アジアのなかの日本 (4)	1, 2, 7, 8		
	8週	中間試験			
	9週	前期中間試験問題の解答と解説			
	10週	経済社会で生きる私たち 一体化する世界 (1)	1, 2, 3, 4, 7, 8		
	11週	経済社会で生きる私たち 一体化する世界 (2)	1, 2, 3, 4, 7, 8		

	12週	経済社会で生きる私たち 一体化する世界 (3)	1, 2, 3, 4, 7, 8
	13週	経済社会で生きる私たち 国際経済の動向 (1)	1, 2, 5, 6, 8
	14週	経済社会で生きる私たち 国際経済の動向 (2)	1, 2, 5, 6, 8
	15週	経済社会で生きる私たち 国際経済の動向 (3)	1, 2, 5, 6, 8
	16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・達成度確認	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。	3	
				帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。	3	
	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	科学技術が社会に与えてきた影響をもとに、技術者の役割や責任を説明できる。	3	
				科学者や技術者が、様々な困難を克服しながら技術の発展に寄与した姿を通し、技術者の使命・重要性について説明できる。	3	
				それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3	
グローバルゼーション・異文化多文化理解	グローバルゼーション・異文化多文化理解	グローバルゼーション・異文化多文化理解	それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。	3		

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	公共B
科目基礎情報					
科目番号	0026		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般科目		対象学年	2	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	検定教科書『公共』（東京書籍）				
担当教員	牧野 雅司				
到達目標					
<p>1 現代社会に生起する現象について、その発生や経緯を理解し、その概要を説明できる。</p> <p>2 自らを取りまく社会や環境に目を向け、そこに内在する諸問題について、その概要を説明できる。</p> <p>3 近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。</p> <p>4 帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。</p> <p>5 科学技術が社会に与えてきた影響をもとに、技術者の役割や責任を説明できる。</p> <p>6 科学者や技術者が、様々な困難を克服しながら技術の発展に寄与した姿を通じ、技術者の使命・重要性について説明できる。</p> <p>7 それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。</p> <p>8 それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	1. について説明できる。	1. について概ね説明できる。	1. について説明できない。		
評価項目2	2. について説明できる。	2. について概ね説明できる。	2. について説明できない。		
評価項目3	3. について説明できる。	3. について概ね説明できる。	3. について説明できない。		
評価項目4	4. について考察できる。	4. について概ね考察できる。	4. について考察できない。		
評価項目5	5. について説明できる。	5. について概ね説明できる。	5. について説明できない。		
評価項目6	6. について説明できる。	6. について概ね説明できる。	6. について説明できない。		
評価項目7	7. について認識している。	7. について概ね認識している。	7. について認識できていない。		
評価項目8	8. について説明できる。	8. について概ね説明できる。	8. について説明できない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (iv)					
教育方法等					
概要	現代社会に生起する様々な問題について、基礎的な知識を獲得する。また、その生起した要因を過去にさかのぼり考察することで、それぞれの事象についての理解を深める。				
授業の進め方・方法	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業は講義形式で行う。 ・スライドを用いて授業を行い、適宜教科書を参照する。 <p>【学習方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・板書を写すだけでなく、授業の内容をよく聞き、適宜メモを取ること。 				
注意点	<p>【成績の評価方法・評価基準】</p> <p>成績評価は、中間および期末試験の結果（100%）により評価する。試験時間は50分とする。到達目標の習得度を評価基準とする。</p> <p>【備考】</p> <p>毎時間必ずノートと教科書を持参すること。</p> <p>【教員の連絡先】</p> <p>研究室 B棟3階 (B-309) 内線電話 8903 e-mail: m.makino@maizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること。)</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	シラバス内容の説明、公共Bを学ぶにあたって		
		2週	国際社会と平和主義 日本の役割 (1)	1, 2, 3, 4, 7, 8	
		3週	国際社会と平和主義 日本の役割 (2)	1, 2, 3, 4, 7, 8	
		4週	国際社会と平和主義 日本の役割 (3)	1, 2, 3, 4, 7, 8	
		5週	国際平和への課題 平和への取り組み (1)	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8	
		6週	国際平和への課題 平和への取り組み (2)	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8	
		7週	国際平和への課題 平和への取り組み (3)	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8	
		8週	中間試験		
	4thQ	9週	前期中間試験問題の解答と解説		
		10週	私たちの民主的な社会 民主主義をめぐる問題 (1)	1, 2, 5, 6, 7, 8	
		11週	私たちの民主的な社会 民主主義をめぐる問題 (2)	1, 2, 5, 6, 7, 8	
		12週	私たちの民主的な社会 民主主義をめぐる問題 (3)	1, 2, 5, 6, 7, 8	
		13週	私たちの職業生活 働くことの意義 (1)	1, 2, 3, 4, 5, 6	
		14週	私たちの職業生活 働くことの意義 (2)	1, 2, 3, 4, 5, 6	

	15週	私たちの職業生活 働くことの意義（3）	1, 2, 3, 4, 5, 6
	16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・達成度確認	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	線形代数A
科目基礎情報					
科目番号	0027		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般科目		対象学年	2	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 佐々木良勝ほか「LIBRARY工学基礎&高専TEXT 線形代数」(数理工学社) / 問題集: 佐々木良勝ほか「LIBRARY工学基礎&高専TEXT 線形代数問題集」(数理工学社)				
担当教員	松井 素子				
到達目標					
1 ベクトルの定義を理解し、ベクトルの基本的な計算ができ、大きさを求めることができる。 2 ベクトルの成分表示ができ、具体的な計算ができる。 3 ベクトルの内積を求めることができる。 4 ベクトルの平行・垂直条件を利用することができる。 5 空間内の直線・平面・球の方程式を求めることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	ベクトルの基本的な計算ができ、応用できる。	ベクトルの基本的な計算ができる。	ベクトルの基本的な計算ができない。		
評価項目2	ベクトルの成分表示を用いて計算し、それを応用できる。	ベクトルの成分表示を用いて計算できる。	ベクトルの成分表示を用いて計算できない。		
評価項目3	ベクトルの内積を求めて、応用できる。	ベクトルの内積を求めることができる。	ベクトルの内積を求めることができない。		
評価項目4	ベクトルの平行・垂直条件を利用して、応用できる。	ベクトルの平行・垂直条件を利用できる。	ベクトルの平行・垂直条件を利用できない。		
評価項目5	空間内の直線・平面・球の方程式を求めて、応用できる。	空間内の直線・平面・球の方程式を求めることができる。	空間内の直線・平面・球の方程式を求めることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (i)					
教育方法等					
概要	線形代数は工学のどの領域でも必要となる数学の基礎知識の一つである。前期はベクトルと行列の基礎を、後期は行列と行列式について学習する。この授業で学ぶ内容は、専門科目や応用数学ⅡA・ⅡB(4年)の基本となる。				
授業の進め方・方法	【授業方法】 ・教科書に沿って講義をする。 ・黒板を用いた板書が中心だが、必要に応じて補助プリントを配布する。 ・適宜、問題演習も行う。 【学習方法】 ・黒板の内容は必ずノートに取ること。 ・教科書や問題集の問題を日頃から反復的に解くこと。 ・授業でわからなかったところはそのままにせず、放課後などを利用して積極的に教員に質問すること。担当教員が不在の場合などは、専任数学教員が対応する。				
注意点	【成績の評価方法・評価基準】 2回の定期試験を行う。試験時間は50分とする。2回の試験の点数(60%)と課題の取り組み(40%)をもとに評価する。 到達目標の各項目について、理解や具体例の計算の到達度を評価基準とする。 【教員の連絡先】 研究室 非常勤講師室 内線電話 — e-mail: —				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	シラバス内容の説明, 平面ベクトルと有向線分, ベクトルの加法と減法	1	
		2週	平面ベクトルの実数倍, 成分表示	1, 2	
		3週	平面ベクトルの内積	3	
		4週	平面ベクトルの図形への応用(平行条件, 垂直条件)	4	
		5週	平面ベクトルの図形への応用(位置ベクトル, 内分点・外分点, 直線)	2	
		6週	平面ベクトルの図形への応用(直線, 円, 1次独立, 1次従属)	2	
		7週	問題演習	1, 2, 3, 4	
		8週	空間座標	1	
	2ndQ	9週	空間ベクトルの成分表示	1	
		10週	空間ベクトルの内積	2, 3	
		11週	空間ベクトルの図形への応用(内分点・外分点, 球面の方程式)	2	

	12週	空間ベクトルの図形への応用(直線の方程式)	5
	13週	空間ベクトルの図形への応用(平面の方程式)	5
	14週	空間ベクトルの図形への応用(点と平面の距離, 1次独立・1次従属)	4
	15週	問題演習	1, 2, 3, 4, 5
	16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・到達度確認	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	数学	数学	数学	ベクトルの定義を理解し、ベクトルの基本的な計算(和・差・定数倍)ができ、大きさを求めることができる。	3	前1,前2,前7,前9,前15
				平面および空間ベクトルの成分表示ができ、成分表示を利用して簡単な計算ができる。	3	前2,前5,前6,前7,前10,前11,前15
				平面および空間ベクトルの内積を求めることができる。	3	前3,前7,前10,前15
				問題を解くために、ベクトルの平行・垂直条件を利用することができる。	3	前4,前7,前14,前15
				空間内の直線・平面・球の方程式を求めることができる(必要に応じてベクトル方程式も扱う)。	3	前12,前13,前15

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	40	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	40	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	線形代数B
科目基礎情報					
科目番号	0028	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般科目	対象学年	2		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	教科書: 佐々木良勝ほか「LIBRARY工学基礎&高専TEXT 線形代数」(数理工学社) / 問題集: 佐々木良勝ほか「LIBRARY工学基礎&高専TEXT 線形代数問題集」(数理工学社)				
担当教員	松井 素子				
到達目標					
1 行列の定義を理解し, 和差積, 実数倍を計算できる。 2 逆行列の定義を理解し, 3次までの行列の逆行列を求めることができる。 3 3次までの行列について, 行列式の性質を理解し, 行列式の値を求めることができる。 4 線形変換の定義を理解して, 合成変換や逆変換, 平面内の回転を表す線形変換を求めることができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	行列の和差積, 実数倍を計算して, 応用できる。	行列の和差積, 実数倍を計算できる。	行列の和差積, 実数倍を計算できない。		
評価項目2	3次までの行列の逆行列を求めて, 応用できる。	3次までの行列の逆行列を求めることができる。	3次までの行列の逆行列を求めることができない。		
評価項目3	3次までの行列の行列式の値を求めて, 応用できる。	3次までの行列の行列式の値を求めることができる。	3次までの行列の行列式の値を求めることができない。		
評価項目4	線形変換の合成変換や逆変換, 平面内の回転を表す線形変換を求めて, 応用できる。	線形変換の合成変換や逆変換, 平面内の回転を表す線形変換を求めることができる。	線形変換の合成変換や逆変換, 平面内の回転を表す線形変換を求めることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (i)					
教育方法等					
概要	線形代数は工学のどの領域でも必要となる数学の基礎知識の一つである。後期は行列と行列式について学習する。この授業で学ぶ内容は, 専門科目や応用数学ⅡA・ⅡB(4年)の基本となる。				
授業の進め方・方法	【授業方法】 ・教科書に沿って講義をする。 ・黒板を用いた板書が中心だが, 必要に応じて補助プリントを配布する。 ・適宜, 問題演習も行う。 【学習方法】 ・黒板の内容は必ずノートに取ること。 ・教科書や問題集の問題を日頃から反復的に解くこと。 ・授業でわからなかったところはそのままにせず, 放課後などを利用して積極的に教員に質問すること。担当教員が不在の場合などは, 専任数学教員が対応する。				
注意点	【成績の評価方法・評価基準】 2回の定期試験を行う。試験時間は50分とする。2回の試験の点数(60%)と課題の取り組み(40%)をもとに評価する。到達目標の各項目について, 理解や具体例の計算の到達度を評価基準とする。 【教員の連絡先】 研究室 非常勤講師室 内線電話 — e-mail: —				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	シラバス内容の説明, 行列とその演算	1	
		2週	行列とその演算	1	
		3週	2次正方行列の逆行列とその応用	2	
		4週	行列の基本変形(階段行列, 階数)	2	
		5週	行列の基本変形(掃き出し法, 連立1次方程式)	2	
		6週	行列の基本変形(逆行列の計算)	2	
		7週	問題演習	1, 2	
		8週	中間試験		
	4thQ	9週	試験の返却, 2次および3次の行列式, 行列式の基本性質	3	
		10週	行列式の展開	3	
		11週	余因子行列, クラメールの公式	3	
		12週	平面上の線形変換	4	
		13週	表現行列, 恒等変換と回転, 合成変換	4	
		14週	空間内の線形変換, 逆変換	4	
		15週	問題演習	3, 4	

		16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・達成度確認	
--	--	-----	----------------------------------	--

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	数学	数学	行列の定義を理解し、行列の和・差・スカラーとの積、行列の積を求めることができる。	3	後1,後2,後7
			逆行列の定義を理解し、2次の正方行列の逆行列を求めることができる。	3	後3,後4,後5,後6,後7
			行列式の定義および性質を理解し、基本的な行列式の値を求めることができる。	3	後9,後10,後11,後15,後16
			線形変換の定義を理解し、線形変換を表す行列を求めることができる。	3	後12,後13,後14,後15
			合成変換や逆変換を表す行列を求めることができる。	3	後12,後13,後14,後15
			平面内の回転に対応する線形変換を表す行列を求めることができる。	3	後12,後13,後14,後15

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	40	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	40	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	微分積分 I A
科目基礎情報					
科目番号	0029		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科目		対象学年	2	
開設期	前期		週時間数	4	
教科書/教材	教科書: 佐々木良勝ほか「LIBRARY工学基礎&高専TEXT 微分積分」(数理工学社) / 問題集: 佐々木良勝ほか「LIBRARY工学基礎&高専TEXT 微分積分問題集」(数理工学社), 阿蘇和寿ほか「ドリルと演習シリーズ 微分積分」(電気書院)				
担当教員	奥村 昌司, 岡田 浩嗣, 馬越 春樹				
到達目標					
1 基本的な数列の一般項を求め, 総和記号を用いてその和を表し, 和の値を求めることができる。 2 基本的な数列と級数の極限を, 不定形の意味を理解した上で, 求めることができる。 3 いろいろな関数の極限を求めることができる。 4 微分係数と導関数の意味を理解し, 求めることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	さまざまな数列の一般項を求め, 総和記号を用いてその和を表し, 和の値を求めることができる。	基本的な数列の一般項を求め, 総和記号を用いてその和を表し, 和の値を求めることができる。	基本的な数列の一般項を求めることができない, 総和記号を用いてその和を表すことができない, 和の値を求めることができない。		
評価項目2	さまざまな数列と級数の極限を, 不定形の意味を理解した上で, 求めることができる。	基本的な数列と級数の極限を求めることができる。	基本的な数列と級数の極限を求めることができない。		
評価項目3	いろいろな関数の特徴を理解し, その極限を求めることができる。	基本的な関数の極限を求めることができる。	基本的な関数の極限を求めることができない。		
評価項目4	微分係数と導関数の意味を理解し, 求めることができる。	微分係数と導関数を求めることができる。	微分係数と導関数を求めることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (i)					
教育方法等					
概要	高専で学習する微分積分法の基礎となる考え方や方法を身につけることを目的とする。				
授業の進め方・方法	【授業方法】 ・教科書に沿って講義をする。 ・黒板を用いた板書が中心だが, 必要に応じて補助プリントを配布する。 ・適宜, 問題演習も行う。 【学習方法】 ・黒板の内容は必ずノートに取ること。 ・教科書や問題集の問題を日頃から反復的に解くこと。 ・授業でわからなかったところはそのままにせず, 放課後などを利用して積極的に教員に質問すること。担当教員が不在の場合などは, 専任数学教員が対応する。				
注意点	【成績の評価方法・評価基準】 2回の定期試験を行う。試験時間は90分とする。2回の試験の点数 (60%) と課題の取り組み (40%) をもとに評価する。 到達目標の各項目について, 理解や具体的な計算の到達度を評価基準とする。 【教員の連絡先】 研究室 A棟2階 (奥村: A-206 / 岡田: A-209 / 馬越: A-214) 内線電話 奥村: 8914 / 岡田: 8952 / 馬越: 8515 e-mail 奥村: sokumura / 岡田: okada / 馬越: h.umakoshi アットマーク maizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること)				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	シラバスの内容の説明, 基礎数学A・Bの復習		
		2週	数列, 等差数列, 等比数列	1	
		3週	数列とその和	1	
		4週	数列とその和	1	
		5週	漸化式と数列, 数学的帰納法	1	
		6週	数列の極限, 極限の性質	2	
		7週	数列の極限の応用, 等比数列の極限	2	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	中間試験返却, 収束と発散	2	
		10週	無限級数, 無限等比級数	2	
		11週	関数の極限	3	
		12週	関数の極限, 指数関数と対数関数の極限, 三角関数の極限	3	

	13週	連続関数, 平均変化率, 微分係数	3
	14週	導関数	4
	15週	積の微分公式, 商の微分公式, 合成関数の微分公式	4
	16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・達成度確認	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	数学	数学	数学	等差数列・等比数列の一般項やその和を求めることができる。	3	前2,前3,前4,前5
				総和記号を用いた簡単な数列の和を求めることができる。	3	前2,前3,前4,前5
				不定形を含むいろいろな数列の極限を求めることができる。	3	前6,前7,前9,前10
				無限等比級数等の簡単な級数の収束・発散を調べ、その和を求めることができる。	3	前10
				簡単な場合について、関数の極限を求めることができる。	3	前11,前12
				微分係数の意味や、導関数の定義を理解し、導関数を求めることができる。	3	前13,前14
				積・商の導関数の公式を用いて、導関数を求めることができる。	3	前15
合成関数の導関数を求めることができる。	3	前15				

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	40	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	40	0	100
	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	微分積分 I B
科目基礎情報					
科目番号	0030		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科目		対象学年	2	
開設期	後期		週時間数	4	
教科書/教材	教科書: 佐々木良勝ほか「LIBRARY工学基礎&高専TEXT 微分積分」(数理工学社) / 問題集: 佐々木良勝ほか「LIBRARY工学基礎&高専TEXT 微分積分問題集」(数理工学社), 阿蘇和寿ほか「ドリルと演習シリーズ 微分積分」(電気書院)				
担当教員	奥村 昌司, 岡田 浩嗣, 馬越 春樹				
到達目標					
1 積・商・合成関数の導関数の公式を利用して計算できる。 2 三角・指数, 対数の各関数の導関数を求めることができる。 3 逆三角関数を理解し, 導関数を求めることができる。 4 関数のグラフの接線の方程式を求めることができる。 5 関数の増減を調べ, 極値を求め, 最大値と最小値を求め, グラフの概形を描くことができる。 6 不定積分の定義を理解し, 公式を用いて計算できる。 7 定積分の基本的な計算ができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	いろいろな関数の導関数を求めることができる。	基本的な関数の導関数を求めることができる。	基本的な関数の導関数を求めることができない。		
評価項目2	いろいろな関数の導関数を求めることができる。	基本的な関数の導関数を求めることができる。	基本的な関数の導関数を求めることができない。		
評価項目3	いろいろな関数の導関数を求めることができる。	基本的な関数の導関数を求めることができる。	基本的な関数の導関数を求めることができない。		
評価項目4	グラフの接線の方程式を求めることができる。	基本的な関数のグラフの接線の方程式を求めることができる。	基本的な関数のグラフの接線の方程式を求めることができない。		
評価項目5	いろいろな関数の増減を調べ, 極値を求め, 最大値と最小値を求め, グラフの概形を描くことができる。	基本的な関数の増減を調べ, 極値を求め, 最大値と最小値を求め, グラフの概形を描くことができる。	基本的な関数の増減を調べ, 極値を求め, 最大値と最小値を求め, グラフの概形を描くことができない。		
評価項目6	不定積分や定積分の定義を理解し, いろいろな関数の不定積分を公式を用いて計算できる。	基本的な関数の不定積分や定積分を公式を用いて計算できる。	基本的な関数の不定積分や定積分を公式を用いて計算できない。		
評価項目7	不定積分や定積分の定義を理解し, いろいろな関数の不定積分を公式を用いて計算できる。	基本的な関数の不定積分や定積分を公式を用いて計算できる。	基本的な関数の不定積分や定積分を公式を用いて計算できない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (i)					
教育方法等					
概要	微分積分 I Aに引き続き, 高専で学習する微分積分法の基礎となる考え方や方法を身につけることを目的とする。				
授業の進め方・方法	【授業方法】 ・教科書に沿って講義をする。 ・黒板を用いた板書が中心だが, 必要に応じて補助プリントを配布する。 ・適宜, 問題演習も行う。 【学習方法】 ・黒板の内容は必ずノートに取る。 ・教科書や問題集の問題を日頃から反復的に解くこと。 ・授業でわからなかったところはそのままにせず, 放課後などを利用して積極的に教員に質問すること。担当教員が不在の場合などは, 専任数学教員が対応する。				
注意点	【成績の評価方法・評価基準】 2回の定期試験を行う。試験時間は90分とする。2回の試験の点数 (60%) と課題の取り組み (40%) をもとに評価する。 到達目標の各項目について, 理解や具体的な計算の到達度を評価基準とする。 【教員の連絡先】 研究室 A棟2階 (奥村: A-206 / 岡田: A-209 / 馬越: A-214) 内線電話 奥村: 8914 / 岡田: 8952 / 馬越: 8515 e-mail 奥村: sokumura / 岡田: okada / 馬越: h.umakoshi アットマーク maizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること)				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	シラバスの内容の説明, 微分公式の復習	1	
		2週	三角関数の微分	2	
		3週	対数関数の微分, 指数関数の微分	2	
		4週	逆三角関数とその導関数	3	
		5週	接線と法線, 関数の極大・極小	4	

		6週	方程式・不等式と関数の増減, 中間値の定理, 最大値・最小値の定理	5
		7週	問題演習	
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	中間試験返却, 不定積分とその基本性質	6
		10週	三角関数の公式を利用した積分	6
		11週	不定積分の置換積分法, 部分積分法	6
		12週	いろいろな関数の不定積分	6
		13週	定積分の定義	7
		14週	定積分の置換積分法, 部分積分法	7
		15週	問題演習	
16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・達成度確認			

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	数学	数学	数学	簡単な場合について、関数の極限を求めることができる。	3	後2,後3
			微分係数の意味や、導関数の定義を理解し、導関数を求めることができる。	3	後2,後3	
			積・商の導関数の公式を用いて、導関数を求めることができる。	3	後1	
			合成関数の導関数を求めることができる。	3	後1	
			三角関数・指数関数・対数関数の導関数を求めることができる。	3	後2,後3	
			逆三角関数を理解し、逆三角関数の導関数を求めることができる。	3	後4	
			関数の増減表を書いて、極値を求め、グラフの概形をかくことができる。	3	後5	
			極値を利用して、関数の最大値・最小値を求めることができる。	3	後6	
			簡単な場合について、関数の接線の方程式を求めることができる。	3	後5	
			不定積分の定義を理解し、簡単な不定積分を求めることができる。	3	後9,後10	
			置換積分および部分積分を用いて、不定積分や定積分を求めることができる。	3	後11,後12,後14	
			定積分の定義と微積分の基本定理を理解し、簡単な定積分を求めることができる。	3	後13	
分数関数・無理関数・三角関数・指数関数・対数関数の不定積分・定積分を求めることができる。	3	後12				

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	40	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	40	0	100
	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	物理Ⅱ A
科目基礎情報					
科目番号	0031		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般科目		対象学年	2	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	検定教科書「物理基礎」「物理」(数研出版), 問題集「四訂版 リードLightノート物理」「新課程 リードLightノート物理基礎」(数研出版), 問題集「物理基礎 学習ノート」(数研出版)				
担当教員	上杉 智子				
到達目標					
1 音, 光の性質を理解する。 2 物体の平面運動及び運動量について理解する。 3 円運動, 慣性力について理解する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	音, 光の性質について説明, 具体的な計算ができる。	音, 光の性質について説明できる。	音, 光の性質について説明できない。		
評価項目2	剛体に働く力や, 物体の平面運動及び運動量について説明, 具体的な計算ができる。	剛体に働く力や, 物体の平面運動及び運動量について説明できる。	剛体に働く力や, 物体の平面運動及び運動量について説明できない。		
評価項目3	円運動, 慣性力について説明, 具体的な計算ができる。	円運動, 慣性力について説明できる。	円運動, 慣性力について説明できない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (i)					
教育方法等					
概要	物理ⅠA, ⅠBに引き続き, 身の回りの様々な現象や自然の法則を理解するための, 物理の基礎を学ぶ。前期は, 音や光などの波動, 運動量保存則, 円運動について学習する。				
授業の進め方・方法	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業は講義に適宜演習を取り入れて行う。 ・必要に応じてレポート課題を出す。 ・実験を行う際は4人程度のグループに分け, グループで協力して実験を行う。 <p>【学習方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒板の内容は必ずノートに取る。 ・予習は必ずしも必要ではないが, ノートを見ながら復習を行い, 問題集で演習を行うこと。分からないことがあれば質問すること。 				
注意点	<p>【成績の評価方法・評価基準】</p> <p>2回の定期試験を行う。時間は50分とする。2回の試験の平均(70%)と, その他レポート・授業時の小テスト等(30%)から, 総合的に成績を評価する。到達目標への到達度を評価基準とする。</p> <p>【備考】</p> <p>毎週, 電卓を持参すること。</p> <p>【教員の連絡先】</p> <p>研究室 A棟2階(A-203) 内線電話 8911 e-mail: uesugi アットマーク maizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること。)</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	シラバスの説明, 音の性質	1	
		2週	定常波の実験	1	
		3週	発音体の振動と共振・共鳴	1	
		4週	音のドップラー効果	1	
		5週	光の性質	1	
		6週	光の回折と干渉	1	
		7週	剛体に働く力	2	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	剛体に働く力・物体の平面運動の復習	2	
		10週	運動量と力積	2	
		11週	運動量保存則	2	
		12週	反発係数	2	
		13週	等速円運動	3	
		14週	慣性力	3	
		15週	演習(円運動)	3	
		16週	(15週の後)に期末試験を実施) 期末試験返却・到達度確認		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	自然科学	力学	物体の質量と速度から運動量を求めることができる。	3	前10	
			運動量の差が力積に等しいことを利用して、様々な物理量の計算ができる。	3	前10	
			運動量保存則を様々な物理量の計算に利用できる。	3	前11,前12	
			等速円運動をする物体の速度、角速度、加速度、向心力に関する計算ができる。	3	前13	
		波動	弦の長さや弦を伝わる波の速さから、弦の固有振動数を求めることができる。	3	前1,前3	
			気柱の長さや音速から、開管、閉管の固有振動数を求めることができる(開口端補正は考えない)。	3	前3	
			共振、共鳴現象について具体例を挙げることができる。	3	前3	
			一直線上の運動において、ドップラー効果による音の振動数変化を求めることができる。	3	前4	
			自然光と偏光の違いについて説明できる。	3	前5	
			光の反射角、屈折角に関する計算ができる。	3	前5,前6,前7	
		物理実験	物理実験	波長の違いによる分散現象によってスペクトルが生じることを説明できる。	3	前6
				測定機器などの取り扱い方を理解し、基本的な操作を行うことができる。	3	前2
				安全を確保して、実験を行うことができる。	3	前2
				実験報告書を決められた形式で作成できる。	3	前2
				有効数字を考慮して、データを集計することができる。	3	前2
				波に関する分野に関する実験に基づき、代表的な物理現象を説明できる。	3	前2
光に関する分野に関する実験に基づき、代表的な物理現象を説明できる。	3	前6				

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	物理ⅡB
科目基礎情報					
科目番号	0032		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般科目		対象学年	2	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	検定教科書「物理基礎」「物理」(数研出版), 問題集「四訂版 リードLightノート物理」「新課程 リードLightノート物理基礎」(数研出版), 問題集「物理基礎 学習ノート」(数研出版)				
担当教員	上杉 智子				
到達目標					
1 単振動, 万有引力について理解する。 2 熱とエネルギーについて理解する。 3 理想気体の状態方程式, 気体の状態変化について理解する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	単振動, 万有引力について説明, 具体的な計算ができる。	単振動, 万有引力について説明できる。	単振動, 万有引力について説明できない。		
評価項目2	熱とエネルギーについて説明, 具体的な計算ができる。	熱とエネルギーについて説明できる。	熱とエネルギーについて説明できない。		
評価項目3	理想気体の状態方程式, 気体の状態変化について説明, 具体的な計算ができる。	理想気体の状態方程式, 気体の状態変化について説明できる。	理想気体の状態方程式, 気体の状態変化について説明できない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (i)					
教育方法等					
概要	物理ⅠA, ⅠBに引き続き, 身の回りの様々な現象や自然の法則を理解するための, 物理の基礎を学ぶ。後期は, 単振動, 単振り子, 万有引力等について学び, 続いて, 熱力学の基礎について学習する。				
授業の進め方・方法	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業は講義に適宜演習を取り入れて行う。 必要に応じてレポート課題を出す。 実験を行う際は4人程度のグループに分け, グループで協力して実験を行う。 <p>【学習方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 黒板の内容は必ずノートに取る。 予習は必ずしも必要ではないが, ノートを見ながら復習を行い, 問題集で演習を行うこと。分からないことがあれば質問すること。 				
注意点	<p>【成績の評価方法・評価基準】</p> <p>2回の定期試験を行う。時間は50分とする。2回の試験の平均(70%)と, その他レポート・授業時の小テスト等(30%)から, 総合的に成績を評価する。到達目標への到達度を評価基準とする。</p> <p>【備考】</p> <p>毎週, 電卓を持参すること。</p> <p>【教員の連絡先】</p> <p>研究室 A棟2階(A-203) 内線電話 8911 e-mail: uesugi アットマーク maizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること。)</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	単振動の速度と加速度	1	
		2週	ばね振り子, 単振り子	1	
		3週	万有引力	1	
		4週	熱と温度	2	
		5週	ボイル・シャルルの法則	2	
		6週	熱力学第一法則, 気体の状態変化	2	
		7週	エネルギーの変換と保存	2	
		8週	中間試験		
	4thQ	9週	物質の状態	3	
		10週	理想気体の状態方程式	3	
		11週	気体分子の運動	3	
		12週	気体の圧力	3	
		13週	気体のモル比熱	3	
		14週	熱機関のサイクル	3	
		15週	演習・基礎実験	3	
		16週	(15週の後に期末試験を実施) 期末試験返却・到達度確認		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	自然科学	力学	周期、振動数など単振動を特徴づける諸量を求めることができる。	3	後1	
			単振動における変位、速度、加速度、力の関係を説明できる。	3	後1,後2	
			万有引力の法則から物体間にはたらく万有引力を求めることができる。	3	後3	
			万有引力による位置エネルギーに関する計算ができる。	3	後3	
		物理	熱	原子や分子の熱運動と絶対温度との関連について説明できる。	3	後4
				時間の推移とともに、熱の移動によって熱平衡状態に達することを説明できる。	3	後4
				物体の熱容量と比熱を用いた計算ができる。	3	後4
				熱量の保存則を表す式を立て、熱容量や比熱を求めることができる。	3	後4
				動摩擦力がする仕事は、一般に熱となることを説明できる。	3	後7
				ボイル・シャルルの法則や理想気体の状態方程式を用いて、気体の圧力、温度、体積に関する計算ができる。	3	後5,後10
				気体の内部エネルギーについて説明できる。	3	後6
				熱力学第一法則と定積変化・定圧変化・等温変化・断熱変化について説明できる。	3	後6
				エネルギーには多くの形態があり互いに変換できることを具体例を挙げて説明できる。	3	後7
				不可逆変化について理解し、具体例を挙げるができる。	3	後7
				熱機関の熱効率に関する計算ができる。	3	後7
物理実験	物理実験	力学に関する分野に関する実験に基づき、代表的な物理現象を説明できる。	3	後15		
		熱に関する分野に関する実験に基づき、代表的な物理現象を説明できる。	3	後13		

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	化学ⅡA
科目基礎情報					
科目番号	0033		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般科目		対象学年	2	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	検定教科書「工業化学1」「工業化学2」(実教出版), 問題集「セミナー化学基礎+化学」(第一学習社), 参考書「フォトサイエンス化学図録」(数研出版), 教材「HGS分子構造模型A型セット 有機化学入門用」(丸善出版)				
担当教員	小島 広孝				
到達目標					
1 遷移金属・両性金属について理解する。 2 酸化・還元について理解する。 3 熱化学方程式について理解する。 4 脂肪族化合物について理解する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	遷移金属・両性金属について十分に理解している。	遷移金属・両性金属について基本を理解している。	遷移金属・両性金属について理解していない。		
評価項目2	酸化・還元について十分に理解している。	酸化・還元について基本を理解している。	酸化・還元について理解していない。		
評価項目3	熱化学方程式について十分に理解している。	熱化学方程式について基本を理解している。	熱化学方程式について理解していない。		
評価項目4	脂肪族化合物について十分に理解している。	脂肪族化合物について基本を理解している。	脂肪族化合物について理解していない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (i)					
教育方法等					
概要	素材として物質を扱う技術者にとって物質の知識は必須であるだけでなく、膨大な物質に囲まれている現代社会において生きるための技術である。化学の扱う領域は物質科学すべてを包括し複雑多岐にわたり、自然法則を物質の側面から捉える化学は自然科学の中心に位置している。 本授業では化学に関する基本的な事項、遷移金属・両性金属、酸化・還元、熱化学方程式、脂肪族化合物について理解する。				
授業の進め方・方法	【授業方法】 ・授業は講義に一部演習を取り入れて行う。 ・スライドを用いて授業を行い、適宜教科書、参考書を参照する。 ・適宜授業後に確認テストを出題する。また、必要に応じてレポート課題を出す。 【学習方法】 ・板書を写すだけでなく、授業の内容をよく聞き、適宜メモを取る。 ・確認テストを利用して講義内容を復習すること。 ・化学科目の内容は積み重ねであるため、もし分からないことがあれば放置せず、オンライン、オフラインを問わず質問すること。				
注意点	【成績の評価方法・評価基準】 定期試験を行う。時間は50分とする。試験(60%)と、その他レポート・確認テスト等(40%)から、総合的に成績を評価する。到達目標への到達度を評価基準とする。 【備考】 スライドの印刷物の配布は行わない。必要に応じて印刷し持参すること。 スライドを閲覧する目的に限り、タブレットやノートパソコン等の持ち込みを許可する。 課題は授業の復習を主な目的としているため、期限直前に提出することのないこと。 【教員の連絡先】 研究室 A棟2階(A-212) 内線電話 8940 e-mail: h.kojima@maizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること。)				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	シラバス内容の説明, 遷移金属1	1	
		2週	遷移金属2	1	
		3週	両性金属	1	
		4週	酸化・還元1	2	
		5週	酸化・還元2	2	
		6週	金属のイオン化傾向	2	
		7週	電気分解	2	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	中間試験返却, 化学反応と光	3	
		10週	熱化学方程式	3	
		11週	有機化合物の特徴と分類	4	

	12週	脂肪族炭化水素	4
	13週	酸素-O-を含む脂肪族	4
	14週	酸素>C=Oを含む脂肪族1	4
	15週	酸素>C=Oを含む脂肪族2	4
	16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・到達度確認	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	自然科学	化学(一般)	化学(一般)	酸化還元反応について説明できる。	3	
				イオン化傾向について説明できる。	3	
				金属の反応性についてイオン化傾向に基づき説明できる。	3	
				ダニエル電池についてその反応を説明できる。	3	
				鉛蓄電池についてその反応を説明できる。	3	
				一次電池の種類を説明できる。	3	
				二次電池の種類を説明できる。	3	
				電気分解反応を説明できる。	3	
				電気分解の利用として、例えば電解めっき、銅の精錬、金属のリサイクルへの適用など、実社会における技術の利用例を説明できる。	3	
			ファラデーの法則による計算ができる。	3		

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	40	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	40	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	化学ⅡB
科目基礎情報					
科目番号	0034		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般科目		対象学年	2	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	検定教科書「工業化学1」「工業化学2」(実教出版), 問題集「セミナー化学基礎+化学」(第一学習社), 参考書「フォトサイエンス化学図録」(数研出版), 教材「HGS分子構造模型A型セット 有機化学入門用」(丸善出版)				
担当教員	小島 広孝				
到達目標					
1 芳香族化合物について理解する。 2 高分子化合物について理解する。 3 電子軌道について理解する。 4 反応速度, 化学平衡について理解する。 5 実験を行い, 結果をレポートにまとめる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	芳香族化合物について十分に理解している。	芳香族化合物について基本を理解している。	芳香族化合物について理解していない。		
評価項目2	高分子化合物について十分に理解している。	高分子化合物について基本を理解している。	高分子化合物について理解していない。		
評価項目3	電子軌道について十分に理解している。	電子軌道について基本を理解している。	電子軌道について理解していない。		
評価項目4	反応速度, 化学平衡について十分に理解している。	反応速度, 化学平衡について基本を理解している。	反応速度, 化学平衡について理解していない。		
評価項目5	正しく実験を行い, 結果を適切にレポートにまとめることができる。	実験を行い, 結果をレポートにまとめることができる。	実験を行い, 結果をレポートにまとめることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (i)					
教育方法等					
概要	素材として物質を扱う技術者にとって物質の知識は必須であるだけでなく, 膨大な物質に囲まれている現代社会において生きるための技術である。化学の扱う領域は物質科学すべてを包括し複雑多岐にわたり, 自然法則を物質の側面から捉える化学は自然科学の中心に位置している。 本授業では化学に関する基本的な事項, 芳香族化合物, 高分子化合物, 電子軌道, 反応速度, 化学平衡について理解する。				
授業の進め方・方法	【授業方法】 ・授業は講義に一部演習を取り入れて行う。 ・スライドを用いて授業を行い, 適宜教科書, 参考書を参照する。 ・適宜授業後に確認テストを出題する。また, 必要に応じてレポート課題を出す。 【学習方法】 ・板書を写すだけでなく, 授業の内容をよく聞き, 適宜メモを取る。 ・確認テストを利用して講義内容を復習すること。 ・化学科目の内容は積み重ねであるため, もし分からないことがあれば放置せず, オンライン, オフラインを問わず質問すること。				
注意点	【成績の評価方法・評価基準】 定期試験を行う。時間は50分とする。試験 (60%) と, その他レポート・確認テスト等 (40%) から, 総合的に成績を評価する。到達目標への到達度を評価基準とする。 【備考】 スライドの印刷物の配布は行わない。必要に応じて印刷し持参すること。 スライドを閲覧する目的に限り, タブレットやノートパソコン等の持ち込みを許可する。 課題は授業の復習を主な目的としているため, 期限直前に提出することのないこと。 【教員の連絡先】 研究室 A棟2階 (A-212) 内線電話 8940 e-mail: h.kojima@attマークmaizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること。)				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	シラバス内容の説明, ベンゼンの性質	1	
		2週	芳香族化合物1	1	
		3週	芳香族化合物2	1	
		4週	石油・石炭の化学工業	1, 2	
		5週	合成高分子化合物1	2	
		6週	合成高分子化合物2	2	
		7週	生命・生活と化学工業	2	
		8週	中間試験		

4thQ	9週	中間試験返却, 原子軌道	3
	10週	分子軌道	3
	11週	反応速度	4
	12週	化学平衡1	4
	13週	化学平衡2	4
	14週	有機化学実験	1, 5
	15週	化学工業の歴史と未来	2
	16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・到達度確認	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	化学(一般)	化学(一般)	代表的な金属やプラスチックなど有機材料について、その性質、用途、また、その再利用など生活とのかかわりについて説明できる。	3	
			洗剤や食品添加物等の化学物質の有効性、環境へのリスクについて説明できる。	3	
			混合物の分離法について理解でき、分離操作を行う場合、適切な分離法を選択できる。	3	
	化学実験	化学実験	実験の基礎知識(安全防具の使用法、薬品、火気の取り扱い、整理整頓)を持っている。	3	
			事故への対処の方法(薬品の付着、引火、火傷、切り傷)を理解し、対応ができる。	3	
			測定と測定値の取り扱いができる。	3	
			有効数字の概念・測定器具の精度が説明できる。	3	
			レポート作成の手順を理解し、レポートを作成できる。	3	
			ガラス器具の取り扱いができる。	3	
			基本的な実験器具に関して、目的に応じて選択し正しく使うことができる。	3	
			試薬の調製ができる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	40	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	40	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	保健体育Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0035		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科目		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書 衛藤隆他著「現代高等保健体育」(大修館) / 教材 近畿地区高等専門学校体育研究会編「保健体育概論(改訂新版)」(晃洋書房)				
担当教員	木村 健二, 佐々木 保江				
到達目標					
1 積極的に運動し、運動を楽しみ、協力や責任を果すことができる。 2 課題の解決を目指し、活動を工夫できる。 3 運動技術を理解し、運動技能を高めることができる。 4 技術・健康・体力に関する事項を理解し、身につけることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	積極的に運動し、運動を楽しみ、協力や責任を果すことができる。	運動し、運動を楽しみ、協力や責任を果すことができる。	運動し、運動を楽しみ、協力や責任を果すことができない。		
評価項目2	積極的に課題の解決を目指し、活動を工夫できる。	課題の解決を目指し、活動を工夫できる。	課題の解決を目指し、活動を工夫できない。		
評価項目3	積極的に運動技術を理解し、運動技能を高めることができる。	運動技術を理解し、運動技能を高めることができる。	運動技術を理解し、運動技能を高めることができない。		
評価項目4	十分に技術・健康・体力に関する事項を理解し、身につけることができる。	技術・健康・体力に関する事項を理解し、身につけることができる。	技術・健康・体力に関する事項を理解し、身につけることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (v)					
教育方法等					
概要	健康・安全や運動についての理解と運動の合理的・計画的な実践を通して、生涯にわたる豊かなスポーツライフを維持する資質や能力を育てると共に、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を育てることを目的とする。				
授業の進め方・方法	【授業方法】 ・毎回の授業は実技を中心に行う。 ・授業内容については天候等により順序変更を行う。 ・体調の変化について自己管理すると同時に、体調不良の場合は担当教員に報告すること。健康および安全に留意して授業に参加すること。 【学習方法】 ・レポートについては授業中に詳細を説明する。				
注意点	【成績の評価方法・評価基準】 1. 関心・意欲・態度, 2. 思考・判断, 3. 運動の技能, 4. 知識・理解, の4つの観点から、実技参加態度点70%, レポート5%および50分の理論試験(後期期末試験)25%の比率で評価する。 【備考】 運動着・ジャージ, 運動にふさわしいシューズを着用すること。 【教員の連絡先】 研究室 B棟3階 小野 (B-302) 研究室 A棟2階 木村 (A-207) 内線電話 8910(小野)、8915(木村) e-mail: onoアットマークmaizuru-ct.ac.jp (小野) , k.kimuraアットマークmaizuru-ct.ac.jp (木村)				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	シラバス内容の説明, オリエンテーション, 体カトレーニング	1, 2, 3	
		2週	サッカー 基本技術の習得	1, 2, 3	
		3週	サッカー 基本技術の発展	1, 2, 3	
		4週	サッカー 基本技術とミニゲーム	1, 2, 3	
		5週	サッカー ゲーム技術・戦術の習得	1, 2, 3	
		6週	サッカー 個人技テスト(リフティング、ドリブルシュート)	1, 2, 3	
		7週	サッカー ゲームテスト(ゲーム戦術テスト)	1, 2, 3	
		8週	レポート(スポーツの科学)	4	
前期	2ndQ	9週	水泳 オリエンテーションと水慣れ	1, 2, 3	
		10週	水泳 基礎1(クロール, 平泳ぎ, 背泳ぎ, バタフライ, 潜水の泳法練習)	1, 2, 3	
		11週	水泳 基礎2(プルブイ・ビート板による基礎泳法技術の習得と25m泳)	1, 2, 3	

後期		12週	水泳 基礎3 (基礎泳法の定着, 長距離泳)	1, 2, 3	
		13週	水泳 テスト種目の練習 (クロール, 平泳ぎ, 背泳ぎ, バタフライ, 潜水, 100mメドレー泳)	1, 2, 3	
		14週	水泳 テスト (潜水, 各種泳法)	1, 2, 3	
		15週	水泳 テスト (長距離泳)	1, 2, 3	
		16週			
	3rdQ	1週	シラバス内容の説明, 1500m走, バスケットボール 基本技術の習得	1, 2, 3	
		2週	長距離: 持久走, バスケットボール ゲームと基本技術	1, 2, 3	
		3週	長距離: 持久走, バスケットボール ゲーム技術・戦術の習得	1, 2, 3	
		4週	長距離: 持久走テスト, バスケットボール ゲーム技術・戦術の習得	1, 2, 3	
		5週	バスケットボール テスト (基本技術テスト)	1, 2, 3	
		6週	バスケットボール テスト (ゲーム戦術テスト)	1, 2, 3	
		7週	体力テスト	4	
		8週	体力テスト	4	
		4thQ	9週	バドミントン (基本技術の習得, ダブルスゲーム法)	1, 2, 3
			10週	保健体育理論 感染症	4
			11週	バドミントン (基本技術の習得, ダブルスゲーム)	1, 2, 3
12週	保健体育理論 生活習慣病と体脂肪		4		
13週	バドミントン (リーグ戦ゲーム)		1, 2, 3		
14週	保健体育理論 体力の要素とトレーニング		4		
15週	バドミントン (リーグ戦ゲーム)		1, 2, 3		
16週	(15週の後)に期末試験を実施 期末試験返却・到達度確認				

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	25	0	0	70	5	0	100
基礎的能力	25	0	0	70	5	0	100

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	保健体育Ⅱ (女子)
科目基礎情報					
科目番号	0036		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科目		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書 衛藤隆他著「現代高等保健体育」/ 教材 近畿地区高等専門学校体育研究会編「保健体育概論 (改訂新版)」				
担当教員	佐々木 保江, 木村 健二				
到達目標					
1 積極的に運動し, 運動を楽しみ, 協力や責任を果すことができる。 2 課題の解決を目指し, 活動を工夫できる。 3 運動技術を理解し, 運動技能を高めることができる。 4 技術・健康・体力に関する事項を理解し, 身につけることができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	積極的に運動し, 運動を楽しみ, 協力や責任を果すことができる。	運動し, 運動を楽しみ, 協力や責任を果すことができる。	運動し, 運動を楽しみ, 協力や責任を果すことができない。		
評価項目2	積極的に課題の解決を目指し, 活動を工夫できる。	課題の解決を目指し, 活動を工夫できる。	課題の解決を目指し, 活動を工夫できない。		
評価項目3	積極的に運動技術を理解し, 運動技能を高めることができる。	運動技術を理解し, 運動技能を高めることができる。	運動技術を理解し, 運動技能を高めることができない。		
評価項目4	十分に技術・健康・体力に関する事項を理解し, 身につけることができる。	技術・健康・体力に関する事項を理解し, 身につけることができる。	技術・健康・体力に関する事項を理解し, 身につけることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (v)					
教育方法等					
概要	健康・安全や運動についての理解と運動の合理的・計画的な実践を通して, 生涯にわたる豊かなスポーツライフを維持する資質や能力を育てると共に, 明るく豊かで活力のある生活を営む態度を育てることを目的とする。				
授業の進め方・方法	【授業内容】 授業内容については天候等により順序変更を行う。体調の変化について自己管理すると同時に, 担当教員に報告し, 健康および安全に留意して授業に参加する。 【学習方法】 レポートについては授業中に詳細を説明する。				
注意点	【成績の評価方法・評価基準】 1. 関心・意欲・態度, 2. 思考・判断, 3. 運動の技能, 4. 知識・理解, の4つの観点から, 実技点75%および50分の理論試験 (後期期末試験) 25%の比率で評価する。 【備考】 運動着・ジャージ, 運動にふさわしいシューズを着用すること。 【教員の連絡先】 研究室 B棟3階 小野 (B-302) 研究室 A棟2階 木村 (A-207) 内線電話 8910(小野)、8915(木村) e-mail: onoアットマークmaizuru-ct.ac.jp (小野) , k.kimuraアットマークmaizuru-ct.ac.jp (木村)				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	シラバス内容の説明, オリエンテーション, 体カトレーニング	1, 2, 3	
		2週	体カトレーニング	1, 2, 3	
		3週	陸上競技 (短距離: 100m走) 練習及び記録測定	1, 2, 3	
		4週	陸上競技 (短距離 4×100mリレー, 4×400mリレー) 練習及び記録測定	1, 2, 3	
		5週	陸上競技 (跳躍: 走り幅跳び) 練習, (長距離: 1500m走) 記録測定	1, 2, 3	
		6週	陸上競技 (跳躍: 走り幅跳び) 記録測定	1, 2, 3	
		7週	陸上競技予備	1, 2, 3	
		8週	レポート (スポーツの科学)	4	
	2ndQ	9週	水泳 (オリエンテーション, プール清掃および水慣れ)	1, 2, 3	
		10週	水泳 基礎1 (クロール, 平泳ぎ, 背泳ぎ, バタフライ, 潜水の泳法練習)	1, 2, 3	
		11週	水泳 基礎2 (プルブイ・ビート板による基礎泳法技術の習得と25m泳)	1, 2, 3	

後期		12週	水泳 基礎3 (基礎泳法の定着、長距離泳175m)	1, 2, 3	
		13週	水泳 テスト種目の練習 (クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ、潜水、25m自由形、100泳)	1, 2, 3	
		14週	水泳 テスト	1, 2, 3	
		15週	ソフトバレーボール	1, 2, 3	
		16週			
	3rdQ	1週	陸上競技 持久走及び走り高跳び (ハサミ跳び、ベリーロール)	1, 2, 3	
		2週	陸上競技 持久走及び走り高跳び (記録測定)	1, 2, 3	
		3週	陸上競技 持久走 (6km)	1, 2, 3	
		4週	陸上競技 持久走 (6km)	1, 2, 3	
		5週	陸上競技 駅伝	1, 2, 3	
		6週	ソフトバレーボール	1, 2, 3	
		7週	バドミントン (基本技術の習得, ゲーム法)	1, 2, 3	
		8週	レポート (スポーツの科学)	4	
		4thQ	9週	バドミントン (基本技術の習得, ゲーム法)	1, 2, 3
			10週	保健体育理論 「薬物依存、喫煙・飲酒と健康」	4
			11週	バドミントン (基本技術の習得、シングルスゲーム)	1, 2, 3
12週	保健体育理論 「スポーツトレーニング」		4		
13週	バドミントン (ハーフコート・シングルスゲーム)		1, 2, 3		
14週	保健体育理論 「思春期の性, 男と女の性」		4		
15週	バドミントン (ハーフコート・シングルスゲーム)		1, 2, 3		
16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・到達度確認				

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ その他	合計
総合評価割合	25	0	0	70	5 0	100
基礎的能力	25	0	0	70	5 0	100

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	ライフ&アースサイエンスA
科目基礎情報					
科目番号	0037		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般科目		対象学年	2	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	検定教科書「高等学校 生物基礎」(数研出版), 問題集「リードLightノート生物基礎」(数研出版)				
担当教員	渡辺 徹				
到達目標					
1 細胞の構造と機能を理解できる。 2 代謝の過程とその必要性を理解できる。 3 バイオームの種類と分布を理解できる。 4 生態系の構造と維持される仕組みを理解できる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	細胞の構造と機能を十分に理解している。		細胞の構造と機能を理解している。		細胞の構造と機能を理解していない。
評価項目2	代謝の過程とその必要性を十分に理解している。		代謝の過程とその必要性を理解している。		代謝の過程とその必要性を理解していない。
評価項目3	バイオームの種類と分布を十分に理解している。		バイオームの種類と分布を理解している。		バイオームの種類と分布を理解していない。
評価項目4	生態系の構造と維持される仕組みを十分に理解している。		生態系の構造と維持される仕組みを理解している。		生態系の構造と維持される仕組みを理解していない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (i)					
教育方法等					
概要	細胞の構造と機能, 代謝, 生態系の仕組みを学習し, 自然界における生物現象の基礎を理解する。				
授業の進め方・方法	【授業方法】 ・授業は講義に適宜演習を取り入れて行う。 ・必要に応じてレポート課題を出す。 【学習方法】 ・授業内容はノートにとり, 必ず復習を行うこと。				
注意点	【成績の評価方法・評価基準】 中間試験と期末試験を行う。各試験の時間は50分とする。試験(80%)および提出物等(20%)により, 到達目標の達成度を基準として評価する。 【教員の連絡先】 非常勤講師室				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	シラバス内容の説明, 生物学についての概観, 生物の共通性, 細胞の発見と顕微鏡の発達	1	
		2週	細胞の構造と機能, 原核細胞と真核細胞	1	
		3週	細胞膜と細胞壁, 生体構成物質	1	
		4週	代謝とエネルギー, 酵素の働き	2	
		5週	呼吸	2	
		6週	光合成	2	
		7週	発酵, ミトコンドリアと葉緑体の由来	2	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	植生の成り立ち, 光の強さと光合成	3	
		10週	植生の遷移	3	
		11週	気候とバイオーム	3	
		12週	日本のバイオーム	3	
		13週	生態系, 食物連鎖, 物質の生産	4	
		14週	物質の循環, 生物濃縮	4	
		15週	エネルギーの流れ, 生態系のバランスと保全	4	
		16週	(15週の後に期末試験を実施) 期末試験返却・到達度確認		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	自然科学	ライフサイエンス/アースサイエンス	地球上の生物の多様性について説明できる。	3	前1
		ライフサイエンス/アースサイエンス	生物の共通性と進化の関係について説明できる。	3	前1
		ライフサイエンス/アースサイエンス	生物に共通する性質について説明できる。	3	前1

			植生の遷移について説明でき、そのしくみについて説明できる。	3	前9,前10
			世界のバイオームとその分布について説明できる。	3	前11
			日本のバイオームの水平分布、垂直分布について説明できる。	3	前12
			生態系の構成要素(生産者、消費者、分解者、非生物的環境)とその関係について説明できる。	3	前13
			生態ピラミッドについて説明できる。	3	前13
			生態系における炭素の循環とエネルギーの流れについて説明できる。	3	前14,前15
			熱帯林の減少と生物多様性の喪失について説明できる。	3	前15
			有害物質の生物濃縮について説明できる。	3	前14,前15

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	ライフ&アースサイエンスB
科目基礎情報					
科目番号	0038		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般科目		対象学年	2	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	検定教科書「高等学校 地学基礎」(数研出版), 問題集「新課程 リードα 地学基礎」「地学基礎探求ノート」(数研出版)				
担当教員	松田 若菜				
到達目標					
1 地球全体の概要を理解する。 2 地震と防災・減災に対する考えを理解する。 3 地球の構造と岩石の成因を理解する。 4 大気循環と気象現象を理解する。 5 人間活動と環境への影響を理解する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	地球全体の概要を十分に理解している。	地球全体の概要を理解している。	地球全体の概要を理解していない。		
評価項目2	地震と防災・減災に対する考えを十分に理解している。	地震と防災・減災に対する考えを理解している。	地震と防災・減災に対する考えを理解していない。		
評価項目3	地球の構造と岩石の成因を十分に理解している。	地球の構造と岩石の成因を理解している。	地球の構造と岩石の成因を理解していない。		
評価項目4	大気循環と気象現象を十分に理解している。	大気循環と気象現象を理解している。	大気循環と気象現象を理解していない。		
評価項目5	人間活動と環境への影響を十分に理解している。	人間活動と環境への影響を理解している。	人間活動と環境への影響を理解していない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (i)					
教育方法等					
概要	地球の構造や活動について理解し, 気象・大気・海洋の関連や, 人間活動と環境への影響について理解する。				
授業の進め方・方法	【授業方法】 ・授業は講義に適宜演習を取り入れて行う。 ・必要に応じてレポート課題を出す。 【学習方法】 ・授業内容はノートに取り, 復習をおこなうこと。				
注意点	【成績の評価方法・評価基準】 ・中間試験と期末試験の2回の定期試験を行う。時間はそれぞれ50分とする。 ・2回の定期試験(70%)とポートフォリオ(課題, 小テスト, 口頭試問等)(30%)により総合的に評価する。 ・到達目標の各項目についての理解度を評価基準とする。 【教員の連絡先】 非常勤講師室				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	シラバス内容の説明 地球の概観	1	
		2週	地球の内部①	1	
		3週	地球の内部②	1	
		4週	プレートテクトニクス	1	
		5週	地震波トモグラフィ	1	
		6週	地震と地殻変動	1, 2	
		7週	火山と岩石の成因	1, 3	
		8週	中間試験		
	4thQ	9週	大気圏の層構造と天気	4	
		10週	いろいろな気象現象	4	
		11週	地球のエネルギー収支	4	
		12週	大気循環	4	
		13週	日本の四季	4, 5	
		14週	海洋と海水の運動	4, 5	
		15週	気候変動と異常気象	4, 5	
		16週	(15週の後に期末試験を実施) 期末試験返却・到達度確認		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

基礎的能力	自然科学	ライフサイエンス/アースサイエンス	ライフサイエンス/アースサイエンス	太陽系を構成する惑星の中に地球があり、月は地球の衛星であることを説明できる。	3	後1
				地球は大気と水で覆われた惑星であることを説明できる。	3	後1
				陸地および海底の大地形とその形成を説明できる。	3	後1
				地球の内部構造を理解して、内部には何があるか説明できる。	3	後2
				マグマの生成と火山活動を説明できる。	3	後3
				地震の発生と断層運動について説明できる。	3	後4
				地球科学を支えるプレートテクトニクスを説明できる。	3	後4
				プレート境界における地震活動の特徴とそれに伴う地殻変動などについて説明できる。	3	後5
				大気圏の構造・成分を理解し、大気圧を説明できる。	3	後9
				大気の大循環を理解し、大気中の風の流れなどの気象現象を説明できる。	3	後9,後11
				大気の大循環を理解し、大気中の風の流れなどの気象現象を説明できる。	3	後10,後12
				海水の運動を理解し、潮流、高潮、津波などを説明できる。	3	後14
地球温暖化の問題点、原因と対策について説明できる。	3	後15				

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	総合英語ⅢA
科目基礎情報					
科目番号	0039	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般科目	対象学年	3		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材	今西薫「QUEST stage 4 Third Edition」(エスト出版)、富田良一「Bird's eye Drills in English Grammar」(エスト出版)、早川幸治「Mastery Drills for the TOEIC L&R Test All in One Target 500」(桐原書店)				
担当教員	山根 秀介, 大内 真一郎				
到達目標					
1 聞き手に伝わるように、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。 2 明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。 3 中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切に運用できる。 4 中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。 5 説明や物語などの文章を毎分100語程度の速読で聞き手に伝わるように音読ができる。 6 平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	聞き手に伝わるように、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	聞き手に伝わるように、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、ある程度、音読あるいは発話できる。	聞き手に伝わるように、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できない。		
評価項目2	明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得してある程度運用できる。	明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を運用できない。		
評価項目3	中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切に運用できる。	中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得してある程度運用できる。	中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を運用できない。		
評価項目4	中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得してある程度運用できる。	中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を運用できない。		
評価項目5	説明や物語などの文章を毎分100語程度の速読で聞き手に伝わるように音読ができる。	説明や物語などの文章を毎分100語程度の速読で聞き手に伝わるようにある程度音読ができる。	説明や物語などの文章を毎分100語程度の速読で聞き手に伝わるように音読ができない。		
評価項目6	平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報がある程度読み取ることができる。	平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	総合教材を使用し、読解、文法、語彙、聴き取りを織り交ぜながら、「読む」「書く」「聴く」「話す」という英語の4技能を基礎から段階的に学習する。併せて、ワークブックにより英文法の演習を行う。				
授業の進め方・方法	【授業方法】 ・授業は講義に適宜演習を取り入れて行う。 ・必要に応じて、課題や小テスト、発表を課す。 【学習方法】 ・黒板の内容は必ずノートに取ること。 ・テキスト、辞書、参考書等を用いて予習をすること。				
注意点	【成績の評価方法・評価基準】 2回の定期試験を行う。時間は50分とする。2回の試験の平均(60%)と、課題・小テスト・演習・発表等(40%)から、総合的に成績を評価する。到達目標への到達度を評価基準とする。 【備考】 授業には必ず、英和辞書を持ってくる。積極的に授業参加すること。 【教員の連絡先】 担当者 山根秀介 / 平尾 恵美 研究室: B棟3階(B-303) / A棟3階(A-302) E-mail: s.yamane アットマーク maizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること) / e.hirao アットマーク maizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること)				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
前期	1stQ	週	授業内容	週ごとの到達目標	
		1週	シラバスの説明・導入 長文読解演習1	1, 2, 3, 4, 5, 6	
		2週	長文読解演習2	1, 2, 3, 4, 5, 6	
		3週	長文読解演習3	1, 2, 3, 4, 5, 6	

2ndQ	4週	長文読解演習4	1, 2, 3, 4, 5, 6
	5週	長文読解演習5	1, 2, 3, 4, 5, 6
	6週	長文読解演習6	1, 2, 3, 4, 5, 6
	7週	長文読解演習7 まとめ	1, 2, 3, 4, 5, 6
	8週	中間試験	
	9週	試験返却・到達度確認 長文読解演習8	1, 2, 3, 4, 5, 6
	10週	長文読解演習9	1, 2, 3, 4, 5, 6
	11週	長文読解演習10	1, 2, 3, 4, 5, 6
	12週	長文読解演習11	1, 2, 3, 4, 5, 6
	13週	長文読解演習12	1, 2, 3, 4, 5, 6
	14週	長文読解演習13	1, 2, 3, 4, 5, 6
	15週	長文読解演習14 まとめ	1, 2, 3, 4, 5, 6
	16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・達成度確認	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15
			明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15
			中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15
			中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15
		英語運用能力の基礎固め	説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15
			平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	40	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	40	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	総合英語Ⅲ B
科目基礎情報					
科目番号	0042	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般科目	対象学年	3		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	今西薫「QUEST stage 4 Third Edition」(エスト出版)、富田良一「Bird's eye Drills in English Grammar」(エスト出版)、早川幸治「Mastery Drills for the TOEIC L&R Test All in One Target 500」(桐原書店)				
担当教員	藤田 憲司, 山根 秀介				
到達目標					
<p>1 聞き手に伝わるように、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。</p> <p>2 明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。</p> <p>3 中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切に運用できる。</p> <p>4 中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。</p> <p>5 説明や物語などの文章を毎分100語程度の速読で聞き手に伝わるように音読ができる。</p> <p>6 平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。</p>					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	聞き手に伝わるように、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	聞き手に伝わるように、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、ある程度、音読あるいは発話できる。	聞き手に伝わるように、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できない。		
評価項目2	明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得してある程度運用できる。	明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を運用できない。		
評価項目3	中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切に運用できる。	中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得してある程度運用できる。	中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を運用できない。		
評価項目4	中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得してある程度運用できる。	中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を運用できない。		
評価項目5	説明や物語などの文章を毎分100語程度の速読で聞き手に伝わるように音読ができる。	説明や物語などの文章を毎分100語程度の速読で聞き手に伝わるようにある程度音読ができる。	説明や物語などの文章を毎分100語程度の速読で聞き手に伝わるように音読ができない。		
評価項目6	平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報がある程度読み取ることができる。	平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	総合教材を使用し、読解、文法、語彙、聴き取りを織り交ぜながら、「読む」「書く」「聴く」「話す」という英語の4技能を基礎から段階的に学習する。併せて、ワークブックにより英文法の演習を行う。				
授業の進め方・方法	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業は講義に適宜演習を取り入れて行う。 ・必要に応じて、課題や小テスト、発表を課す。 <p>【学習方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒板の内容は必ずノートに取ること。 ・テキスト、辞書、参考書等を用いて予習をすること。 				
注意点	<p>【成績の評価方法・評価基準】</p> <p>2回の定期試験を行う。時間(は50分とする。2回の試験の平均(60%)と、課題・小テスト・演習・TOEIC IPテスト・発表等(40%)から、総合的に成績を評価する。到達目標への到達度を評価基準とする。</p> <p>【備考】</p> <p>授業には必ず、英和辞書を持ってくる。積極的に授業参加すること。</p> <p>【教員の連絡先】</p> <p>担当者 藤田 憲司 研究室：A棟3階 (A-303) E-mail：k.fujita アットマーク maizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること。)</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	シラバスの説明・導入 長文読解演習1	1, 2, 3, 4, 5, 6	
		2週	長文読解演習2	1, 2, 3, 4, 5, 6	
		3週	長文読解演習3	1, 2, 3, 4, 5, 6	
		4週	長文読解演習4	1, 2, 3, 4, 5, 6	

4thQ	5週	長文読解演習5	1, 2, 3, 4, 5, 6
	6週	長文読解演習6	1, 2, 3, 4, 5, 6
	7週	長文読解演習7 まとめ	1, 2, 3, 4, 5, 6
	8週	中間試験	
	9週	試験返却・到達度確認 長文読解演習8	1, 2, 3, 4, 5, 6
	10週	長文読解演習9	1, 2, 3, 4, 5, 6
	11週	長文読解演習10	1, 2, 3, 4, 5, 6
	12週	長文読解演習11	1, 2, 3, 4, 5, 6
	13週	長文読解演習12	1, 2, 3, 4, 5, 6
	14週	長文読解演習13	1, 2, 3, 4, 5, 6
	15週	長文読解演習14 まとめ	1, 2, 3, 4, 5, 6
	16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・達成度確認	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
		英語運用能力の基礎固め	説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	40	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	40	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英会話 A
科目基礎情報					
科目番号	0045		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般科目		対象学年	3	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	Breakthrough Plus 2, 2nd Edition (Macmillan Education)				
担当教員	大内 真一郎				
到達目標					
<p>1 Students are able to express their opinions and ideas about familiar everyday topics using basic English expressions.</p> <p>2 Students are eager to learn about languages and cultures other than those of their native country, and are able to communicate with enthusiasm in practical situations.</p> <p>3 Students are able to use basic communication techniques (such as gesture and eye contact) properly depending on the context and purpose.</p>					
ルーブリック					
		Ideal Level of Achievement (Very Good)	Standard Level of Achievement (Good)	Unacceptable Level of Achievement (Fail)	
評価項目1		Students show great skill in expressing their opinions and ideas about familiar everyday topics using basic English expressions.	Students are able to express their opinions and ideas about familiar everyday topics using basic English expressions.	Students are not able to express their opinions and ideas about familiar everyday topics using basic English expressions.	
評価項目2		Students are very eager to learn about languages and cultures other than those of their native country, and are very enthusiastic about communicating in practical situations.	Students are eager to learn about languages and cultures other than those of their native country, and are able to communicate with enthusiasm in practical situations.	Students are not eager to learn about languages and cultures other than those of their native country, and are not able to communicate with enthusiasm in practical situations.	
評価項目3		Students show great skill in using basic communication techniques (such as gesture and eye contact) properly depending on the context and purpose.	Students are able to use basic communication techniques (such as gesture and eye contact) properly depending on the context and purpose.	Students are not able to use basic communication techniques (such as gesture and eye contact) properly depending on the context and purpose.	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	The aim of this course is to develop students' ability to communicate effectively using basic English expressions. Due to the interactive nature of the course, students are expected to participate actively during class sessions.				
授業の進め方・方法	We will do textbook exercises, short reading/writing assignments, and in-class communicative activities.				
注意点	<p>【Course evaluation】 Students will be evaluated on the basis of a written mid-term exam (30%), two interview sessions (40%), and assignments/participation (30%). There will be no final written exam.</p> <p>Please bring an English dictionary (paper or electronic) to class.</p> <p>【Person to Contact】 Shinichiro Ouchi, Emi Hirao Room: A-301, A-302 Extension: 8909, 8906 E-mail: s.ouchi (at) maizuru-ct.ac.jp (change "at" to @), e.hirao (at) maizuru-ct.ac.jp (change "at" to @)</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング <input type="checkbox"/> ICT 利用 <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	Exposition of the Course Description in the Syllabus Unit 1	1, 2, 3	
		2週	Unit 1	1, 2, 3	
		3週	Unit 2	1, 2, 3	
		4週	Unit 2	1, 2, 3	
		5週	Unit 3	1, 2, 3	
		6週	Unit 3	1, 2, 3	
		7週	Interview session	1, 2, 3	
		8週	Mid-term exam		
	2ndQ	9週	Unit 4	1, 2, 3	
		10週	Unit 4	1, 2, 3	
		11週	Unit 5	1, 2, 3	
		12週	Unit 5	1, 2, 3	
		13週	Unit 6	1, 2, 3	

	14週	Unit 6	1, 2, 3
	15週	Interview session	1, 2, 3
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15
				実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	30	0	0	0	30	40	100
基礎的能力	30	0	0	0	30	40	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英会話 B
科目基礎情報					
科目番号	0048		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般科目		対象学年	3	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	Breakthrough Plus 2, 2nd Edition (Macmillan Education)				
担当教員	藤田 憲司, クロシュ テラニ				
到達目標					
<p>1 Students are able to express their opinions and ideas about familiar everyday topics using basic English expressions.</p> <p>2 Students are eager to learn about languages and cultures other than those of their native country, and are able to communicate with enthusiasm in practical situations.</p> <p>3 Students are able to use basic communication techniques (such as gesture and eye contact) properly depending on the context and purpose.</p>					
ルーブリック					
		Ideal Level of Achievement (Very Good)	Standard Level of Achievement (Good)	Unacceptable Level of Achievement (Fail)	
Evaluation 1		Students show great skill in expressing their opinions and ideas about familiar everyday topics using basic English expressions.	Students are able to express their opinions and ideas about familiar everyday topics using basic English expressions.	Students are not able to express their opinions and ideas about familiar everyday topics using basic English expressions.	
Evaluation 2		Students are very eager to learn about languages and cultures other than those of their native country, and show great enthusiasm in communicating in practical situations.	Students are eager to learn about languages and cultures other than those of their native country, and are able to communicate with enthusiasm in practical situations.	Students are not eager to learn about languages and cultures other than those of their native country, and are not able to communicate with enthusiasm in practical situations.	
Evaluation 3		Students show great skill in using basic communication techniques (such as gesture and eye contact) properly depending on the context and purpose.	Students are able to use basic communication techniques (such as gesture and eye contact) properly depending on the context and purpose.	Students are not able to use basic communication techniques (such as gesture and eye contact) properly depending on the context and purpose.	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	The aim of this course is to develop students' ability to communicate effectively using basic English expressions. Due to the interactive nature of the course, students are expected to participate actively during class sessions.				
授業の進め方・方法	We will do textbook exercises, short reading/writing assignments, and in-class communicative activities.				
注意点	<p>Students will be evaluated on the basis of a written mid-term exam (30%), two interview sessions (40%), and assignments/participation (30%). There will be no written final exam. Please bring an English dictionary (paper or electronic) to class.</p> <p>【Person to Contact】 Kenji Fujita Room: A-303 Extension: 8900 E-mail: k.fujita (at) maizuru-ct.ac.jp (change "at" to @)</p> <p>Jim Tehrani Room: Teachers' Room (B-206) Extension: 8125</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	Unit 7	1, 2, 3	
		2週	Unit 7	1, 2, 3	
		3週	Unit 8	1, 2, 3	
		4週	Unit 8	1, 2, 3	
		5週	Unit 9	1, 2, 3	
		6週	Unit 9	1, 2, 3	
		7週	Interview session	1, 2, 3	
		8週	Mid-term exam		
	4thQ	9週	Unit 10	1, 2, 3	
		10週	Unit 10	1, 2, 3	
		11週	Unit 11	1, 2, 3	
		12週	Unit 11	1, 2, 3	
		13週	Unit 12	1, 2, 3	

	14週	Unit 12	1, 2, 3
	15週	Interview session	1, 2, 3
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15

評価割合

	Examination	Presentation	Mutual Evaluations between students	Behavior	Portfolio	Other	合計
総合評価割合	30	0	0	0	30	40	100
Basic Ability	30	0	0	0	30	40	100
Technical Ability	0	0	0	0	0	0	0
Interdisciplinary Ability	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	総合国語ⅡA (M、E)
科目基礎情報					
科目番号	0051		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般科目		対象学年	3	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 『高等学校改訂版現代文B』 (第一学習社) 参考書: 『新版七訂新訂総合国語便覧』 (第一学習社), 『新しい常用漢字』 (数研出版), 『改訂版 漢字とことば 国語学習課題』 (尚文出版)				
担当教員	田村 修一				
到達目標					
1 論理的な文章 (論説や評論) に表された考えに対して, その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。 2 常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。 3 社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。 4 文学作品を深く鑑賞することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	論理的な文章 (論説や評論) に表された考えに対して, その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べるようになる。	論理的な文章 (論説や評論) に表された考えに対して, その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べるができると認められる。	論理的な文章 (論説や評論) に表された考えに対して, その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べるができない。		
評価項目2	常用漢字の音訓を正しく使い, 主な常用漢字が書けるようになる。	常用漢字の音訓を正しく使い, 主な常用漢字が書けることができる。	常用漢字の音訓を正しく使い, 主な常用漢字が書けるものと認められない。		
評価項目3	社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を顕著に説明できるようになった。	社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できると認められる。	社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できると認められない。		
評価項目4	文学作品を深く鑑賞することが顕著にできる。	文学作品を深く鑑賞することができる。	文学作品を深く鑑賞することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (E)					
教育方法等					
概要	高度な評論・文学作品を精読していく。高校3年レベルの検定教科書の作品を中心に採りあげる。作文課題も与えられる。常用漢字, 故事成語や慣用句に関わる小テストも適宜行う。				
授業の進め方・方法	【授業方法】 ・授業は講義形式に進められる。 ・常用漢字, 故事成語や慣用句に関わる小テストも適宜行う。 【学習方法】 ・復習は必ず行うこと。 ・小テストは実施時期・範囲を予告するので事前によく学習しておくこと。				
注意点	【成績の評価方法・評価基準】 上述の到達目標を基準とする定期試験 (70%), レポート・小テストなどの課題提出 (15%), 授業中の音読・質疑応答 (15%) による総合評価。試験時間は50分とする。 【教員の連絡先】 研究室 B棟3階 (B-303) 内線電話 8905 e-mail: tamura@maizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること。)				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	シラバス内容の説明, 評論 見田宗介「『自明性の罨』からの解放」	1, 2, 3	
		2週	評論 見田宗介「『自明性の罨』からの解放」	1, 2, 3	
		3週	評論 内山節「連帯という言葉の意味」	1, 2, 3	
		4週	評論 内山節「連帯という言葉の意味」	1, 2, 3	
		5週	小説 梶井基次郎「檸檬」	2, 4	
		6週	小説 梶井基次郎「檸檬」	2, 4	
		7週	小説 梶井基次郎「檸檬」	2, 4	
		8週	中間試験	1, 2, 3	
	2ndQ	9週	評論 野矢茂樹「言語が見せる世界」	1, 2, 3	
		10週	評論 野矢茂樹「言語が見せる世界」	1, 2, 3	
		11週	評論 野矢茂樹「言語が見せる世界」	1, 2, 3	
		12週	評論 浜田寿美男「身体の個別性」	1, 2, 3	
		13週	評論 浜田寿美男「身体の個別性」	1, 2, 3	
		14週	詩 萩原朔太郎「竹」	2, 4	
		15週	詩 室生犀星「蟬頃」	2, 4	

		16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・達成度確認	1, 2, 3, 4
--	--	-----	----------------------------------	------------

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前16
			常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
			社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	前1,前2,前3,前4,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前16

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	15	0	0	15	0	100
基礎的能力	70	15	0	0	15	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	総合国語ⅡB (M、E)
科目基礎情報					
科目番号	0052		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般科目		対象学年	3	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	検定教科書: 『高等学校改訂版現代文B』 (第一学習社) 参考書: 『新版七訂新訂総合国語便覧』 (第一学習社), 『新しい常用漢字』 (数研出版), 『改訂版 漢字とことば 国語学習課題』 (尚文出版)				
担当教員	田村 修一				
到達目標					
1 常用漢字の音訓を正しく使える。常用漢字が書ける。 2 類義語・対義語を思考や表現に活用できる。 3 専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。 4 高度な文章を読み解くことができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	常用漢字の音訓を正しく使い、常用漢字が書けることが顕著にできるようになった。	常用漢字の音訓を正しく使い、常用漢字が書けると認められる。	常用漢字の音訓を正しく使い、常用漢字が書けると認められない。		
評価項目2	読書週間の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を顕著に習得した。	読書週間の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得したと認められる。	読書週間の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得できない。		
評価項目3	専門の分野に関する用語を思考や表現に顕著に活用できる。	専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できない。		
評価項目4	高度な文章を読み解くことが顕著にできる。	高度な文章を読み解くことができる。	高度な文章を読み解くことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (E)					
教育方法等					
概要	高度な評論・文学作品を精読していく。高校3年レベルの検定教科書の作品を中心に採りあげる。作文課題も与えられる。常用漢字、類義語・対義語に関わる小テストも適宜行う。				
授業の進め方・方法	【授業方法】 ・授業は講義形式に進められる。 ・常用漢字、類義語・対義語に関わる小テストも適宜行う。 ・専門分野に関わるレポート課題を与える。 【学習方法】 ・復習は必ず行うこと。 ・小テストは実施時期・範囲を予告するので事前によく学習して臨むこと。				
注意点	【成績の評価方法・評価基準】 上述の到達目標を基準とする定期試験 (70%), レポート・小テスト (15%), 音読・質疑応答 (15%) による総合評価。試験時間は50分とする。 【教員の連絡先】 研究室 B棟3階 (B-303) 内線電話 8905 e-mail: tamura@maizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること。)				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	シラバス内容の説明, 評論 中村雄二郎「目に見える制度と見えない制度」	1, 2, 4	
		2週	評論 中村雄二郎「目に見える制度と見えない制度」	1, 2, 4	
		3週	評論 中村雄二郎「目に見える制度と見えない制度」	1, 2, 4	
		4週	評論 夏目漱石「現代日本の開化」	1, 2, 4	
		5週	評論 夏目漱石「現代日本の開化」	1, 2, 4	
		6週	評論 夏目漱石「現代日本の開化」	1, 2, 4	
		7週	評論 夏目漱石「現代日本の開化」	1, 2, 4	
		8週	中間試験	1, 2, 4	
	4thQ	9週	中間試験返却・到達度確認、評論 河野哲也「コスモポリタリズムの可能性」	1, 2, 4	
		10週	評論 河野哲也「コスモポリタリズムの可能性」	1, 2, 3	
		11週	専門の分野に関する用語を思考や表現に活用したレポートの作成	1, 2, 4	
		12週	評論 丸山真男「『である』ことと『する』こと」	1, 2, 4	
		13週	評論 丸山真男「『である』ことと『する』こと」	1, 2, 4	
		14週	評論 丸山真男「『である』ことと『する』こと」	1, 2, 4	
		15週	評論 丸山真男「『である』ことと『する』こと」	1, 2, 4	

		16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・達成度確認	1, 2, 4
--	--	-----	----------------------------------	---------

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後12,後13,後14,後15,後16
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3	後11

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	15	0	0	15	0	100
基礎的能力	70	15	0	0	15	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	総合国語ⅡA (S、C)
科目基礎情報					
科目番号	0053		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般科目		対象学年	3	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	検定教科書 『高等学校改訂版現代文B』 (第一学習社) 参考書 『新版七訂新訂総合国語便覧』 (第一学習社), 『新しい常用漢字』 (数研出版), 『改訂版 漢字とことば 国語学習課題』 (尚文出版)				
担当教員	萩田 みどり				
到達目標					
1 論理的な文章 (論説や評論) に表された考えに対して, その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。 2 常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。 3 社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。 4 日本文学・文化に興味・関心を持ち, 時代背景を踏まえて自分の意見を述べることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	論理的な文章 (論説や評論) に表された考えに対して, その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べる事が十分にできる。	論理的な文章 (論説や評論) に表された考えに対して, その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べる事ができると認められる。	論理的な文章 (論説や評論) に表された考えに対して, その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べる事ができない。		
評価項目2	常用漢字の音訓を正しく使い, 主な常用漢字が書く事が十分にできる。	常用漢字の音訓を正しく使い, 主な常用漢字が書けると認められる。	常用漢字の音訓を正しく使えず, 主な常用漢字が書けない。		
評価項目3	社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を十分に説明できる。	社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できると認められる。	社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できない。		
評価項目4	日本文学・文化に興味・関心を持ち, 時代背景を踏まえて自分の意見を十分に述べる事ができる。	日本文学・文化に興味・関心を持ち, 時代背景を踏まえて自分の意見を述べる事ができると認められる。	日本文学・文化に興味・関心を持ち, 時代背景を踏まえて自分の意見を述べる事ができない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (E)					
教育方法等					
概要	高度な評論・文学作品を精読する。高校3年生レベルの検定教科書の作品を中心に採りあげる。常用漢字・故事成語・慣用句に関わる小テストや作文課題によって, 語彙を増やし, 表現の幅を広げる。				
授業の進め方・方法	【授業方法】 ・授業は主に講義形式で進める。 ・常用漢字, 類義語・対義語に関わる小テストを行う。 ・適宜グループワーク等, 能動的な活動を取り入れる。 ・必要に応じてレポート課題の提出を課す。 【学習方法】 ・常に主体的に考え, 目的意識をもって積極的に授業に臨むこと。 ・分からないことがあれば質問すること。				
注意点	【成績の評価方法・評価基準】 2回の定期試験を行う。時間は50分とする。 2回の試験の平均 (70%) と, 提出課題・小テスト・質疑応答等 (30%) から, 総合的に評価する。 到達目標への到達度を評価基準とする。 【教員の連絡先】 研究室 B棟3階 (B-301) 内線電話 8904 e-mail: m.ogita@maizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること。)				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	シラバス内容の説明, 評論 長倉洋海「写真の持つ力」	1, 2, 3	
		2週	評論 長倉洋海「写真の持つ力」	1, 2, 3	
		3週	評論 岩井克人「未来世代への責任」	1, 2, 3	
		4週	評論 岩井克人「未来世代への責任」	1, 2, 3	
		5週	小説 梶井基次郎「檸檬」	1, 2, 3, 4	
		6週	小説 梶井基次郎「檸檬」	1, 2, 3, 4	
		7週	小説 梶井基次郎「檸檬」	1, 2, 3, 4	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	評論 野矢茂樹「言語が見せる世界」	1, 2, 3	
		10週	評論 野矢茂樹「言語が見せる世界」	1, 2, 3	
		11週	評論 野矢茂樹「言語が見せる世界」	1, 2, 3	

	12週	発表	1, 2, 3, 4
	13週	発表	1, 2, 3, 4
	14週	小説	1, 2, 3, 4
	15週	小説	1, 2, 3, 4
	16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・達成度確認	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15
			常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15
			社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	10	0	0	20	0	100
基礎的能力	70	10	0	0	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	総合国語ⅡB (S、C)
科目基礎情報					
科目番号	0054		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般科目		対象学年	3	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	検定教科書 『高等学校改訂版現代文B』 (第一学習社) 参考書 『新版七訂新訂総合国語便覧』 (第一学習社), 『新しい常用漢字』 (数研出版), 『改訂版 漢字とことば 国語学習課題』 (尚文出版)				
担当教員	萩田 みどり				
到達目標					
1 類義語・対義語を思考や表現に活用できる。 2 専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。 3 高度な文章を読み解くことができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	類義語・対義語を思考や表現に十分に活用できる。		類義語・対義語を思考や表現に活用できると認められる。		類義語・対義語を思考や表現に活用できない。
評価項目2	専門の分野に関する用語を思考や表現に十分に活用できる。		専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できると認められる。		専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できない。
評価項目3	高度な文章を読み解くことが十分にできる。		高度な文章を読み解くことができる。		高度な文章を読み解くことができない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (E)					
教育方法等					
概要	高度な評論・論文を精読する。高校3年生レベルの検定教科書の作品を中心に採りあげる。常用漢字、類義語・対義語に関わる小テストやレポート課題によって、語彙を増やし表現の幅を広げる。アカデミックな文章の書き方、構成の仕方を学ぶ。				
授業の進め方・方法	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業は主に講義形式で進める。 ・常用漢字、類義語・対義語に関わる小テストを行う。 ・適宜グループワーク等、能動的な活動を取り入れる。 ・必要に応じてレポート課題の提出を課す。 <p>【学習方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常に主体的に考え、目的意識をもって積極的に授業に臨むこと。 ・分からないことがあれば質問すること。 				
注意点	<p>【成績の評価方法・評価基準】</p> <p>2回の定期試験を行う。時間は50分とする。 2回の試験の平均 (60%) と、提出課題・小テスト・音読や質疑応答等 (40%) から、総合的に評価する。 到達目標への到達度を評価基準とする。</p> <p>【教員の連絡先】</p> <p>研究室 B棟3階 (B-301) 内線電話 8904 e-mail: m.ogita@maizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること。)</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	シラバス内容の説明, 評論 中村雄二郎「目に見える制度と見えない制度」	1, 3	
		2週	評論 中村雄二郎「目に見える制度と見えない制度」	1, 3	
		3週	評論 中村雄二郎「目に見える制度と見えない制度」	1, 3	
		4週	論理的な文章の書き方	1, 3	
		5週	論文を読んでみる	1, 3	
		6週	論文を読んでみる	1, 3	
		7週	論文を読んでみる	1, 3	
		8週	中間試験		
	4thQ	9週	中間試験返却・到達度確認, 専門の分野に関する用語を思考や表現に活用したレポートの作成	1, 2	
		10週	専門の分野に関する用語を思考や表現に活用したレポートの作成	1, 2	
		11週	専門の分野に関する用語を思考や表現に活用したレポートの作成	1, 2	
		12週	専門の分野に関する用語を思考や表現に活用したレポートの作成	1, 2	
		13週	評論 大澤真幸「リスク社会とは何か」	1, 3	
		14週	評論 大澤真幸「リスク社会とは何か」	1, 3	
		15週	評論 大澤真幸「リスク社会とは何か」	1, 3	

		16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・達成度確認				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15	
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3	後9,後10,後11,後12	
評価割合							
	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	40	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	40	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	日本語 A
科目基礎情報					
科目番号	0055		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般科目		対象学年	3	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	『実力日本語 (上)』 (アルク) ほか適宜プリント配布。				
担当教員	田村 修一				
到達目標					
1 日本語の文法的知識を核として、1 聞く、2 話す、3 読む、4 書く、の4 技能を総合的に習得する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	日本語の文法的知識を核として、1 聞く、2 話す、3 読む、4 書く、の4 技能を総合的に習得したことが顕著に認められる。		日本語の文法的知識を核として、1 聞く、2 話す、3 読む、4 書く、の4 技能を総合的に習得したことが認められる。		日本語の文法的知識を核として、1 聞く、2 話す、3 読む、4 書く、の4 技能を総合的に習得したと認められない。
評価項目2					
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (E)					
教育方法等					
概要	以下の文法的内容を中心に学習する。CDを利用したリスニングも毎週行い、「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」の4 方面から日本語の技能を高める。				
授業の進め方・方法	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> CDを用いて、「聞く」・「話す」訓練を行う。 講義は文法的解説を中心とする。 問題演習のプリントで、文法・読解・作文のトレーニングをする。 <p>【学習方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 復習を必ず行い、知識の定着をはかるとともに、日頃の生活の中でも日本語力の向上を心がけること。 				
注意点	<p>【成績の評価基準・評価方法】</p> <p>上記の到達目標に基づき、以下の授業内容の理解の到達度を評価の基準とする定期試験による。時間は50分 (100%)。</p> <p>【教員の連絡先】</p> <p>研究室 B棟3階 (B-303) 内線電話 8905 e-mail: tamuraアットマークmaizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること。)</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	シラバス内容の説明、名詞文現在形 (「私は田中です」)	1	
		2週	疑問名詞文 (「教室の鉤はどれですか」)	1	
		3週	イ形容詞文 (「日本語の発音は難しいです」)	1	
		4週	要求文 (「お茶をください」)	1	
		5週	動詞文「を格」 (「田中さんは毎日新聞を読みます」)	1	
		6週	動詞文否定形 (「田中さんはたばこを吸いません」)	1	
		7週	動詞文過去形 (「張さんはきのう本を買いました」)	1	
		8週	中間試験	1	
	2ndQ	9週	中間試験返却・到達度確認、動詞文「へ格」・「に格」 (「張さんは学校へ行きました」)	1	
		10週	動詞文「から格」 (「田中さんは京都から来ました」)	1	
		11週	概数「〜ぐらい」 (「張さんは3時間ぐらい勉強しました」)	1	
		12週	イ形容詞文過去形 (「きのうは寒かったです」)	1	
		13週	動詞文「に」物の存在 (「あそこに銀行があります」)	1	
		14週	並立助詞「や」・「か」 (「化学や物理学を勉強します」)	1	
		15週	疑問詞+「か」不定形 (「何かありますか」)	1	
		16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・達成度確認	1	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合							
	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	日本語 B
科目基礎情報					
科目番号	0056		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般科目		対象学年	3	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	『実力日本語 (上)』ほか適宜プリント配布。				
担当教員	田村 修一				
到達目標					
1 日本語の文法的知識を核として、1 聞く、2 話す、3 読む、4 書く、の4 技能を総合的に習得する。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	日本語の文法的知識を核として、1 聞く、2 話す、3 読む、4 書く、の4 技能を総合的に習得したことが顕著に認められる。		日本語の文法的知識を核として、1 聞く、2 話す、3 読む、4 書く、の4 技能を総合的に習得したことが認められる。		日本語の文法的知識を核として、1 聞く、2 話す、3 読む、4 書く、の4 技能を総合的に習得したと認められない。
評価項目2					
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (E)					
教育方法等					
概要	以下の文法的内容を中心に学習する。CDを利用したリスニングも毎週行い、「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」の4 方面から日本語の技能を高める。				
授業の進め方・方法	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ CDを用いて、「聞く」・「話す」訓練を行う。 ・ 講義は文法的解説を中心とする。 ・ 問題演習のプリントで、文法・読解・作文のトレーニングをする。 <p>【学習方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 復習を必ず行い、知識の定着をはかるとともに、日頃の生活の中でも日本語力の向上を心がけること。 				
注意点	<p>【成績の評価基準・評価方法】</p> <p>上記の到達目標に基づき、以下の授業内容の理解の到達度を評価の基準とする定期試験による。時間は50分(100%)。</p> <p>【教員の連絡先】</p> <p>研究室 B棟3階 (B-303) 内線電話 8905 e-mail: tamuraアットマークmaizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること。)</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	シラバス内容の説明、ナ形容詞文、名詞修飾形（「これは丈夫な靴です」）	1	
		2週	動詞文（「～に～を」）（「張さんは友達に手紙を書きました」）	1	
		3週	動詞文完了「た」（「仕事はもう終わりました」）	1	
		4週	変化 イ形容詞「～く」形（「張さんは仕事が忙しくなりました」）	1	
		5週	ナ形容詞文「～は～が」（「私は桃が好きです」）	1	
		6週	推量（「たぶん雨が降るでしょう」）	1	
		7週	とりたて助詞（を→は）（「張さんはお酒は飲みません」）	1	
		8週	後期中間試験	1	
	4thQ	9週	否定疑問文（「王さんはいませんか」）	1	
		10週	希望（「私は外国へ行きたいです」）	1	
		11週	誘いかけ 否定疑問文形（「一緒に行きませんか」）	1	
		12週	動詞「て」形 依頼（「車に気を潰けてください」）	1	
		13週	動詞「ないで」形 禁止（たばこを吸わないでください）	1	
		14週	否定疑問文形（「これは張さんの本ではありませんか」）	1	
		15週	動詞「ても」形（許可）・「ては」（禁止）（「写真を撮ってもいいですか」）	1	
		16週	（15週目の後に期末試験を実施） 後期期末試験返却・達成度確認	1	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合							
	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	人間論
科目基礎情報					
科目番号	0057		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般科目		対象学年	3	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	(a) 検定教科書『倫理』(数研出版)				
担当教員	山根 秀介				
到達目標					
<p>1 民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。</p> <p>2 人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。</p> <p>3 高度情報通信ネットワーク社会の中核にある情報通信技術と倫理との関わりを説明できる。</p> <p>4 技術者を目指す者として、平和の構築、異文化理解の推進、自然資源の維持、災害の防止などの課題に力を合わせて取り組んでいくことの重要性を認識している。</p> <p>5 様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	民族、宗教、生活文化の多様性を十分に理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について適切に考察できる。	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できない。		
評価項目2	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を十分に理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について適切に考察できる。	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できない。		
評価項目3	高度情報通信ネットワーク社会の中核にある情報通信技術と倫理との関わりを十分に説明できる。	高度情報通信ネットワーク社会の中核にある情報通信技術と倫理との関わりを説明できる。	高度情報通信ネットワーク社会の中核にある情報通信技術と倫理との関わりを説明できない。		
評価項目4	技術者を目指す者として、平和の構築、異文化理解の推進、自然資源の維持、災害の防止などの課題に力を合わせて取り組んでいくことの重要性を十分に認識している。	技術者を目指す者として、平和の構築、異文化理解の推進、自然資源の維持、災害の防止などの課題に力を合わせて取り組んでいくことの重要性を認識している。	技術者を目指す者として、平和の構築、異文化理解の推進、自然資源の維持、災害の防止などの課題に力を合わせて取り組んでいくことの重要性を認識していない。		
評価項目5	様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について十分に説明できる。	様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (E) 学習・教育到達度目標 (F)					
教育方法等					
概要	私たちがふだん自明のものと考えている「人間」について、哲学や思想、宗教の歴史をたどりつつ、根本的に考えていく。あらゆるものと同様、「人間」とは必ずしも科学的、定量的に捉えられるような存在ではない。「人間」をさまざまな角度から考えることで、受講者の「人間観」が根本的に捉え直されるようになることを望む。				
授業の進め方・方法	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的には教科書に沿って授業を行うが、適宜担当者の作成したプリントも使用する。 できるかぎり現代の諸問題と密接に結びつけて解説する。 授業のはじめに、前回の授業内容とその日の学習事項・ポイントを確認する。 授業は生きものであり、受講者と教員との相互作用によって進むものであるため、必ずしもシラバス通りに進行するとは限らない(クラスによって成績評価に影響のないよう留意する)。 <p>【学習方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「自己理解」に役立つよう、様々なテーマを自分自身に引きつけて自らの問題として考えながら講義を受ける。 その際、質問に積極的に答える。 さらに、自らも積極的に質問し、主体的に授業に参加するよう努める。 授業の眼目は、自らの力で考える基礎力をつけることにある。したがって、知識の一時的な丸暗記では意味がない。知識は「教養」として活用できることが大切である。そのためには、授業の後、授業内容を友達などと話しあってみる。そのことによって、聞き落とししたこと、勘違いに気づくことができる。さらに、みずから言葉としてアウトプットすることで、主体的に考える力、メディア・リテラシーが養われる。 授業を聞くだけでなく、自分で関心に応じて書籍を借りたり購入したりして読むこと。 				
注意点	<p>【評価方法・評価基準】</p> <p>2回の定期試験によって評価する。時間は50分とする。中間試験を50%、期末試験を50%として計算する。到達目標への到達度を評価基準とする。</p> <p>【教員の連絡先】</p> <p>研究室 山根秀介 B棟3階 (B-305) 内線電話 8902 E-mail :s.yamane アットマーク maizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること。)</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		

前期	1stQ	1週	シラバス内容の説明, 人間(学)とは何か	2, 3, 4
		2週	人間と自己(1)	2, 3, 4
		3週	人間と自己(2)	2, 3, 4
		4週	古代ギリシアの思想(1)	1, 2, 5
		5週	古代ギリシアの思想(2)	1, 2, 5
		6週	古代ユダヤ教と古代キリスト教	1, 4, 5
		7週	イスラーム	1, 4, 5
		8週	中間試験	
	2ndQ	9週	中間試験の解説	
		10週	古代インドの思想と仏教(1)	1, 2, 5
		11週	古代インドの思想と仏教(2)	1, 2, 5
		12週	古代中国の思想(1)	1, 4, 5
		13週	古代中国の思想(2)	1, 4, 5
		14週	古代日本の思想(1)	1, 4, 5
		15週	古代日本の思想(2)	1, 4, 5
		16週	(15週の後)に期末試験を実施) 期末試験返却・到達度確認	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15
			公民的分野	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5
	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	高度情報通信ネットワーク社会の中核にある情報通信技術と倫理との関わりを説明できる。	3	前1,前2,前3
			技術者を指す者として、平和の構築、異文化理解の推進、自然資源の維持、災害の防止などの課題に力を合わせて取り組んでいくことの重要性を認識している。	3	前1,前2,前3,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15	
			グローバル化・異文化多文化理解	様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	3	前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15
			グローバル化・異文化多文化理解	様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	3	前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	微分積分Ⅱ A
科目基礎情報					
科目番号	0058		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科目		対象学年	3	
開設期	前期		週時間数	4	
教科書/教材	教科書: 佐々木 良勝 他「LIBRARY 工学基礎 & 高専TEXT 微分積分」(数理工学社), 問題集: 「LIBRARY 工学基礎 & 高専TEXT 微分積分問題集」(数理工学社)				
担当教員	奥村 昌司, 岡田 浩嗣				
到達目標					
1 区分求積法で定積分を求めることができる。 2 図形の面積, 曲線の長さ, 立体の体積を定積分で求めることができる。 3 2次までの導関数を利用して, グラフの凹凸を調べ, グラフの概形を描くことができる。 4 近似式やテイラー展開を計算できる。 5 媒介変数表示された関数の導関数を利用して, 面積や長さを計算できる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	定積分を区分求積法で計算できる。	定積分を区分求積法で表せる。	定積分を区分求積で表せない。		
評価項目2	積分を用いて, 面積, 体積, 曲線の長さを計算できる。	面積, 体積, 曲線の長さを積分の形に表せる。	積分を用いて, 面積, 体積, 曲線の長さを計算できない。		
評価項目3	第2次までの導関数や極限值などを調べて, グラフの概形を描ける。	第2次までの導関数に基いて増減凹凸の表が作れる。	第2次までの導関数に基いて増減凹凸の表が作れない。		
評価項目4	関数のテイラー展開の式が書け, 近似値や平均値の定理と結びつけて説明できる。	関数のテイラー展開の式が書ける。	関数のテイラー展開が書けない。		
評価項目5	媒介変数表示された関数の導関数を用いて, グラフの接線, 面積や長さの応用的な問題が解ける。	媒介変数表示された関数の導関数を用いて, グラフの接線, 面積や長さを計算できる。	媒介変数表示された関数の導関数を用いて, グラフの接線, 面積や長さを計算できない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (A)					
教育方法等					
概要	2年後期に履修した微分積分ⅠA・ⅠBに引き続き, 微分積分法を学習し, その基礎となる考え方や方法を身につける。				
授業の進め方・方法	【授業方法】 ・授業は, 講義を中心に進める。 ・適宜, 問題演習を行う。 【学習方法】 ・教科書や問題集の問題を日頃から反復的に解くこと。				
注意点	【成績の評価方法・評価基準】 2回の定期試験を行う。時間は50分とする。2回の試験の点数(60%)と課題の取り組み(40%)基に, 成績を評価する。到達目標の各項目について, 理解や具体例の計算の到達度を評価基準とする。 【備考】 授業でわからなかったところはそのままにせず, 放課後などを利用して積極的に教員に質問すること。 【教員の連絡先】 研究室 A棟2階(奥村: A-206 / 岡田: A-209) 内線電話 奥村: 8914 / 岡田: 8952 e-mail 奥村: sokumura / 岡田: okada アットマーク maizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること)				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	シラバス内容の説明, 部分積分と三角関数の積分, 面積	2	
		2週	面積, 体積, 曲線の長さの積分計算(1), (区分求積法と面積)	1	
		3週	面積, 体積, 曲線の長さの積分計算(2), (面積と体積)	2	
		4週	面積, 体積, 曲線の長さの積分計算(3), (体積と長さ)	2	
		5週	高次導関数(1), (ライプニッツの公式)	3	
		6週	高次導関数(2), (平均値の定理, ロピタルの定理)	3	
		7週	高次導関数(3), (関数の凹凸と変曲点)	3	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	中間試験返却, 高次導関数(4), (媒介変数表示された関数の微分)	5	
		10週	高次導関数(5), (近似式)	4	

	11週	高次導関数(6), (テイラー展開, 複素数変数の指数関数)	4
	12週	媒介変数表示(1), (媒介変数表示の曲線が描く図形の面積)	5
	13週	媒介変数表示(2), (極方程式が描く図形の面積)	5
	14週	定積分の定義と微積分の基本定理(2), (広義積分)	5
	15週	定積分の定義と微積分の基本定理(3), (区分求積法)	1, 5
	16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・到達度確認	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	数学	数学	関数の増減表を書いて、極値を求め、グラフの概形をかくことができる。	3	前5,前6,前7
			2次の導関数を利用して、グラフの凹凸を調べることができる。	3	前5,前6,前7
			関数の媒介変数表示を理解し、媒介変数を利用して、その導関数を求めることができる。	3	前9
			定積分の定義と微積分の基本定理を理解し、簡単な定積分を求めることができる。	3	前1,前14,前15
			簡単な場合について、曲線で囲まれた図形の面積を定積分で求めることができる。	3	前2,前3,前12,前13
			簡単な場合について、曲線の長さを定積分で求めることができる。	3	前4
			簡単な場合について、立体の体積を定積分で求めることができる。	3	前3,前4
			簡単な1変数関数の局所的な1次近似式を求めることができる。	3	前10
			1変数関数のテイラー展開を理解し、基本的な関数のマクローリン展開を求めることができる。	3	前10,前11
			オイラーの公式を用いて、複素数変数の指数関数の簡単な計算ができる。	3	前11

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	40	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	40	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	確率統計
科目基礎情報					
科目番号	0059		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般科目		対象学年	3	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	岡本 和夫 他「新版確率統計」(実教出版), 「新版確率統計演習」(実教出版)				
担当教員	奥村 昌司, 岡田 浩嗣				
到達目標					
1 確率とその定理を用いて色々な確率を求められる。 2 1次元および2次元のデータを整理して, 各種の統計量を求めることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	色々な確率を求められ, 具体的な推論に応用できる。	色々な確率を求められる。	色々な確率を求められない。		
評価項目2	1次元および2次元のデータを整理して, 各種の統計量を求め, 具体的な推論に応用できる。	1次元および2次元のデータを整理して, 各種の統計量を求めることができる。	各種の統計量を求めることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (A)					
教育方法等					
概要	微分積分IA・IBを前提として, 確率統計を学習し, その基礎となる考え方や方法を身につける。				
授業の進め方・方法	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業は, 講義を中心に進める。 ・適宜, 問題演習を行う。 <p>【学習方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書や問題集の問題を日頃から反復的に解くこと。 				
注意点	<p>【成績の評価方法・評価基準】</p> <p>2回の定期試験を行う。時間は50分とする。2回の試験の点数(60%)と課題の取り組み(40%)基に, 成績を評価する。到達目標の各項目について, 理解や具体例の計算の到達度を評価基準とする。</p> <p>【備考】</p> <p>授業でわからなかったところはそのままにせず, 放課後などを利用して積極的に教員に質問すること。</p> <p>【教員の連絡先】</p> <p>研究室 A棟2階(奥村:A-206 / 岡田:A-209) 内線電話 奥村: 8914 / 岡田: 8952 e-mail 奥村: sokumura / 岡田: okada アットマーク maizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること)</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	シラバス内容の説明, 確率(1)	1	
		2週	確率(1)	1	
		3週	確率(2)	1	
		4週	確率(2)	1	
		5週	確率(3)	1	
		6週	確率(3)	1	
		7週	問題演習	1	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	中間試験返却, データの整理(1)	2	
		10週	データの整理(1)	2	
		11週	データの整理(2)	2	
		12週	データの整理(2)	2	
		13週	データの整理(3)	2	
		14週	データの整理(3)	2	
		15週	問題演習	2	
		16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・到達度確認		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	数学	数学	独立試行の確率, 余事象の確率, 確率の加法定理, 排反事象の確率を理解し, 簡単な場合について, 確率を求めることができる。	3	前1, 前2, 前3, 前4, 前7
			条件付き確率, 確率の乗法定理, 独立事象の確率を理解し, 簡単な場合について確率を求めることができる。	3	前4, 前5, 前6, 前7

			1次元のデータを整理して、平均・分散・標準偏差を求めることができる。	3	前9,前10,前11,前12,前15
			2次元のデータを整理して散布図を作成し、相関係数・回帰直線を求めることができる。	3	前12,前13,前14,前15

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	40	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	40	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	微分積分Ⅱ B
科目基礎情報					
科目番号	0060		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科目		対象学年	3	
開設期	後期		週時間数	4	
教科書/教材	教科書: 佐々木 良勝 他「LIBRARY 工学基礎 & 高専TEXT 微分積分」(数理工学社), 問題集: 「LIBRARY 工学基礎 & 高専TEXT 微分積分問題集」(数理工学社)				
担当教員	奥村 昌司, 岡田 浩嗣				
到達目標					
1 2変数関数の偏微分が計算でき, 2次までの近似式やテイラー展開が書ける。 2 偏導関数を用いて2変数関数の極値を計算できる。 3 累次積分や座標変換などを用いて, 重積分を計算できる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	2変数関数の偏微分が計算でき, 2次までの近似式やテイラー展開を応用できる。		2変数関数の偏微分が計算でき, 2次までの近似式やテイラー展開が書ける。		2変数関数の偏微分が計算できない。
評価項目2	2変数関数の極値を計算し, 応用できる。		2変数関数の極値を計算できる。		2変数関数の極値を計算できない。
評価項目3	累次積分や座標変換を用いて重積分を計算し, 応用できる。		累次積分や座標変換を用いて重積分が計算できる。		重積分の計算ができない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (A)					
教育方法等					
概要	微分積分ⅠA・ⅠB・ⅡAに引き続き, 微分積分法を学習し, その基礎となる考え方や方法を身につける。				
授業の進め方・方法	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業は, 講義を中心に進める。 ・適宜, 問題演習を行う。 <p>【学習方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書や問題集の問題を日頃から反復的に解くこと。 				
注意点	<p>【成績の評価方法・評価基準】</p> <p>2回の定期試験を行う。時間は50分とする。2回の試験の点数(60%)と課題の取り組み(40%)基に, 成績を評価する。到達目標の各項目について, 理解や具体例の計算の到達度を評価基準とする。</p> <p>【備考】</p> <p>授業でわからなかったところはそのままにせず, 放課後などを利用して積極的に教員に質問すること。</p> <p>【教員の連絡先】</p> <p>研究室 A棟2階(奥村: A-206 / 岡田: A-209) 内線電話 奥村: 8914 / 岡田: 8952 e-mail 奥村: sokumura / 岡田: okada アットマーク maizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること)</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	シラバス内容の説明, 偏微分法(1), (2変数関数と極限)	1	
		2週	偏微分法(2), (2変数関数と極限, 偏導関数)	1	
		3週	偏微分法(3), (接平面と全微分)	1	
		4週	偏微分法(4), (合成関数の偏微分)	2	
		5週	偏微分法(5), (2変数関数のテイラーの定理)	2	
		6週	偏微分法(6), (2変数関数の極値)	2	
		7週	偏微分法(7), (2変数関数の極値)	2	
		8週	中間試験		
	4thQ	9週	中間試験返却, 重積分(1), (長方形領域の積分と累次積分)	3	
		10週	重積分(2), (一般領域の積分と累次積分)	3	
		11週	重積分(3), (累次積分の順序交換)	3	
		12週	重積分(4), (重積分の変数変換)	3	
		13週	重積分(5), (重積分の変数変換)	3	
		14週	重積分(6), (重積分による体積計算)	3	
		15週	重積分(7), (重積分による体積計算)	3	
		16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・到達度確認		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	数学	数学	数学	2変数関数の定義域を理解し、不等式やグラフで表すことができる。	3	後1,後2,後3
				合成関数の偏微分法を利用して、偏導関数を求めることができる。	3	後2,後4
				簡単な関数について、2次までの偏導関数を求めることができる。	3	後5
				偏導関数を用いて、基本的な2変数関数の極値を求めることができる。	3	後6,後7
				2重積分の定義を理解し、簡単な2重積分を累次積分に直して求めることができる。	3	後9,後10,後11
				極座標に変換することによって2重積分を求めることができる。	3	後12,後13
				2重積分を用いて、簡単な立体の体積を求めることができる。	3	後14,後15

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	40	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	40	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	微分積分演習
科目基礎情報					
科目番号	0061	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般科目	対象学年	3		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	阿蘇和寿ほか「ドリルと演習シリーズ 微分積分」(電気書院), 佐々木良勝ほか「LIBRARY工学基礎&高専TEXT 微分積分」(数理工学社), 佐々木良勝ほか「LIBRARY工学基礎&高専TEXT 微分積分問題集」(数理工学社)				
担当教員	奥村 昌司, 岡田 浩嗣				
到達目標					
1 数列や関数の極限を求めることができる。 2 関数の微分係数と導関数が計算できる。 3 微分係数や導関数を用いて, グラフの性質を調べることができる。 4 不定積分の定義と公式を用いて原始関数が計算できる。 5 定積分の計算ができる。 6 図形の面積, 曲線の長さ, 立体の体積を定積分で求めることができる。 7 1変数関数の近似式やテイラー展開を計算できる。 8 関数の媒介変数表示の導関数を利用して, 面積や長さを計算できる。 9 偏導関数を用いて2変数関数の極値を求めることができる。 10 累次積分や座標変換などを用いて, 重積分を計算できる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	様々な数列や関数の極限を求めることができる。	基本的な数列や関数の極限を求めることができる。	関数の極限を求めることができない。		
評価項目2	様々な関数の微分係数と導関数が計算できる。	基本的な関数の微分係数と導関数が計算できる。	関数の微分係数と導関数が計算できない。		
評価項目3	微分係数や導関数を用いて, 様々なグラフの性質を詳しく調べることができる。	微分係数や導関数を用いて, 基本的なグラフの性質を調べることができる。	微分係数や導関数を用いて, グラフの性質を調べることができない。		
評価項目4	不定積分の定義と公式を用いて, 様々な関数の原始関数が計算できる。	不定積分の定義と公式を用いて, 基本的な関数の原始関数が計算できる。	関数の原始関数が計算できる。		
評価項目5	様々な関数の定積分の計算ができる。	基本的な関数の定積分の計算ができる。	定積分の計算ができない。		
評価項目6	様々な場合について, 図形の面積, 曲線の長さ, 立体の体積を定積分で求めることができる。	基本的な場合について, 図形の面積, 曲線の長さ, 立体の体積を定積分で求めることができる。	図形の面積, 曲線の長さ, 立体の体積を定積分で求めることができない。		
評価項目7	様々な1変数関数について, 近似式やテイラー展開を計算できる。	基本的な1変数関数について, 近似式やテイラー展開を計算できる。	近似式やテイラー展開を計算できない。		
評価項目8	関数の媒介変数表示の導関数を利用して, 発展的な面積や長さの問題が解ける。	関数の媒介変数表示の導関数を利用して, 面積や長さを計算できる。	関数の媒介変数表示の導関数を利用して, 面積や長さを計算できない。		
評価項目9	偏導関数を用いて2変数関数の極値を求めることができ, 応用できる。	偏導関数を用いて2変数関数の極値を求めることができる。	偏導関数を用いて2変数関数の極値を求めることができない。		
評価項目10	累次積分や座標変換などを適切に用いて, 重積分を具体例の計算に応用できる。	累次積分や座標変換などを用いて, 重積分を計算できる。	累次積分や座標変換などを用いて, 重積分を計算できない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (A)					
教育方法等					
概要	微分積分 I A・I B・II A・微分積分 II Bの内容を定着させ, 応用する力を育むことを目的として演習を行う。				
授業の進め方・方法	【授業方法】 ・教科書の内容に沿って, 問題集, 補助プリント, 指定のドリルなどを用いた演習を行う。 ・必要に応じてレポート課題を課す。 【学習方法】 ・教科書, 問題集, ドリルを持参すること。 ・教科書や問題集の問題を日頃から反復的に解くこと。 ・授業でわからなかったところはそのままにせず, 放課後などを利用して積極的に教員に質問すること。				
注意点	【成績の評価方法・評価基準】 中間試験と期末試験を実施する。試験時間は50分とする。 成績は, 試験の結果 (40%) と課題の提出 (60%) によって総合的に評価する。 到達目標の各項目の到達度を評価基準とする。 【備考】 分からない問題はそのままにせず, 放課後など`を利用して教員に質問すること。担当教員が`不在の場合など`は, 専任数学教員に質問すること。 【教員の連絡先】 研究室 A棟2階 (奥村: A-206 / 岡田: A-209) 内線電話 奥村: 8914 / 岡田: 8952 e-mail 奥村: sokumura / 岡田: okada アットマーク maizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること)				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング	<input type="checkbox"/> ICT 利用	<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業		

授業計画				
		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	シラバス内容の説明, 数列と級数の極限	1
		2週	関数の極限	1
		3週	導関数(1)	2
		4週	導関数(1)	3
		5週	不定積分	4
		6週	定積分	5
		7週	定積分	5
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	中間試験返却, 定積分の応用(1)	6
		10週	近似式とテイラー展開	7
		11週	定積分の応用(2)	8
		12週	2変数関数の導関数	9
		13週	2変数関数の極値	9
		14週	重積分の計算(1)	1 0
		15週	重積分の計算(2)	1 0
		16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・達成度確認	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	数学	数学	等差数列・等比数列の一般項やその和を求めることができる。	3	後1,後2
			総和記号を用いた簡単な数列の和を求めることができる。	3	後1
			不定形を含むいろいろな数列の極限を求めることができる。	3	後1
			無限等比級数等の簡単な級数の収束・発散を調べ、その和を求めることができる。	3	後1
			簡単な場合について、関数の極限を求めることができる。	3	後2
			微分係数の意味や、導関数の定義を理解し、導関数を求めることができる。	3	後3
			積・商の導関数の公式を用いて、導関数を求めることができる。	3	後3
			合成関数の導関数を求めることができる。	3	後3
			三角関数・指数関数・対数関数の導関数を求めることができる。	3	後3
			逆三角関数を理解し、逆三角関数の導関数を求めることができる。	3	後3
			関数の増減表を書いて、極値を求め、グラフの概形をかくことができる。	3	後4
			極値を利用して、関数の最大値・最小値を求めることができる。	3	後4
			簡単な場合について、関数の接線の方程式を求めることができる。	3	後4
			2次の導関数を利用して、グラフの凹凸を調べることができる。	3	後4
			関数の媒介変数表示を理解し、媒介変数を利用して、その導関数を求めることができる。	3	後4
			不定積分の定義を理解し、簡単な不定積分を求めることができる。	3	後5
			置換積分および部分積分を用いて、不定積分や定積分を求めることができる。	3	後5,後6,後7
			定積分の定義と微積分の基本定理を理解し、簡単な定積分を求めることができる。	3	後6,後7
			分数関数・無理関数・三角関数・指数関数・対数関数の不定積分・定積分を求めることができる。	3	後6,後7
			簡単な場合について、曲線で囲まれた図形の面積を定積分で求めることができる。	3	後9,後11
			簡単な場合について、曲線の長さを定積分で求めることができる。	3	後11
			簡単な場合について、立体の体積を定積分で求めることができる。	3	後11
			2変数関数の定義域を理解し、不等式やグラフで表すことができる。	3	後12,後13
			合成関数の偏微分法を利用して、偏導関数を求めることができる。	3	後12,後13
			簡単な関数について、2次までの偏導関数を求めることができる。	3	後12,後13
			偏導関数を用いて、基本的な2変数関数の極値を求めることができる。	3	後12,後13
			2重積分の定義を理解し、簡単な2重積分を累次積分に直して求めることができる。	3	後14,後15
			極座標に変換することによって2重積分を求めることができる。	3	後14,後15
			2重積分を用いて、簡単な立体の体積を求めることができる。	3	後14,後15
			簡単な1変数関数の局所的な1次近似式を求めることができる。	3	後10

				1変数関数のテイラー展開を理解し、基本的な関数のマクローリン展開を求めることができる。	3	後10	
評価割合							
	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	0	0	0	60	0	100
基礎的能力	40	0	0	0	60	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	保健体育Ⅲ
科目基礎情報					
科目番号	0062		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科目		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教材 必要に応じて授業中に配付する。				
担当教員	齋藤 康男,西本 信介,木村 健二				
到達目標					
1 積極的に運動し、運動を楽しみ、協力や責任を果たすことができる。 2 課題の解決を目指し、活動を工夫できる。 3 運動技術を理解し、運動技能を高めることができる。 4 技術・健康・体力に関する事項を理解し、身につけることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	積極的に運動し、運動を楽しみ、協力や責任を果たすことができる。	運動し、運動を楽しみ、協力や責任を果たすことができる。	運動し、運動を楽しみ、協力や責任を果たすことができない。		
評価項目2	積極的に課題の解決を目指し、活動を工夫できる。	課題の解決を目指し、活動を工夫できる。	課題の解決を目指し、活動を工夫できない。		
評価項目3	積極的に運動技術を理解し、運動技能を高めることができる。	運動技術を理解し、運動技能を高めることができる。	運動技術を理解し、運動技能を高めることができない。		
評価項目4	十分に技術・健康・体力に関する事項を理解し、身につけることができる。	技術・健康・体力に関する事項を理解し、身につけることができる。	技術・健康・体力に関する事項を理解し、身につけることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (E)					
教育方法等					
概要	健康・安全や運動についての理解と運動の合理的・計画的な実践を通して、生涯にわたる豊かなスポーツライフを維持する資質や能力を育てると共に、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を育てることを目的とする。				
授業の進め方・方法	【授業方法】 各クラスとも名簿の前半は前期剣道・後期柔道、名簿の後半は前期柔道・後期剣道を受講するものとする。体調の変化について自己管理すると同時に、担当教員に報告し、健康および安全に留意して授業に参加する。 【学習方法】 本授業は実習であるので、健康に十分留意して参加すること。				
注意点	【成績の評価方法・評価基準】 1.関心・意欲・態度、2.思考・判断、3.運動の技能、4.知識・理解、の4つの観点から、実技点を100%として評価する。 【教員の連絡先】 研究室 B棟3階 小野 (B-302) 研究室 A棟2階 木村 (A-207) 内線電話 8910(小野)、8915(木村) e-mail: onoアットマークmaizuru-ct.ac.jp (小野) , k.kimuraアットマークmaizuru-ct.ac.jp (木村)				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	シラバス内容の説明, 座学 剣道の理念, 剣道の歴史や特性	1, 2, 3, 4	
		2週	基本動作 竹刀の握り方, 構え, 足捌き, 素振り	1, 2, 3, 4	
		3週	基本動作 前回反復, 間合い・気剣体の一致重要性, 空間面打ち	1, 2, 3, 4	
		4週	基本動作 前回反復, 側面打ち, 連続打ち, 切り返しの重要性	1, 2, 3, 4	
		5週	基本動作 前回反復, 防具の装着法, 防具の格納法, 手ぬぐい振り方	1, 2, 3, 4	
		6週	基本動作 前回反復, 立礼, 打突部位の確認, 基本打突の心構え	1, 2, 3, 4	
		7週	応用動作 前回反復 (基本打突), 払い技, 引き立て稽古	1, 2, 3, 4	
		8週	応用動作 前回反復 ("), 出頭の技, 引き立て稽古	1, 2, 3, 4	
	2ndQ	9週	応用動作 前回反復 ("), 返し技, 引き技, 引き立て稽古	1, 2, 3, 4	
		10週	応用動作 前回反復 ("), 抜き技, 摺り上げ技, 引き立て稽古	1, 2, 3, 4	
		11週	応用動作 前回反復 ("), 礼儀と危険防止の心構え, 互格稽古	1, 2, 3, 4	

後期		12週	応用動作 前回反復（ 〃 ），残心の重要性，打突の好機，互格稽古	1, 2, 3, 4	
		13週	応用動作 前回反復（ 〃 ），互格稽古，試合稽古	1, 2, 3, 4	
		14週	試合稽古	1, 2, 3, 4	
		15週	試合 剣道の理念（礼節と人間形成）	1, 2, 3, 4	
		16週			
	3rdQ	1週	シラバス内容の説明，沿革と現状・修行の目的・礼法・道衣装着法・技構成	1, 2, 3, 4	
		2週	受身（後方・側方）寝技…抑え込み技（袈裟固・逃げ方）	1, 2, 3, 4	
		3週	受身（前方・前方回転）抑え込み技（横四方固）	1, 2, 3, 4	
		4週	前回反復，抑え込み技（肩固・上四方固）抑え込み技のみの乱取	1, 2, 3, 4	
		5週	前回反復，絞め技（並，逆，片十字絞・送り襟絞め，片羽絞め防禦法）	1, 2, 3, 4	
		6週	前回反復，関節技（腕固・膝固・腋固・十字固・腋搦み）防禦法 寝技乱取	1, 2, 3, 4	
		7週	前回反復，寝技攻撃・防禦法，乱取，立技（組み姿勢・体捌き，投技…大腰）	1, 2, 3, 4	
		8週	前回反復，寝技乱取，投技（背負投・大外刈）…打込み	1, 2, 3, 4	
		4thQ	9週	前回反復，寝技乱取，投技（払腰・大内刈・小外刈）…打込み（立位・移動）	1, 2, 3, 4
			10週	前回反復，寝技乱取，投技（支え釣込足・膝車・送り足，出足払い），立技乱取	1, 2, 3, 4
			11週	前回反復，寝技乱取，その他の立技説明展示，連絡・変化技，立技乱取	1, 2, 3, 4
12週	前回反復，寝技乱取，立技防禦法・返し技，乱取		1, 2, 3, 4		
13週	前回反復，寝技乱取，打ち込み，乱取		1, 2, 3, 4		
14週	前回反復，寝技乱取，試合審判法・礼法説明，乱取，試合		1, 2, 3, 4		
15週	前回反復，寝技乱取，打ち込み，乱取，試合		1, 2, 3, 4		
16週					

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	成績	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	100	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	100	0	0	100

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	哲学
科目基礎情報					
科目番号	0065		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般科目		対象学年	4	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	検定教科書「倫理」(数研出版)				
担当教員	山根 秀介				
到達目標					
1 人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。 2 科学技術が社会に与えてきた影響をもとに、技術者の役割や責任を説明できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を十分に理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について適切に考察できる。	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できない。		
評価項目2	科学技術が社会に与えてきた影響をもとに、技術者の役割や責任を十分に説明できる。	科学技術が社会に与えてきた影響をもとに、技術者の役割や責任を説明できる。	科学技術が社会に与えてきた影響をもとに、技術者の役割や責任を説明できない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (E) 学習・教育到達度目標 (F)					
教育方法等					
概要	本講義では、近世以降の哲学史をたどることによって、西洋世界の思想を学び、また西洋世界の価値観を前提とした現代社会を深く理解することを目指す。				
授業の進め方・方法	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各人の世界観・人生観を問い直すことができるように講義を進める。現代の当たり前と思っている「ものの見方」がどのような起源をもつか、必ずしも「当たり前」ではないことを考えることで、自らの世界観・人生観を根本的に反省できるように工夫したい。 授業は基本的にテキストに沿って行われるが、適宜担当者が作成したプリントを配布する。 <p>【学習方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業はじめに確認する前回授業内容と、その日の学習事項を念頭に、授業を注意深くきく。 この授業は各人の主体的思索が重要である。随時質問するので、積極的に答え、また、自分の疑問をぶつけるなど、自分から授業に参加するように努める。 授業の後、授業内容を友達などと話しあってみる。そのことによって、聞き落とししたことや勘違いに気づくことができる。さらに、みずから言葉としてアウトプットすることで、主体的に考える力、メディア・リテラシーが養われる。 				
注意点	<p>【成績の評価方法・評価基準】</p> <p>2回の定期試験を行う。時間はそれぞれ50分とする。中間試験を40%、期末試験を40%、ポートフォリオを20%(小テスト、小レポート等)として成績評価を行う。到達目標への到達度を評価基準とする。</p> <p>【備考】</p> <p>自分の関心に応じて書籍を借りたり購入したりして読むこと。</p> <p>【教員の連絡先】</p> <p>研究室 山根秀介 B棟3階 (B-305) 内線電話 8902 E-mail : s.yamane アットマーク maizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること。)</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	シラバス内容の説明、哲学とは何か／何でないか	1, 2	
		2週	ルネサンスと宗教改革	1, 2	
		3週	ベーコンー近代科学の誕生	1, 2	
		4週	デカルトー近代哲学の誕生	1, 2	
		5週	イギリス経験論と大陸合理論ー認識とは何か	1, 2	
		6週	ルソーとホッブズー社会と個人の哲学	1, 2	
		7週	カントー哲学の革命	1, 2	
		8週	中間試験		
	4thQ	9週	中間試験解説	1, 2	
		10週	ヘーゲルー歴史と自由をめぐる思索	1, 2	
		11週	功利主義と実証主義	1, 2	
		12週	進化論とプラグマティズム	1, 2	
		13週	マルクスー唯物論哲学	1, 2	
		14週	ニーチェとハイデガーー現代思想の諸源流	1, 2	

	15週	現代哲学の諸課題	1, 2
	16週	(15週の後)に期末試験を実施) 期末試験返却・到達度確認	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	公民的分野	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	科学技術が社会に与えてきた影響をもとに、技術者の役割や責任を説明できる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	総合英語ⅣA
科目基礎情報					
科目番号	0066		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般科目		対象学年	4	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	Chris Mares「New English Upgrade 1 Student's Book」 (Macmillan Education)				
担当教員	クロシュ テラニ				
到達目標					
<p>1 英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内外でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。</p> <p>2 母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。</p> <p>3 関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。</p> <p>4 実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内外でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などが十分にできる。	英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内外でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などがある程度できる。	英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内外でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などがでない。		
評価項目2	母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることが十分にできる。	母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることがある程度できる。	母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができない。		
評価項目3	関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりが十分にできる。	関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりがある程度できる。	関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりがでない。		
評価項目4	実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることが十分にできる。	実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることがある程度できる。	実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることがでない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (E)					
教育方法等					
概要	この科目は、英会話教室の運営に携わる教員が、その経験をいかして、学生の英会話能力の涵養を行うものである。 学生は教科書の練習問題の演習を行い、また英会話の練習を行うことによって、英語を読み、聞き、話し、書く能力を身に付けることを目指す。				
授業の進め方・方法	<p>【授業方法】 学生は教員の話す英語、または英語音声CDの聞き取り、ペアまたは少人数のグループでの英会話の練習、またそれらに必要な文法事項の練習問題の演習を行う。</p> <p>【学習方法】 アウトプットによって英語能力を伸ばすという性質の強い授業であるため、積極的な参加が必要となる。</p>				
注意点	<p>【成績の評価方法・評価基準】 期末の定期試験を行う。時間は50分とする。中間試験と期末試験の点数(15%×2 = 30%)と平常点(70%)から、総合的に成績を評価する。到達目標への到達度を評価基準とする。</p> <p>【備考】 授業には必ず英和辞書を持ってくること。積極的に授業参加すること。</p> <p>【教員の連絡先】 担当者 Jim Tehrani 研究室 B棟2階(B-205) [非常勤講師控室] e-mail:</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	Unit One	1, 2, 3, 4	
		2週	Unit One	1, 2, 3, 4	
		3週	Unit Two	1, 2, 3, 4	
		4週	Unit Two	1, 2, 3, 4	
		5週	Unit Three	1, 2, 3, 4	
		6週	Unit Three	1, 2, 3, 4	
		7週	Review	1, 2, 3, 4	
		8週	中間試験		

2ndQ	9週	Unit Four	1, 2, 3, 4
	10週	Unit Four	1, 2, 3, 4
	11週	Unit Five	1, 2, 3, 4
	12週	Unit Five	1, 2, 3, 4
	13週	Unit Six	1, 2, 3, 4
	14週	Unit Six	1, 2, 3, 4
	15週	Review	1, 2, 3, 4
	16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・達成度確認	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語運用能力向上のための学習	英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15
			母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15
			関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15
			実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	30	0	0	0	70	0	100
基礎的能力	30	0	0	0	70	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	総合英語ⅣB
科目基礎情報					
科目番号	0067		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般科目		対象学年	4	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	第一学習社編集部「英語総合問題 Seek next 4」(第一学習社), 一杉武史「キクタン TOEIC L&Rテスト SCORE 500」/ オンライン教材「TOEIC eラーニングコース」(アルク)				
担当教員	荒川 吉孝				
到達目標					
<p>1 日常生活や身近な話題に関して, 毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。</p> <p>2 日常生活や身近な話題に関して, 自分の意見や感想を整理し, 100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。</p> <p>3 自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて, 概要を把握し, 情報を聞き取ることができる。</p> <p>4 英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため, 学生自ら準備活動や情報収集を行い, 主体的な態度で行動できる。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	日常生活や身近な話題に関して, 毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることが十分にできる。	日常生活や身近な話題に関して, 毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	日常生活や身近な話題に関して, 毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができない。		
評価項目2	日常生活や身近な話題に関して, 自分の意見や感想を整理し, 100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことが十分にできる。	日常生活や身近な話題に関して, 自分の意見や感想を整理し, 100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	日常生活や身近な話題に関して, 自分の意見や感想を整理し, 100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができない。		
評価項目3	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて, 概要を把握し, 情報を聞き取ることが十分にできる。	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて, 概要を把握し, 情報を聞き取ることができる。	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて, 概要を把握し, 情報を聞き取ることができない。		
評価項目4	英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため, 学生自ら準備活動や情報収集を十分に行え, 十分に主体的な態度で行動できる。	英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため, 学生自ら準備活動や情報収集を行い, 主体的な態度で行動できる。	英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため, 学生自ら準備活動や情報収集を行えず, 主体的な態度で行動できない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標(E)					
教育方法等					
概要	この授業では, TOEIC公開テスト受験に向けて, 英語の聞き取りと読解能力の向上を目指し, 英語運用能力を身につけることを目的とする。				
授業の進め方・方法	<p>【授業方法】 総合的な問題演習を行いながら聞き取りと読解を中心に英語運用能力を身につける。同時に基本文法を再確認する。</p> <p>【学習方法】 事前に教科書の問題を解き, わからない単語を調べ, 音声ファイルを聴いておくこと。授業には真摯に取り組み, 積極的に参加すること。リスニングを上達させるために必ず復習をすること。eラーニングによる自己学習を計画的に進めること。適宜, 小テストおよび課題提出あり。</p>				
注意点	<p>【成績の評価方法・評価基準】 2回の定期試験を行う。時間は50分とする。2回の試験の平均(60%)と, 小テスト・課題・発表・演習(40%)から, 総合的に成績を評価する。到達目標への到達度を評価基準とする。</p> <p>【備考】 本授業の目標に到達するには, 予習・復習などの自己学習が必須である。授業内で直接扱われる教科書や課題だけではなく, eラーニングを授業時間外で行うことも重要である。</p> <p>【教員の連絡先】 教員名 山根秀介 / 岡下朋世 研究室 B棟3階(B-305) / A棟3階(A-325) 内線番号 8902 / 8955 e-mail: s.yamane アットマーク maizuru-ct.ac.jp / t.okashita アットマーク maizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること。)</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	シラバス説明 総合問題演習 1	1, 2, 3, 4	
		2週	総合問題演習 2	1, 2, 3, 4	
		3週	総合問題演習 3	1, 2, 3, 4	
		4週	総合問題演習 4	1, 2, 3, 4	
		5週	総合問題演習 5	1, 2, 3, 4	

4thQ	6週	総合問題演習 6	1, 2, 3, 4	
	7週	総合問題演習 7	1, 2, 3, 4	
	8週	中間試験		
	9週	総合問題演習 8	1, 2, 3, 4	
	10週	総合問題演習 9	1, 2, 3, 4	
	11週	総合問題演習 10	1, 2, 3, 4	
	12週	総合問題演習 11	1, 2, 3, 4	
	13週	総合問題演習 12	1, 2, 3, 4	
	14週	総合問題演習 13	1, 2, 3, 4	
	15週	総合問題演習 14	1, 2, 3, 4	
	16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・達成度確認		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			英語運用能力向上のための学習	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15	

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	40	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	40	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	現代社会
科目基礎情報					
科目番号	0070		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般科目		対象学年	4	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	検定教科書「政治・経済」(数研出版)				
担当教員	児玉 圭司				
到達目標					
<p>1 第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。</p> <p>2 自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。</p> <p>3 現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。</p> <p>4 環境問題の現状についての基本的な事項について把握し、科学技術が地球環境や社会に及ぼす影響を説明できる。</p> <p>5 過疎化、少子化など地方が抱える問題について認識し、地域社会に貢献するために科学技術が果たせる役割について説明できる。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	1. について十分に考察できる。		1. について考察できる。		1. について考察できない。
評価項目2	2. について説明できる。		2. について概ね説明できる。		2. について説明できない。
評価項目3	3. について十分に展望できる。		3. について展望できる。		3. について展望できない。
評価項目4	4. について説明できる。		4. について概ね説明できる。		4. について説明できない。
評価項目5	5. について説明できる。		5. について概ね説明できる。		5. について説明できない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<p>1. 経済学に関する基本的な語句、および理論について理解を深める。</p> <p>2. 戦後から現在にいたる日本経済の動向を把握する。</p> <p>3. 日本の政治・法制度を学ぶ。</p>				
授業の進め方・方法	<p>【授業方法】</p> <p>1. 講義は配布するプリントに沿って進める。講義では学生に対して質問への応答を求めるほか、理解度確認のための小テスト・レポートを課す。</p> <p>2. 視聴したDVDについての感想文の提出や、時事問題等に関する家庭学習を求めることがある。</p> <p>【学習方法】</p> <p>1. 講義中に理解できなかった部分は、配布プリントや教科書・参考書を用いて復習するほか、講義後の質疑時間などを活用してフォローすること。</p>				
注意点	<p>【成績の評価方法・評価基準】</p> <p>1. 中間および期末に筆記試験を行う(計2回)。</p> <p>2. 時間は50分。</p> <p>3. 筆記用具以外の持ち込みは不可とする。</p> <p>4. 中間および期末試験の結果によって評価する(90%)。</p> <p>5. 講義中に実施する小テストや、講義時間外に課すレポートの内容を、評価に加味する(10%)。</p> <p>6. 上記の到達目標に基づき、各項目の理解の到達度を評価基準とする。</p> <p>【備考】</p> <p>本科目は、授業での学習と授業外での自己学習で成り立つものである。そのため、適宜、授業外でのレポート課題・演習問題を課す。</p> <p>【教員の連絡先】</p> <p>研究室 A棟3階(A-313)</p> <p>内線電話 8908</p> <p>e-mail: kodamaアットマークmaizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること)</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	シラバス内容の説明	2	
		2週	経済学の基礎知識	1, 2	
		3週	現代経済のしくみ—市場経済とは	2	
		4週	経済成長と景気変動	2	
		5週	財政と租税	2	
		6週	貨幣と金融	2	
		7週	国際経済の基礎知識	1, 2	
		8週	中間試験	1, 2	
	2ndQ	9週	1945-1970 敗戦から高度経済成長へ	1, 4, 5	
		10週	1971-1985 経済大国・日本 安定成長	1	
		11週	1985-1990 バブルの発生と崩壊	1	
		12週	現代日本経済を取り巻く諸課題	3, 4, 5	
		13週	日本の政治機構	2	

	14週	日本国憲法と基本的人権	2
	15週	「死刑存廃論」を考える	2, 3
	16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・達成度確認	1, 2, 4

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	3	前2,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前16
			公民的分野	自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前13,前14,前15,前16
			現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	前12
	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	環境問題の現状についての基本的な事項について把握し、科学技術が地球環境や社会に及ぼす影響を説明できる。 過疎化、少子化など地方が抱える問題について認識し、地域社会に貢献するために科学技術が果たせる役割について説明できる。	3 3	前9,前16

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	90	0	0	0	10	0	100
基礎的能力	90	0	0	0	10	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	法学
科目基礎情報					
科目番号	0071	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般科目	対象学年	4		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	霞信彦ほか「法学概論」(慶應義塾大学出版会)				
担当教員	児玉 圭司				
到達目標					
<p>1 自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。</p> <p>2 現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。</p> <p>3 説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的な責任事項を説明できる。</p> <p>4 情報技術の進展が社会に及ぼす影響、個人情報保護法、著作権などの法律について説明できる。</p> <p>5 知的財産の社会的意義や重要性の観点から、知的財産に関する基本的な事項を説明できる。</p> <p>6 技術者の社会的責任、社会規範や法令を守ること、企業内の法令順守(コンプライアンス)の重要性について説明できる。</p> <p>7 技術者を目指す者として、諸外国の文化・慣習などを尊重し、それぞれの国や地域に適用される関係法令を守ることの重要性を把握している。</p>					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	1. について説明できる。	1. について概ね説明できる。	1. について説明できない。		
評価項目2	2. の内容を十分に展望できている。	2. について展望できている。	2. について展望できていない。		
評価項目3	3. について説明できる。	3. について概ね説明できる。	3. について説明できない。		
評価項目4	4. について説明できる。	4. について概ね説明できる。	4. について説明できない。		
評価項目5	5. について説明できる。	5. について概ね説明できる。	5. について説明できない。		
評価項目6	6. について説明できる。	6. について概ね説明できる。	6. について説明できない。		
評価項目7	7. について把握している。	7. について概ね把握している。	7. について把握していない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (E) 学習・教育到達度目標 (F)					
教育方法等					
概要	<p>1. 私たちが社会生活を営む上で必要とされる法的知識(基本原則など)や論理的思考を身につける。</p> <p>2. 「憲法」をはじめとする代表的な法典について、その成り立ちや理念、基本原則を学ぶ。</p>				
授業の進め方・方法	<p>【授業方法】</p> <p>1. 講義は配布するプリントに沿って進める。講義中、学生に対して質問への応答を求めるほか、理解度確認のための小テストやレポート等を課す。</p> <p>2. 視聴したDVDについての感想文の提出や、講義の事前予習を求めることがある。</p> <p>【学習方法】</p> <p>1. 講義中に理解できなかった部分は、配布プリントや教科書・参考書を用いて復習するほか、講義後の質疑時間などを活用してフォローすること。</p> <p>2. 授業に関連したレポート課題・演習問題を、自己学習の一環として課すことがある。</p>				
注意点	<p>【成績の評価方法・評価基準】</p> <p>1. 中間および期末に筆記試験を行う(計2回)。</p> <p>2. 時間は50分。</p> <p>3. 筆記用具以外の持ち込みは不可とする。</p> <p>4. 中間および期末試験の結果によって評価する(90%)。</p> <p>5. 講義中に実施する小テストや、講義時間外に課すレポートの内容を、評価に加味する(10%)。</p> <p>6. 上記の到達目標に基づき、各項目の理解の到達度を評価基準とする。</p> <p>【備考】</p> <p>本科目は、授業での学習と授業外での自己学習で成り立つものである。そのため、適宜、授業外でのレポート課題・演習問題を課す。</p> <p>【教員の連絡先】</p> <p>研究室 A棟3階 (A-313)</p> <p>内線電話 8908</p> <p>e-mail: kodama@attマークmaizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること)</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	シラバス内容の説明/成年になる, ということ	1	
		2週	法とは何か?	1, 7	
		3週	法思想の歴史	1, 7	
		4週	近代法の成立と発展	1, 3, 7	
		5週	日本における近代西洋法の受容	1, 7	
		6週	法源/日本における成文法	1, 7	
		7週	日本における不文法	1	
		8週	中間試験	1, 3, 7	

4thQ	9週	法の分類	1
	10週	法の解釈と適用	1
	11週	憲法の意味／国民主権	1
	12週	裁判員制度について	2
	13週	日本国憲法の基本原理	1
	14週	基本的人権について	1, 4
	15週	技術者と法	1, 3, 4, 5, 6
	16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・達成度確認	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	公民的分野	自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後13,後14,後15
			現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	後11,後12
	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的な責任事項を説明できる。	3	後4,後8,後15
				情報技術の進展が社会に及ぼす影響、個人情報保護法、著作権などの法律について説明できる。	3	後14,後15
				知的財産の社会的意義や重要性の観点から、知的財産に関する基本的な事項を説明できる。	3	後15
				技術者の社会的責任、社会規範や法令を守ること、企業内の法令順守(コンプライアンス)の重要性について説明できる。	3	後15
				技術者を指す者として、諸外国の文化・慣習などを尊重し、それぞれの国や地域に適用される関係法令を守ることの重要性を把握している。	3	後2,後3,後4,後5,後6,後8

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	90	0	0	0	10	0	100
基礎的能力	90	0	0	0	10	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	物理Ⅲ (M)
科目基礎情報					
科目番号	0072		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般科目		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材	参考書: 藤原邦男著「物理学序論としての力学」(東京大学出版会)				
担当教員	姉川 尊徳				
到達目標					
1 質点の運動の表し方を理解する。 2 微分方程式としての、運動方程式の解き方を理解する。 3 力学的エネルギーの保存を理解する。 4 質点系の運動を理解する。 5 剛体系の運動を理解する。					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1		質点の運動の表し方を説明でき、具体的な計算ができる。	質点の運動の表し方を説明できる。	質点の運動の表し方を説明できない。	
評価項目2		微分方程式としての、運動方程式の解き方を説明でき、具体的な計算ができる。	微分方程式としての、運動方程式の解き方を説明できる。	微分方程式としての、運動方程式の解き方を説明できない。	
評価項目3		力学的エネルギーの保存について説明でき、具体的な計算ができる。	力学的エネルギーの保存について説明できる。	力学的エネルギーの保存について説明できない。	
評価項目4		質点系の運動について説明でき、具体的な計算ができる。	質点系の運動について説明できる。	質点系の運動について説明できない。	
評価項目5		剛体系の運動について説明でき、具体的な計算ができる。	剛体系の運動について説明できる。	剛体系の運動について説明できない。	
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (A)					
教育方法等					
概要	【授業目的】 物理I・IIで学習した物理現象・概念をより厳密な数学を用いて表現し、その意味をより深く理解することを目的とする。物理IIIでは、微分・積分・ベクトルについて、十分な数学の知識を必要とする。 【Course objectives】 In this course, we study how to solve the motion of particles and rigid bodies in classical mechanics. In the first half, we learn to solve the equations of motion for single-particle systems with differential equations. Then we proceed to address the problems for many-particle and rigid-body systems. Students are required to have some knowledge and skills of differentiation, integration, and vector calculus sufficiently.				
授業の進め方・方法	【授業方法】 ・授業は講義に適宜演習を取り入れて行う。 ・必要に応じてレポート課題を出す。 【学習方法】 ・黒板の内容は必ずノートに取ること。 ・予習をしておくことが好ましい。 ・ノートを見ながら復習を行い、教科書や問題集の問題を解くこと。 ・分からないことがあれば質問すること。				
注意点	【定期試験の実施方法】 ・前期と後期にそれぞれ、中間試験と期末試験の2回の定期試験を行う。時間はそれぞれ50分とする。 【成績の評価方法・評価基準】 ・4回の定期試験(80%)とポートフォリオ(小テストやレポート等)(20%)から総合的に成績を評価する。 ・到達目標への到達度を評価基準とする。 【履修上の注意】 とくになし 【教員の連絡先】 非常勤講師室				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	シラバス内容の説明、質点の運動の表し方、位置の表し方	1	
		2週	速度、加速度	1	
		3週	運動の法則、等加速度運動	2	
		4週	外力が時間によって変化する場合の運動	2	
		5週	空気抵抗を受けながら落下する運動	2	
		6週	単振動	2	

後期	2ndQ	7週	単振動 2	2
		8週	中間試験	
		9週	仕事	3
		10週	仕事と運動エネルギー	3
		11週	保存力と位置エネルギー	3
		12週	力学的エネルギーの保存	3
		13週	平面運動の極座標表示	2
		14週	振り子の運動	2, 3
	15週	振り子の運動 2	2, 3	
	16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・到達度確認		
	3rdQ	1週	質点系の運動の表し方, 質点系の運動量, 質点系の重心	4
		2週	質点系の重心と重心に対する相対運動	4
		3週	質点系の運動エネルギー, 力学的エネルギーの保存	4
		4週	質点系の角運動量, 角運動量の保存	4
		5週	2体問題	4
		6週	2物体の衝突, 運動量の保存	4
7週		可変質量系の問題	4	
8週		中間試験		
4thQ	9週	剛体の運動の表し方, 数学的準備: 重積分の計算	5	
	10週	剛体の重心	5	
	11週	剛体の回転と慣性モーメント	5	
	12週	剛体の運動 (剛体の転がる運動)	5	
	13週	剛体の運動 2 (滑車を含む問題)	5	
	14週	剛体の運動エネルギー, 力学的エネルギーの保存	5	
	15週	コマの運動	5	
	16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・到達度確認		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	自然科学	物理	力学	平面内を移動する質点の運動を位置ベクトルの変化として扱うことができる。	3	前1
				物体の変位、速度、加速度を微分・積分を用いて相互に計算することができる。	3	前2
				簡単な運動について微分方程式の形で運動方程式を立て、初期値問題として解くことができる。	3	前3,前4,前5,前6,前7
				角運動量を求めることができる。	3	後4
				角運動量保存則について具体的な例を挙げて説明できる。	3	後4
				一様な棒などの簡単な形状に対する慣性モーメントを求めることができる。	3	後11
				剛体の回転運動について、回転の運動方程式を立てて解くことができる。	3	後12,後13

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	物理Ⅲ (C)
科目基礎情報					
科目番号	0073		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般科目		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材	参考書: 藤原邦男「物理学序論としての力学」(東京大学出版会)				
担当教員	宝利 剛				
到達目標					
1 質点の運動の解き方を理解する。 2 力学的エネルギーの保存について理解する。 3 ケプラーの法則について理解する。 4 質点系の運動の解き方を理解する。 5 剛体系の運動の解き方を理解する。					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1		ニュートンによる運動の法則を深く理解している。微分方程式としての運動方程式の解き方を説明でき、さまざまな問題について計算ができる。	ニュートンによる運動の法則を理解している。微分方程式としての運動方程式の解き方を理解していて、簡単な問題について計算できる。	ニュートンによる運動の法則を理解していない。微分方程式としての運動方程式の解き方を理解していない。	
評価項目2		力学的エネルギーの保存を示すことができ、さまざまな問題に適用できる。	力学的エネルギーの保存について理解していて、簡単な問題について計算できる。	力学的エネルギーの保存について理解していない。	
評価項目3		ケプラーの法則を、数式を用いて説明できる。また、ニュートンによる運動の法則や万有引力の法則から、具体的な計算によってケプラーの法則を導出できる。	ケプラーの法則を説明できる。また、ニュートンによる運動の法則や万有引力の法則との関係を説明できる。	ケプラーの法則を説明できない。	
評価項目4		質点系の運動の解き方を説明でき、さまざまな問題について計算ができる。	質点系の運動の解き方を理解していて、簡単な問題について計算できる。	質点系の運動の解き方について理解していない。	
評価項目5		剛体系の運動の解き方を説明でき、さまざまな問題について計算ができる。	剛体系の運動の解き方を理解していて、簡単な問題について計算できる。	剛体系の運動の解き方について理解していない。	
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (A)					
教育方法等					
概要	物理Ⅰ・Ⅱで学習した物理現象・概念をより厳密な数学を用いて表現し、その意味をより深く理解することを目的とする。物理Ⅲでは、微分・積分・ベクトルについて、十分な数学の知識を必要とする。				
授業の進め方・方法	【授業方法】 ・授業は講義に適宜演習を取り入れて行う。 ・必要に応じてレポート課題を出す。 【学習方法】 ・黒板の内容は必ずノートに取ること。 ・予習をしておくことが好ましい。 ・ノートを見ながら復習を行い、教科書や問題集の問題を解くこと。 ・分からないことがあれば質問すること。				
注意点	【成績の評価方法・評価基準】 ・前期と後期にそれぞれ、中間試験と期末試験の2回の定期試験を行う。時間はそれぞれ50分とする。 ・4回の定期試験(60%)とポートフォリオ(小テストやレポート等)(40%)から総合的に成績を評価する。 ・到達目標への到達度を評価基準とする。 【備考】 とくになし 【教員の連絡先】 研究室 A棟2階 (A-210) 内線電話 8917 e-mail: t.houri (後ろに@maizuru-ct.ac.jpをつけること)				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	シラバス内容の説明, 質点の運動の表し方, 位置の表し方	1	
		2週	速度, 加速度	1	
		3週	運動の法則, 等加速度運動, 時間によって変化する力がはたらく物体の運動	1	
		4週	空気抵抗を受けながら落下する物体の運動	1	
		5週	単振動	1	
		6週	単振動2	1	

後期	2ndQ	7週	単振り子	1
		8週	中間試験	
		9週	中間試験返却・到達度確認, 仕事と運動エネルギー	2
		10週	保存力と位置エネルギー	2
		11週	保存力のする仕事, 力学的エネルギーの保存	2
		12週	力積と運動量, 力のモーメントと角運動量	2
		13週	回転座標系	3
		14週	ケプラーの法則	3
		15週	ケプラーの法則 2	3
	16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・到達度確認		
	3rdQ	1週	2物体の運動の表し方, 2物体の重心, 2物体の運動量	4
		2週	相対運動と換算質量	4
		3週	演習	4
		4週	演習 2	4
		5週	質点系の運動の表し方, 質点系の重心, 質点系の運動量	4
		6週	重心に対する相対運動	4
7週		質点系の運動エネルギー, 質点系の角運動量	4	
8週		中間試験		
4thQ	9週	中間試験返却・到達度確認, 重積分の計算	5	
	10週	剛体の運動の表し方, 剛体の重心	5	
	11週	固定軸まわり剛体の回転と慣性モーメント	5	
	12週	剛体の運動	5	
	13週	剛体の運動 2	5	
	14週	剛体の力学的エネルギーとその保存	5	
	15週	演習	5	
	16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・到達度確認		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	自然科学	物理	力学	平面内を移動する質点の運動を位置ベクトルの変化として扱うことができる。	3	前1
				物体の変位、速度、加速度を微分・積分を用いて相互に計算することができる。	3	前2
				簡単な運動について微分方程式の形で運動方程式を立て、初期値問題として解くことができる。	3	前3,前4,前5,前6,前7
				角運動量を求めることができる。	3	前12,後7
				角運動量保存則について具体的な例を挙げて説明できる。	3	前12,後7
				一様な棒などの簡単な形状に対する慣性モーメントを求めることができる。	3	後11
				剛体の回転運動について、回転の運動方程式を立てて解くことができる。	3	後12,後13

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	40	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	40	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	物理Ⅲ (E、S)
科目基礎情報					
科目番号	0074		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般科目		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材	参考書: 検定教科書「物理」(数研出版), 小出昭一郎「物理学」(裳華房), 朝永振一郎「量子力学」(みすず書房)				
担当教員	上杉 智子				
到達目標					
1 電子の比電荷と電気素量が説明できる。 2 光電効果が説明できる。 3 X線の発生や性質について説明できる。 4 コンプトン効果が説明できる。 5 前期量子論と原子の構造が説明できる。 6 ド・ブロイの物質波が説明できる。 7 量子力学の基礎が理解できる。 8 原子のエネルギー準位が理解できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	コイルの作る磁場を計算し、磁場を用いた電子の比電荷測定が説明できる。	電子の比電荷や電気素量の測定原理が説明できる。	電子の比電荷と電気素量が説明できない。		
評価項目2	光電効果と光量子説について説明できる。	光電効果が説明できる。	光電効果を説明できない。		
評価項目3	X線の発生や、X線の性質を用いてX線回折の説明ができる。	X線の発生や性質について説明できる。	X線の発生や性質を理解していない。		
評価項目4	特殊相対論を用いてコンプトン効果が説明できる。	コンプトン効果が説明できる。	コンプトン効果が説明できない。		
評価項目5	前期量子論が計算により示せる。	前期量子論と原子の構造が説明できる。	前期量子論と原子の構造が説明できない。		
評価項目6	電子線回折の説明ができる。	ド・ブロイの物質波が説明できる。	ド・ブロイの物質波が説明できない。		
評価項目7	簡単な問題でシュレーディンガー方程式を解くことができる。	与えられた系のシュレーディンガー方程式を書くことができる。	シュレーディンガー方程式を書くことができない。		
評価項目8	対称性とエネルギー準位の縮退の関係について説明できる。	簡単な問題で原子のエネルギー準位の計算ができる。	原子のエネルギー準位が説明できない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (A)					
教育方法等					
概要	光電効果及びコンプトン効果の現象を通して、光の粒子性について理解することと、量子論の基礎を理解し、原子の構造、原子のエネルギー準位について説明できることを目的とする。				
授業の進め方・方法	【授業方法】 1. 講義を中心に授業を進める。 2. 例題や演習により講義内容の理解を深める。 3. 授業時に適宜課題を与え、提出を求める。 【学習方法】 1. 講義の内容は必ずノートにとる。 2. 復習し、課題は必ず解く。 3. 学習した内容はノートで確認し、理解を深める。				
注意点	【成績の評価方法・評価基準】 前期・後期ともに中間試験と期末試験(各50分)を実施する。4回の試験(前期・後期の中間試験と期末試験)の平均で定期試験結果を評価し、定期試験の点数(80%)と、授業中に行う課題の評価(20%)の合計をもって総合成績とする。成績の評価は到達目標の到達度を基準として行う。 【備考】 本科目は、授業での学習と授業外での自己学習により成り立つものである。適宜レポート課題を出すので、必ず決められた期限までに解き、提出すること。 【教員の連絡先】 研究室 A棟2階(A-203) 内線電話 8911 e-mail: uesugi@attマークmaizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること)				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
選択必修					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	シラバス内容の説明, 電子の比電荷と電気素量・陰極線	1	
		2週	予備知識の復習(電磁気など)	1	
		3週	荷電粒子の電場内での運動	1	

		4週	トムソンの実験, ミリカンの実験	1	
		5週	電子の放出と電子管	1	
		6週	電子の比電荷測定	1	
		7週	光波の性質 (復習)	2	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	中間試験解説, 光量子説と光電効果	2	
		10週	光エネルギーと仕事関数	2	
		11週	X線の発生	3	
		12週	X線回折	3	
		13週	コンプトン効果	3	
		14週	光の粒子性とプランク定数	4	
		15週	演習とまとめ	3, 4	
	16週	(15週の後)に期末試験を実施) 期末試験返却・到達度確認			
	後期	3rdQ	1週	量子論のはじまりと原子の構造	5
			2週	原子模型とボーアの量子論	5
			3週	水素原子のエネルギー準位	5
4週			物質の波動論	6	
5週			古典論と量子論	6	
6週			古典解析力学—ラグランジュの運動方程式	7	
7週			古典解析力学—ハミルトンの運動方程式	7	
8週			中間試験		
4thQ		9週	中間試験解説, ハミルトニアンと位相空間	7	
		10週	シュレーディンガー方程式	7	
		11週	定常状態のシュレーディンガー方程式	7	
		12週	問題演習	7	
		13週	エネルギー準位の縮退とエネルギーバンド	8	
		14週	フランク=ヘルツの実験	8	
		15週	問題演習とまとめ	6, 7, 8	
		16週	(15週の後)に期末試験を実施) 期末試験返却・到達度確認		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	化学Ⅲ
科目基礎情報					
科目番号	0075		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般科目		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材	山口佳隆・伊藤 卓 著「物質・材料をまなぶ化学」(裳華房), 澤岡 昭 著「電子・光材料 基礎から応用まで 第2版(新装版)」(森北出版)				
担当教員	松田 若菜				
到達目標					
1 理工系の大学で一般的に講義されている量子化学, 物理化学などの知識を身につけることができる。 2 初等的な有機化学や高分子化学などの知識を身につけることができる。 3 素材として物質を扱う技術者にとって必要な電子材料, 光材料などに関する知識を身につけることができる。 4 技術者として考慮すべき環境科学やエネルギー材料の概念を理解することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	量子化学, 物理化学などの知識を十分に身につけることができている。	量子化学, 物理化学などの知識を身につけることができている。	量子化学, 物理化学などの知識を身につけることができている。		
評価項目2	初等的な有機化学や高分子化学などの知識を十分に身につけることができている。	初等的な有機化学や高分子化学などの知識を身につけることができている。	初等的な有機化学や高分子化学などの知識を身につけることができている。		
評価項目3	電子材料, 光材料などに関する知識を十分に身につけることができている。	電子材料, 光材料などに関する知識を身につけることができている。	電子材料, 光材料などに関する知識を身につけることができている。		
評価項目4	技術者として考慮すべき環境科学やエネルギー材料の概念を十分に理解できている。	技術者として考慮すべき環境科学やエネルギー材料の概念を基本的理解できている。	技術者として考慮すべき環境科学やエネルギー材料の概念を理解できている。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (A) 学習・教育到達度目標 (I)					
教育方法等					
概要	1 理工系の大学で一般的に講義されている量子化学, 物理化学などの知識を身につける。 2 初等的な有機化学や高分子化学などの知識を身につける。 3 素材として物質を扱う技術者にとって必要な電子材料, 光材料などに関する知識を身につける。 4 技術者として考慮すべき環境科学やエネルギー材料の概念を理解する。				
授業の進め方・方法	【授業方法】 授業は講義を中心に, 適宜演習や小テストを取り入れて行う。講義の内容は概ねテキストに沿ったものであるが, 補足や変更点がある場合がある。 必要に応じてレポート課題を出す。 【学習方法】 復習を行い, 分からないことがあれば質問すること。				
注意点	【成績の評価方法・評価基準】 ・前期と後期にそれぞれ, 中間試験と期末試験の2回の定期試験を行う。時間はそれぞれ50分とする。 ・前期2回, 後期2回の定期試験 (70%) とポートフォリオ (レポート, 小テスト等) (30%) から, 総合的に成績を評価する。 ・到達目標への到達度を評価基準とする。 【備考】 毎回, テキストを持参すること。 課題の提出は期限までに必ず行うこと。 【教員の連絡先】 非常勤講師室				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
選択必修					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	シラバス内容の説明と授業の導入	1	
		2週	1. 物質の根源: 粒子の概念	1	
		3週	2. 物質の根源: 軌道の概念	1	
		4週	3. ナノからマイクロへ: 化学結合	1	
		5週	4. ミクロからマクロへ: 分子間相互作用	1, 2	
		6週	5. 物質の性質	1	
		7週	6. 物質を作る: 物質合成デザイン	1, 2	
		8週	理解度確認		
	2ndQ	9週	7. 物質を作る: 化学平衡と反応速度	1	
		10週	8. 物質の種類	2	
		11週	9. 物質と材料	2	
		12週	10. 生命体を構成する物質	2	

		13週	1 1. 生態系を構成する物質	2, 4
		14週	1 2. 環境と物質	2, 4
		15週	1 3. 材料の役割と変遷	2, 4
		16週	(15週の後)に期末試験を実施) 期末試験返却・到達度確認	
後期	3rdQ	1週	シラバス内容の説明と授業の導入	3
		2週	1. 電子・光材料を学ぶために	3
		3週	2. 導電材料と絶縁材料	3
		4週	3. 誘電材料	3
		5週	4. 圧電材料と電歪材料	3
		6週	5. 磁気材料	3
		7週	6. 磁気記録材料	3
		8週	理解度確認	
	4thQ	9週	7. 半導体素子	3
		10週	8. 半導体素子の製造	3
		11週	9. 光材料	3
		12週	10. ディスプレイと光記録	3
		13週	1 1. エネルギー材料	3, 4
		14週	1 2. 超電導材料	3
		15週	問題演習	3
		16週	(15週の後)に期末試験を実施) 期末試験返却・到達度確認	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	保健体育IV
科目基礎情報					
科目番号	0076		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科目		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書 和唐正勝他著「現代保健体育」(大修館)/ 教材 近畿地区高等専門学校体育研究会編「保健体育概論(改訂新版)」(晃洋書房)				
担当教員	小野 伸一郎, 木村 健二				
到達目標					
1 一定以上の活動量の運動・スポーツが実践できる 2 能力に応じた適切な目標が設定できる 3 安全を第一として、ルールやマナーによって秩序付けられた活動ができる 4 競争や挑戦、仲間とのふれあいを楽しむことができる 5 体を動かす中で、その感覚を意識することができる					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目 1	積極的に運動し、運動を楽しみ、協力や責任を果すことができる。	運動し、運動を楽しみ、協力や責任を果すことができる。	運動し、運動を楽しみ、協力や責任を果すことができない。		
評価項目 2	積極的に課題の解決を目指し、活動を工夫できる。	課題の解決を目指し、活動を工夫できる。	課題の解決を目指し、活動を工夫できない。		
評価項目 3	積極的に運動技術を理解し、運動技能を高めることができる。	運動技術を理解し、運動技能を高めることができる。	運動技術を理解し、運動技能を高めることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (E)					
教育方法等					
概要	この科目は企業でスポーツ科学・トレーニング科学を担当していた教員がその経験を活かし、トレーニングの実際、その実施方法、スポーツ科学の最新の知見の提供等について実技形式で授業を行うものである。 【授業目的】 生涯にわたる健康維持のために、1.継続的な運動・スポーツの重要性を理解する、2.運動・スポーツの安全な実施方法を身につける、3.運動・スポーツに親しむ態度を体得する。				
授業の進め方・方法	【授業方法】 前期は、生涯スポーツとしてのニュースポーツなどを通して、クラス全体で同じ種目に取り組む授業を展開する。後期は、学生それぞれの興味や特性に応じて種目を選択し、グループを作ってその種目に取り組む授業を展開する。また、授業の最初に、体力づくりとして補強トレーニングやランニングを行う。 【学習方法】 本授業は実習であるので、健康に十分留意して参加すること。授業では、自主的かつ積極的および協力的に、運動・スポーツの実践を行う。また授業以外にも、週3〜4日の運動・スポーツの実践をこころがけること。				
注意点	【定期試験の実施方法】 定期試験は行わない。 【成績の評価方法・評価基準】 以下の観点からみて、到達目標の到達度を評価する。 態度、志向性：主体性のある行動、グループの統率、グループ内での協調、ルール順守について。 知識、理解：健康・体力に関する一般的な知識の習得について。 技能：個人技能や集団技能を高める能力について。 【履修上の注意】 ・ジャージ等に替えること ・体育館内では、専用の室内シューズを履くこと ・屋外では、運動に適したシューズを履くこと ・レポートについては授業中に詳細を説明する。 【教員の連絡先】 研究室 B棟3階 小野 (B-302) 研究室 A棟2階 木村 (A-207) 内線電話 8910(小野)、8915(木村) e-mail: onoアットマークmaizuru-ct.ac.jp (小野) , k.kimuraアットマークmaizuru-ct.ac.jp (木村)				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	シラバス内容の説明, ソフトボール	1, 2, 3, 4, 5	
		2週	ソフトボール	1, 2, 3, 4, 5	
		3週	ソフトボール	1, 2, 3, 4, 5	
		4週	フライングディスク (各種投法の基本)	1, 2, 3, 4, 5	
		5週	フライングディスク (各種投法の基本, アキュラシー)	1, 2, 3, 4, 5	
		6週	フライングディスク (アルティメット)	1, 2, 3, 4, 5	
		7週	フライングディスク (アルティメット)	1, 2, 3, 4, 5	
		8週	前期末にレポート提出	2	

	2ndQ	9週	ユニバーサルホッケー（個人技術とゲーム）	1, 2, 3, 4, 5
		10週	ユニバーサルホッケー（ゲーム）	1, 2, 3, 4, 5
		11週	ターゲットバードゴルフ（スウィングの基礎）	1, 2, 3, 4, 5
		12週	ターゲットバードゴルフ	1, 2, 3, 4, 5
		13週	水泳・卓球	1, 2, 3, 4, 5
		14週	水泳・卓球	1, 2, 3, 4, 5
		15週	水泳・卓球	1, 2, 3, 4, 5
		16週		
後期	3rdQ	1週	選択種目によるグループ学習	1, 2, 3, 4, 5
		2週	選択種目によるグループ学習	1, 2, 3, 4, 5
		3週	選択種目によるグループ学習	1, 2, 3, 4, 5
		4週	体カテスト	1, 2
		5週	体カテスト	1, 2
		6週	選択種目によるグループ学習	1, 2, 3, 4, 5
		7週	選択種目によるグループ学習	1, 2, 3, 4, 5
		8週	後期末にレポート提出	2
	4thQ	9週	選択種目によるグループ学習	1, 2, 3, 4, 5
		10週	選択種目によるグループ学習	1, 2, 3, 4, 5
		11週	選択種目によるグループ学習	1, 2, 3, 4, 5
		12週	選択種目によるグループ学習	1, 2, 3, 4, 5
		13週	選択種目によるグループ学習	1, 2, 3, 4, 5
		14週	選択種目によるグループ学習	1, 2, 3, 4, 5
		15週	選択種目によるグループ学習	1, 2, 3, 4, 5
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	95	5	0	100
基礎的能力	0	0	0	95	5	0	100

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	日本語 C
科目基礎情報					
科目番号	0085		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般科目		対象学年	4	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	東京外国語大学留学生日本語教育センター編「実力日本語 (上)」 (アルク) ほかに適宜プリント配布。				
担当教員	田村 修一				
到達目標					
1 日本語の文法的知識を核として、1 聞く、2 話す、3 読む、4 書く、の4 技能を総合的に習得する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	日本語の文法的知識を核として、1 聞く、2 話す、3 読む、4 書く、の4 技能を総合的に習得したことが顕著に認められる。		日本語の文法的知識を核として、1 聞く、2 話す、3 読む、4 書く、の4 技能を総合的に習得したことが認められる。		日本語の文法的知識を核として、1 聞く、2 話す、3 読む、4 書く、の4 技能を総合的に習得したと認められない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (E)					
教育方法等					
概要	<p>【授業目的】 中級レベルの日本語の下記記載の文法的内容を中心に学習する。CDを利用したリスニングも行い、「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」の4 方面から日本語の技能を高める。</p> <p>【Course Objectives】 You will mainly the intermeditate level articles of Japanese grammar mentioned in the following. You will also have a listening training with CD and improve the four skills of Japanese language; listening, speaking, reading, and writing.</p>				
授業の進め方・方法	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ CDを用いて、「聞く」・「話す」訓練を行う。 ・ 講義は文法的解説を中心とする。 ・ 問題演習のプリントで、文法・読解・作文のトレーニングをする。 <p>【学習方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 復習を必ず行い、知識の定着をはかるとともに、日頃の生活の中でも日本語力の向上を心がけること。 				
注意点	<p>【定期試験の実施方法】 定期試験は中間・期末の2回おこなう（筆記試験）。時間は50分。持ち込みは不可とする。</p> <p>【成績の評価方法・評価基準】 上記の到達目標に基づき、各項目の理解についての到達度を評価の基準とする定期試験による（100%）。</p> <p>【履修上の注意】 辞書を持参すること。</p> <p>【教員の連絡先】 研究室 B棟3階 (B-303) 内線電話 8905 e-mail: tamura@attマークmaizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること。)</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	シラバス内容の説明、補助動詞「ている」（「今、雨が降っています」）	1	
		2週	動詞辞書形の過去形（「たぶん雨がふったでしょう」）	1	
		3週	動詞文「と」と言語引用内容（「私は『はい』と言いました」）	1	
		4週	「たり」動作作用列挙（「本を読んだり音楽を聴いたりします」）	1	
		5週	動詞文「～に～を」（「父はかばんに本を入れました」）	1	
		6週	「～する前に」・「～した後で」（「寝る前に、歯を磨きます」）	1	
		7週	疑問詞 理由・原因（「昨日は休みましたね。どうしてですか」）	1	
		8週	中間試験	1	
	2ndQ	9週	「で」手段・方法、「から」起因（「機械で計算します」）	1	
		10週	動詞「て」形 手段・方法、（「機械を使って計算します」）	1	
		11週	変化「～をナ形容詞形にする」（「王さんは部屋をきれいにしました」）	1	

	12週	「で」原因・理由（「風で窓が閉まりました」）	1
	13週	文接続「～時」（「母は私が病気になった時、心配しました」）	1
	14週	「ため」・「ために」（「論文を書くために、パソコンを買いました」）	1
	15週	可能表現（「王さんは英語ができます」）	1
	16週	（15週目の後に期末試験を実施） 期末試験返却・達成度確認	1

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	日本語D
科目基礎情報					
科目番号	0086		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般科目		対象学年	4	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	東京外国語大学留学生日本語教育センター編「実力日本語 (下)」 (アルク)				
担当教員	田村 修一				
到達目標					
1 日本語の文法的知識を核として、1 聞く、2 話す、3 読む、4 書く、の4 技能を総合的に習得する。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	日本語の文法的知識を核として、1 聞く、2 話す、3 読む、4 書く、の4 技能を総合的に習得したことが顕著に認められる。		日本語の文法的知識を核として、1 聞く、2 話す、3 読む、4 書く、の4 技能を総合的に習得したことが認められる。		日本語の文法的知識を核として、1 聞く、2 話す、3 読む、4 書く、の4 技能を総合的に習得したと認められない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (E)					
教育方法等					
概要	<p>【授業目的】 中級レベルの日本語の下記記載の文法的内容を中心に学習する。CDを利用したリスニングも行い、「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」の4 方面から日本語の技能を高める。</p> <p>【Course Objectives】 You will mainly the intermeditate level articles of Japanese grammar mentioned in the following. You will also have a listening training with CD and improve the four skills of Japanese language; listening, speaking, reading, and writing.</p>				
授業の進め方・方法	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ CDを用いて、「聞く」・「話す」訓練を行う。 ・ 講義は文法的解説を中心とする。 ・ 問題演習のプリントで、文法・読解・作文のトレーニングをする。 <p>【学習方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 復習を必ず行い、知識の定着をはかるとともに、日頃の生活の中でも日本語力の向上を心がけること。 				
注意点	<p>【定期試験の実施方法】 中間試験・期末試験ともに実施する（筆記試験）。時間は50分。持ち込みは不可とする。</p> <p>【成績の評価方法・評価基準】 上記の到達目標に基づき、各項目の理解についての到達度を評価の基準とする定期試験による（100%）。</p> <p>【履修上の注意】 辞書を持参すること。</p> <p>【教員の連絡先】 研究室 B棟3階 (B-303) 内線電話 8905 e-mail: tamura@attマークmaizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること。)</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	シラバス内容の説明、可能動詞（「田中さんは英語が話せません」）	1	
		2週	時の経過「するまで」（「荷物が着くまで一週間かかりました」）	1	
		3週	状態表現「～は～が」（「象は鼻が長いです」）	1	
		4週	自発的な感覚作用（「この花はいいにおいがします」）	1	
		5週	条件「たら」（「もし、雨が降ったら、いきません」）	1	
		6週	勧め・提言（「休んだほうがいいです」）	1	
		7週	義務・必要（「私は行かなければなりません」）	1	
		8週	後期中間試験	1	
	4thQ	9週	過去の経験（「私は外国へ行ったことがあります」）	1	
		10週	比較・同等（「兄は弟より背が高いです」）	1	
		11週	二者間の比較（「東京と大阪ではどちらが人口が多いですか」）	1	
		12週	「ことにする」・「ことになる」（「中庭で食べることにしました」）	1	
		13週	理由・原因「ので」（「疲れたので、休みました」）	1	

	14週	強調構文（「休んだのはきのうです。おとといではありません」）	1
	15週	条件「と」・追加の接続助詞「し」（「雨も降ったし、風も吹きました」）	1
	16週	（15週目の後に期末試験を実施） 期末試験返却・達成度確認	1

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	保健体育V
科目基礎情報					
科目番号	0077		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科目		対象学年	5	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書 和唐正勝他著「現代保健体育」(大修館) / 教材 近畿地区高等専門学校体育研究会編「保健体育概論(改訂新版)」(晃洋書房)				
担当教員	小野 伸一郎, 木村 健二				
到達目標					
1 一定以上の活動量の運動・スポーツが実践できる 2 能力に応じた適切な目標が設定できる 3 安全を第一として、ルールやマナーによって秩序付けられた活動ができる 4 競争や挑戦、仲間とのふれあいを楽しむことができる 5 体を動かす中で、その感覚を意識することができる					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目 1	積極的に運動し、運動を楽しみ、協力や責任を果すことができる。	運動し、運動を楽しみ、協力や責任を果すことができる。	運動し、運動を楽しみ、協力や責任を果すことができない。		
評価項目 2	積極的に課題の解決を目指し、活動を工夫できる。	課題の解決を目指し、活動を工夫できる。	課題の解決を目指し、活動を工夫できない。		
評価項目 3	積極的に運動技術を理解し、運動技能を高めることができる。	運動技術を理解し、運動技能を高めることができる。	運動技術を理解し、運動技能を高めることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (E)					
教育方法等					
概要	この科目は公企業でスポーツ科学・トレーニング科学を担当していた教員がその経験を活かし、トレーニングの実際、その実施方法、スポーツ科学の最新の知見の提供等について実技形式で授業を行うものである。 【授業目的】 生涯にわたる健康維持のために、1.継続的な運動・スポーツの重要性を理解する、2.運動・スポーツの安全な実施方法を身につける、3.運動・スポーツに親しむ態度を体得する。 【Course Objective】 For the lifetime health, 1. to understand the importance of sports, 2. to understand a safe way of playing sports, 3. to learn how to make playing sports a part of one's lifetime				
授業の進め方・方法	【授業方法】 学生それぞれの興味や特性に応じて種目を選択し、グループを作ってその種目に取り組み授業を展開する。また、授業の最初に、体力づくりとして補強トレーニングやランニングを行う。 【学習方法】 本授業は実習であるので、健康に十分留意して参加すること。授業では、自主的かつ積極的および協力的に、運動・スポーツの実践を行う。また授業以外にも、週3-4日の運動・スポーツの実践をこころがけること。				
注意点	【定期試験の実施方法】 定期試験は行わない。 【成績の評価方法・評価基準】 以下の観点からみて、到達目標の到達度を評価する。 態度、志向性：主体性のある行動、グループ内の協調、ルール順守について。 知識、理解：健康・体力に関する一般的な知識の習得について。 技能：個人技能や集団技能を高める能力について。 【履修上の注意】 ・ジャージ等に替えること ・体育館内では、専用の室内シューズを履くこと ・屋外では、運動に適したシューズを履くこと ・レポートについては授業中に詳細を説明する。 【教員の連絡先】 研究室 B棟3階 小野 (B-302) 研究室 A棟2階 木村 (A-207) 内線電話 8910(小野)、8915(木村) e-mail: onoアットマークmaizuru-ct.ac.jp (小野) , k.kimuraアットマークmaizuru-ct.ac.jp (木村)				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
前期	1stQ	週	授業内容	週ごとの到達目標	
		1週	シラバス内容の説明	1, 2, 3, 4, 5	
		2週	体力テスト	1, 2	
		3週	体力テスト	1, 2	
		4週	選択種目によるグループ学習	1, 2, 3, 4, 5	
		5週	選択種目によるグループ学習	1, 2, 3, 4, 5	
6週	選択種目によるグループ学習	1, 2, 3, 4, 5			

後期		7週	選択種目によるグループ学習	1, 2, 3, 4, 5	
		8週	前期末にレポート提出	2	
	2ndQ	9週	選択種目によるグループ学習	1, 2, 3, 4, 5	
		10週	選択種目によるグループ学習	1, 2, 3, 4, 5	
		11週	選択種目によるグループ学習	1, 2, 3, 4, 5	
		12週	選択種目によるグループ学習	1, 2, 3, 4, 5	
		13週	選択種目によるグループ学習	1, 2, 3, 4, 5	
		14週	選択種目によるグループ学習	1, 2, 3, 4, 5	
		15週	選択種目によるグループ学習	1, 2, 3, 4, 5	
		16週			
	3rdQ	3rdQ	1週	乳幼児親子とのふれあい交流授業ガイダンス・選択種目によるグループ学習	1, 2, 3, 4, 5
			2週	選択種目によるグループ学習	1, 2, 3, 4, 5
			3週	乳幼児親子とのふれあい交流授業	2, 3
			4週	選択種目によるグループ学習	1, 2, 3, 4, 5
			5週	選択種目によるグループ学習	1, 2, 3, 4, 5
			6週	選択種目によるグループ学習	1, 2, 3, 4, 5
7週			選択種目によるグループ学習	1, 2, 3, 4, 5	
8週			選択種目によるグループ学習	1, 2, 3, 4, 5	
4thQ		9週	選択種目によるグループ学習	1, 2, 3, 4, 5	
		10週	選択種目によるグループ学習	1, 2, 3, 4, 5	
		11週	選択種目によるグループ学習	1, 2, 3, 4, 5	
		12週	選択種目によるグループ学習	1, 2, 3, 4, 5	
		13週	選択種目によるグループ学習	1, 2, 3, 4, 5	
		14週	選択種目によるグループ学習	1, 2, 3, 4, 5	
		15週	選択種目によるグループ学習	1, 2, 3, 4, 5	
		16週			

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ その他	合計	
総合評価割合	0	0	0	95	5	0	100
基礎的能力	0	0	0	95	5	0	100

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	総合英語 V
科目基礎情報					
科目番号	0078		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般科目		対象学年	5	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	いいずな書店編集部「Concerto No.4 Advanced」(いいずな書店), 一杉武史「キクタン TOEIC L&Rテスト SCORE 500」, 小石裕子「はじめて受けるTOEIC L&Rテスト全パート完全攻略」(アルク)				
担当教員	荒川 吉孝				
到達目標					
<p>1 関心のあるトピックについて, 200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。</p> <p>2 関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し, 必要な情報を読み取ることができる。</p> <p>3 英文資料を, 自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう, 英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	関心のあるトピックについて, 200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	関心のあるトピックについて, 200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意してある程度, 書くことができる。	関心のあるトピックについて, 200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができない。		
評価項目2	関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し, 必要な情報を読み取ることができる。	関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し, 必要な情報を読み取ることが苦勞しながらも行うことができる。	関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し, 必要な情報を読み取ることが苦勞しながらも行うことができない。		
評価項目3	英文資料を, 自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう, 英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	英文資料を, 自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう, 英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる程度である。	英文資料を, 自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう, 英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	【授業目的】 この授業では, 英語の聞き取りと読解能力の向上を目指し, TOEIC試験に対応可能な英語運用能力を身につけることを目的とする。				
授業の進め方・方法	【授業方法】 総合的な問題演習を行いながら聞き取りと読解を中心に英語運用能力を身につける。同時に基本文法を再確認する。 【学習方法】 授業には真摯に取り組む, 積極的に参加すること。リスニングを上達させるために必ず復習をすること。自主学習用教材による自己学習を計画的に進めること。				
注意点	【成績の評価方法・評価基準】 中間と期末に定期試験を実施する。時間は50分とする。定期試験を60%, 小テスト・課題・演習活動を40%として評価する。上述の到達目標に基づき, 各項目の理解の到達度を評価基準とする。定期試験は上記の教科書および教材をもとに出題される。 【備考】 本授業の目標に到達するには, 予習・復習などの自己学習が必須である。授業内で直接扱われる教科書や課題だけではなく, 授業時間外で自己学習を行うことも重要である。 【教員の連絡先】 大内真一郎 研究室: A棟3階 (A-301) 内線電話: 8906 E-mail: s.ouchi アットマーク maizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること)				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	シラバス内容の説明 総合問題演習 1	1, 2, 3	
		2週	総合問題演習 2	1, 2, 3	
		3週	総合問題演習 3	1, 2, 3	
		4週	総合問題演習 4	1, 2, 3	
		5週	総合問題演習 5	1, 2, 3	
		6週	総合問題演習 6	1, 2, 3	
		7週	総合問題演習 7	1, 2, 3	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	総合問題演習 8	1, 2, 3	

	10週	総合問題演習 9	1, 2, 3
	11週	総合問題演習 10	1, 2, 3
	12週	総合問題演習 11	1, 2, 3
	13週	総合問題演習 12	1, 2, 3
	14週	総合問題演習 13	1, 2, 3
	15週	総合問題演習 14	1, 2, 3
	16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・達成度確認	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語 英語運用能力向上のための学習	関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15
			関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15
			英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	40	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	40	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	人文特論 I A
科目基礎情報					
科目番号	0079		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般科目		対象学年	5	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	関口存男「関口・新ドイツ語の基礎」(三修社)				
担当教員	林 大地				
到達目標					
1 ドイツ語の基礎的な語彙や初級ドイツ語文法を習得する 2 ドイツ語の簡単な文章を読解する能力を身に付ける 3 ドイツ語の学習を通してドイツ文化への理解を深める					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	ドイツ語の基礎的な語彙や初級ドイツ語文法を十分に習得している。	ドイツ語の基礎的な語彙や初級ドイツ語文法をある程度習得している。	ドイツ語の基礎的な語彙や初級ドイツ語文法を習得していない。		
評価項目2	ドイツ語の簡単な文章を読解する能力が十分に身に付いている。	ドイツ語の簡単な文章を読解する能力がある程度身に付いている。	ドイツ語の簡単な文章を読解する能力が身に付いていない。		
評価項目3	ドイツ語の学習を通してドイツ文化への理解が十分に深まっている。	ドイツ語の学習を通してドイツ文化への理解がある程度深まっている。	ドイツ語の学習を通してドイツ文化への理解が深まっていない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<p>本授業では、初級レベルのドイツ語の習得を目指す。ドイツ語の基礎的な語彙および初級ドイツ語文法を習得すること、そしてそれらの知識をもとにして、ドイツ語の簡単な文章を読解する能力を身に付けること、それが本授業の目指すところである。なおそのようにしてドイツ語の文章を読み解いていく過程で、ドイツ文化、とりわけドイツが生んだ思想や文学への理解を深めることができればと思う。ドイツ語というひとつの言語を学ぶとともに、その言語によって形づくられてきた文化の豊かさに触れること、それが本授業の最終的な目的である。</p> <p>本授業では、指定の教科書に加えて、ドイツの思想家や作家が残したテキストを適宜用いて授業を進める。扱うテキストは受講者の関心に応じて変えることもあるが、今のところは、ニーチェ、マルクス、アーレントといった思想家たち、またゲーテ、カフカ、エンデといった作家たちのテキストを取り上げる予定である。最終的には、こうした思想家や作家たちの文章を、辞書を引きながらゆっくりと読み進めることのできるレベルにまで到達できればと思う。</p>				
授業の進め方・方法	<p>【授業方法】 授業は基本的に講義形式で行なうが、必要に応じて、出席者に質問を投げかけることもある。なお授業の終わりには、簡単な練習問題を解いてもらう。解いてもらった練習問題は、次週に答え合わせをし、解説を加える。</p> <p>【学習方法】 文法事項は授業中に詳しく解説するが、語学の学習には予習と復習が不可欠であるため、可能なかぎり各自で予習・復習を行なってもらいたい。また授業中には教科書以外にもさまざまな参考文献を紹介する予定である。そこには、ドイツ語に関する本だけでなく、ドイツ思想やドイツ文学に関する本も含まれるかもしれない。受講者には(試験と直接関係するわけではないが)こうした文献にもできるだけ目を通して、その面白さや豊かさに触れてもらいたい。本授業ではとりわけ「読む」ことに力点を置くため、多種多様なテキストを読むことを厭わずに授業に参加してもらえればと思う。</p>				
注意点	<p>【成績の評価方法・評価基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間試験および期末試験を行なう。 ・試験時間は50分とする。 ・持ち込みは一切不可とする。 ・中間試験と期末試験の点数を合わせて評価する(70%)。 ・また各回の練習問題の点数を加味する(30%)。 ・中間試験、期末試験、練習問題の点数を総合的に評価し、到達目標への到達度と照らしたうえで、成績を決定する。 <p>【備考】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書を忘れずに持参すること。 ・辞書を忘れずに持参すること(紙の辞書、電子辞書、アプリの辞書など、どれでも可とする。辞書については初回の授業で説明する)。 ・予習・復習を怠らないこと。 <p>【教員の連絡先】 研究室 B棟2階 非常勤講師室 (B-206) 内線電話 8125</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	シラバス内容の説明, アルファベットと数詞	1, 2, 3	
		2週	発音の要点	1, 2, 3	
		3週	動詞の不定形と人称変化 (1)	1, 2, 3	
		4週	動詞の不定形と人称変化 (2)	1, 2, 3	
		5週	動詞の不定形と人称変化 (3)	1, 2, 3	
		6週	定冠詞・名詞の格変化	1, 2, 3	
		7週	人称代名詞の格変化	1, 2, 3	

2ndQ	8週	中間試験	
	9週	der, dieser, jenerなど, および形容詞の格変化	1, 2, 3
	10週	ein, kein, meinなど, および形容詞の格変化	1, 2, 3
	11週	名詞の複数形	1, 2, 3
	12週	定形とその位置	1, 2, 3
	13週	話法の助動詞	1, 2, 3
	14週	動詞の3要形	1, 2, 3
	15週	過去と未来	1, 2, 3
16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・達成度確認		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	人文特論Ⅱ A
科目基礎情報					
科目番号	0080	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般科目	対象学年	5		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材	特定の教科書は用いない。適宜、レジュメ等を配布する。				
担当教員	萩田 みどり				
到達目標					
1 課題に対して資料を収集・分析し、適切に扱うことができる。 2 状況・用途に応じた語彙を選択し、駆使できる。 3 言葉以外の表現やレイアウトに対しても試行錯誤し、状況・用途に応じて適切に選択できる。 4 自分の考えを遺漏なく他者へ伝達できる。 5 ピア活動において相互に協力し、他者に建設的な意見を伝えることができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	課題に対して資料を収集・分析し、適切に扱うことができる。	課題に対して資料を収集・分析し、適切に扱うことができると認められる。	課題に対して資料を収集・分析し、適切に扱うことができない。		
評価項目2	状況・用途に応じた語彙を選択し、駆使できる。	状況・用途に応じた語彙を選択し、駆使できると認められる。	状況・用途に応じた語彙を選択し、駆使することができない。		
評価項目3	言葉以外の表現やレイアウトに対しても試行錯誤し、状況・用途に応じて適切に選択できる。	言葉以外の表現やレイアウトに対しても試行錯誤し、状況・用途に応じて適切に選択できると認められる。	言葉以外の表現やレイアウトに対しても試行錯誤し、状況・用途に応じて適切に選択できない。		
評価項目4	自分の考えを遺漏なく他者へ伝達できる。	自分の考えを遺漏なく他者へ伝達できると認められる。	自分の考えを遺漏なく他者へ伝達できない。		
評価項目5	ピア活動において相互に協力し、他者に建設的な意見を伝えることができる。	ピア活動において相互に協力し、他者に建設的な意見を伝えることができると認められる。	ピア活動において相互に協力し、他者に建設的な意見を伝えることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	自分の伝えたいことを他者に伝えるための表現について、実践的に学ぶ。文章表現はもとより、構成、デザイン、話し方等伝達の方法を総合的に捉える。				
授業の進め方・方法	【授業方法】 ・講義によって基礎的なルールや技術を指導した上で、演習課題によって実践的に技術向上を目指す。 ・適宜、課題提出を求める。 ・相互添削など、学生間の相互学習を主とする。自身の成果、他者の成果に対して、言語化し、伝達することも技術向上のために必要である。 【学習方法】 ・課題は締切・要項を守った上で、持ち得る最大限の力を発揮して提出すること。自身で吟味することが大事である。 ・能動的・主体的な学生相互の相談・教員への相談を推奨する。 課題に取り組むうえで必要となるMicrosoft Officeの基本的な操作方法については適宜教えるが、自分の伝えたいことを伝えるためのより良い表現とは何かを突き詰めて考え、調べたり相談したりすることが重要である。 ・社会で求められる文章の追究だけでなく、社会で求められる行動についても考えてほしい。 参考書： 高橋 佑磨・片山 なつ (2021) 『伝わるデザインの基本 増補改訂3版 よい資料を作るためのレイアウトのルール』技術評論社 ウジトモコ (2019) 『簡単だけど、すごく良くなる77のルール デザインカの基本』日本実業出版社				
注意点	【成績の評価方法・評価基準】 随時課す提出課題 (60%)、発表や質疑応答 (40%) によって評価する。 到達目標への到達度を評価基準とする。 【備考】 提出課題は要項をよく確認し、必ず提出すること。 遅刻・欠席・提出遅れ等は、原則事前に連絡を入れること。 【教員の連絡先】 研究室 B棟3階 (B-301) 内線電話 8904 e-mail: m.ogita@マークmaizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること。)				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	シラバスの説明、メールの書き方	2	
		2週	文字・色・レイアウト1	1, 2, 3	
		3週	文字・色・レイアウト2	1, 2, 3	
		4週	図表・画像	1, 2, 3	
		5週	発表準備	4, 5	
		6週	発表1	4, 5	

2ndQ	7週	発表 2	4, 5
	8週	発表 3	4, 5
	9週	キャッチコピー作成	1, 2, 3
	10週	コンテンツ作成 1	1, 2, 3
	11週	コンテンツ作成 2	1, 2, 3
	12週	コンテンツ作成 3	1, 2, 3
	13週	プレゼンテーション 1	4, 5
	14週	プレゼンテーション 2	4, 5
	15週	プレゼンテーション 3	4, 5
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	40	0	0	60	0	100
基礎的能力	0	40	0	0	60	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	人文特論Ⅲ A
科目基礎情報					
科目番号	0081		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般科目		対象学年	5	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	特に指定しない。				
担当教員	牧野 雅司				
到達目標					
1 地域の歴史、社会環境及び諸制度を理解する。 2 産業活動などの人間活動の歴史的発展過程または現在の地域的特性、産業などの発展が社会に及ぼした影響について理解できる。 3 地域が抱える諸課題を見出し、その要因や解決策を考える。 4 自らがつかんだ問題点を他者に的確に伝えることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	1. について理解している。	1. について概ね理解している。	1. について理解できていない。		
評価項目2	2. について理解している。	2. について概ね理解している。	2. について理解できていない。		
評価項目3	3. について考察できる。	3. について概ね考察できる。	3. について考察できない。		
評価項目4	4. について伝えることができる。	4. について概ね伝えることができる。	4. について伝えることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	地域の歴史及び社会環境や制度を理解した上で、地域が抱える諸課題とその要因を見出し、その解決策を自ら考えることを目的とする。				
授業の進め方・方法	【授業方法】 1. 地域に関わる様々なテーマを講義形式で概説する。 2. フィールドワークを行い、自分の目で地域社会を見る。 3. 自らの考えを発表する。 【学習方法】 1. 日頃から新聞やニュースなどから社会についての情報を集めておく。 2. 自分の身の回りの社会に関心を持つ。				
注意点	【成績の評価方法・評価基準】 評価基準について、レポート(70%)、ワークシートなどの提出物(30%)とする。 上記の到達目標にもとづき、各項目の理解についての到達度を評価基準とする。 【備考】 常に地域の問題を自分の問題としてとらえ、考察を深めていってほしい。 【教員の連絡先】 研究室 B棟3階 (B-309) 内線電話 8903 e-mail: m.makino@maizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること。)				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	シラバスに基づく講義内容の説明と課題の設定		
		2週	現代の地域社会と課題	1, 2, 3	
		3週	地域振興策と諸問題	1, 2, 3	
		4週	観光と文化財	1, 2, 3	
		5週	フィールドワーク	1, 2, 3	
		6週	地域社会と文化財 (1)	1, 2, 3	
		7週	地域社会と文化財 (2)	1, 2, 3	
		8週	地域社会と文化財 (3)	1, 2, 3	
	2ndQ	9週	フィールドワーク	1, 2, 3	
		10週	レポート作成	1, 2, 3, 4	
		11週	フィールドワーク	1, 2, 3	
		12週	レポート発表	1, 2, 3, 4	
		13週	レポート作成	1, 2, 3, 4	
		14週	レポート作成	1, 2, 3, 4	
		15週	総括	1, 2, 3, 4	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	100	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	人文特論ⅣA
科目基礎情報					
科目番号	0082		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般科目		対象学年	5	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材					
担当教員	山根 秀介				
到達目標					
1 宗教(学)の基本的な諸概念を理解する。 2 世界の宗教及び宗教文化、またそれが有する諸問題を理解する。 3 宗教という視点から現代社会を分析・考察することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	宗教(学)の基本的な諸概念を十分に理解できている。		宗教(学)の基本的な諸概念をある程度理解できている。		宗教(学)の基本的な諸概念を理解できていない。
評価項目2	世界の宗教及び宗教文化、またそれが有する諸問題を十分に理解できている。		世界の宗教及び宗教文化、またそれが有する諸問題をある程度理解できている。		世界の宗教及び宗教文化、またそれが有する諸問題を理解できていない。
評価項目3	宗教という視点から現代社会を分析・考察することが十分にできる。		宗教という視点から現代社会を分析・考察することがある程度できる。		宗教という視点から現代社会を分析・考察することができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	宗教学の基礎的な概念を身に付けつつ、現代の世界における宗教及びそれに関連する諸問題について考える力を身に付けることを目標とする。				
授業の進め方・方法	【授業方法】 授業者の配布する資料を使いつつ、現代社会における宗教及び宗教文化の諸相について学習する。 【学習方法】 基本的には授業で扱われた内容が試験に出題されるため、まずはそれらをしっかりと学ぶことが重要である。それに加えて、必要な書籍や資料を通して知識を蓄え、設定した問題を考察し分析し、その成果を表現する技術を身に付けること。				
注意点	【成績の評価方法・評価基準】 中間試験および期末試験を行う。時間は50分。 2回の試験(80%)と、課題(20%)から、総合的に成績を評価する。到達目標への到達度を評価基準とする。 【備考】 自分で関心のある主題を探しつつ受講すること。 【教員の連絡先】 研究室 B棟3階 人文ゼミナール室(B-305) 内線電話 8902 e-mail: s.yamane アットマーク maizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること。)				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	シラバス内容の説明 宗教(学)とはどんなものか、宗教の種類	1, 2, 3	
		2週	「原始社会」における宗教	1	
		3週	一神教(1)	1	
		4週	一神教(2)	1	
		5週	世界の神話	1	
		6週	儀式・祭儀・礼拝	1	
		7週	宗教と社会	1, 3	
		8週	中間試験	3	
	2ndQ	9週	試験の返却と解説	2	
		10週	アメリカと宗教(1)	2	
		11週	アメリカと宗教(2)	2	
		12週	フランスとイスラーム(1)	2	
		13週	フランスとイスラーム(2)	2	
		14週	世界各国の宗教問題	2, 3	
		15週	宗教と紛争	1, 2, 3	
		16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・達成度確認		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	日本語 E
科目基礎情報					
科目番号	0087		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般科目		対象学年	5	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	東京外国語大学留学生日本語教育センター編「実力日本語 (下)」 (アルク) ほかに適宜プリント配布。				
担当教員	田村 修一				
到達目標					
1 日本語の文法的知識を核として、1 聞く、2 話す、3 読む、4 書く、の4 技能を総合的に習得する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	日本語の文法的知識を核として、1 聞く、2 話す、3 読む、4 書く、の4 技能を総合的に習得したことが顕著に認められる。		日本語の文法的知識を核として、1 聞く、2 話す、3 読む、4 書く、の4 技能を総合的に習得したことが認められる。		日本語の文法的知識を核として、1 聞く、2 話す、3 読む、4 書く、の4 技能を総合的に習得したと認められない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (E)					
教育方法等					
概要	中級レベルの日本語の下記記載の文法的内容を中心に学習する。CDを利用したリスニングも行い、「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」の4 方面から日本語の技能を高める。				
授業の進め方・方法	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> CDを用いて、「聞く」・「話す」訓練を行う。 講義は文法的解説を中心とする。 問題演習のプリントで、文法・読解・作文のトレーニングをする。 <p>【学習方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 復習を必ず行い、知識の定着をはかるとともに、日頃の生活の中でも日本語力の向上を心がけること。 				
注意点	<p>【成績の評価方法・評価基準】</p> <p>中間試験・期末試験ともに実施する (筆記試験)。時間は90分。持ち込みは不可とする。上記の到達目標に基づき、各項目の理解についての到達度を評価の基準とする定期試験による (100%)。</p> <p>【備考】</p> <p>辞書を持参すること。</p> <p>【教員の連絡先】</p> <p>研究室 B棟3階 (B-303) 内線電話 8905 e-mail: tamura@maizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること。)</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	シラバス内容の説明、意志 形式名詞「つもりだ」	1	
		2週	条件 「ば」 (「雨が降れば、行きません」)	1	
		3週	指示 「しなさい」 (「ごみを片付けなさい」)	1	
		4週	前提条件 「なら」 (「旅行するなら、夏休みがいいですよ」)	1	
		5週	補助動詞 受給関係 (「私は友達に料理を作ってあげました」)	1	
		6週	対人行為の敬語表現 (「荷物をお持ちしましょう」)	1	
		7週	補助動詞「しまう」 (「宿題を忘れてしまいました」)	1	
		8週	中間試験	1	
	2ndQ	9週	「よう」例示 (「京都のようなところに住みたいです」)	1	
		10週	生起可能性・推量 (「地震があるかもしれません」)	1	
		11週	形容詞+「そうだ」 様態 (「この料理はおいしそうだ」)	1	
		12週	動詞+「そうだ」 様態 (「雨が降りそうだ」)	1	
		13週	「よう」目的 (「忘れないようにメモをします」)	1	
		14週	受身 (「私たちは友人に招待されました」)	1	
		15週	「よう」比喻 (「この花はまるで雪のように白いです」)	1	
		16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・達成度確認	1	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合							
	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	日本語 F
科目基礎情報					
科目番号	0088		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般科目		対象学年	5	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	東京外国語大学留学生日本語教育センター編「実力日本語 (下)」(アルク)ほか適宜プリント配布。				
担当教員	田村 修一				
到達目標					
1 日本語の文法的知識を核として、1 聞く、2 話す、3 読む、4 書く、の4 技能を総合的に習得する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	日本語の文法的知識を核として、1 聞く、2 話す、3 読む、4 書く、の4 技能を総合的に習得したことが顕著に認められる。		日本語の文法的知識を核として、1 聞く、2 話す、3 読む、4 書く、の4 技能を総合的に習得したことが認められる。		日本語の文法的知識を核として、1 聞く、2 話す、3 読む、4 書く、の4 技能を総合的に習得したと認められない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (E)					
教育方法等					
概要	中級レベルの日本語の下記記載の文法的内容を中心に学習する。CDを利用したリスニングも行い、「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」の4 方面から日本語の技能を高める。				
授業の進め方・方法	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> CDを用いて、「聞く」・「話す」訓練を行う。 講義は文法的解説を中心とする。 問題演習のプリントで、文法・読解・作文のトレーニングをする。 <p>【学習方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 復習を必ず行い、知識の定着をはかるとともに、日頃の生活の中でも日本語力の向上を心がけること。 				
注意点	<p>【成績の評価方法・評価基準】</p> <p>定期試験は中間・期末の2 回おこなう(筆記試験)。時間は90分。持ち込みは不可とする。 上記の到達目標に基づき、各項目の理解についての到達度を評価の基準とする定期試験による(100%)。</p> <p>【備考】</p> <p>辞書を持参すること。</p> <p>【教員の連絡先】</p> <p>研究室 B棟3階 (B-303) 内線電話 8905 e-mail: tamuraアットマークmaizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること。)</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	シラバス内容の説明、伝聞「昔、東京で大きい地震があったそうだ」)	1	
		2週	逆説「のに」(「彼に頼んだのに、やってくれませんでした」)	1	
		3週	時の局面「ところだ」(「今、出かけるところだ」)	1	
		4週	様態 がる(「妹は人形をほしがっています」)	1	
		5週	「よう」推量(「どうも熱が高いようです」)	1	
		6週	使役(「先生は学生を立たせました」)	1	
		7週	使役型他動詞(「兄は弟を泣かせました」)	1	
		8週	中間試験に代替する小テスト	1	
	4thQ	9週	使役受身(「私は父に仕事を手伝わされました」)	1	
		10週	確信「はず」・発見の「と」(「家に帰ると、張さんが来ていました」)	1	
		11週	原因・理由「ため」(「大雪が降ったため、列車が不通になりました」)	1	
		12週	「らしい」推量(「どうも熱があるらしいです」)	1	
		13週	動詞命令形・禁止命令「な」(「早く行け」・「行くな」)	1	
		14週	敬語表現 尊敬語(「先生は車にお乗りになられました」)	1	
		15週	敬語表現 謙譲語(「私はきのうここに参りました」)	1	
		16週	(15週目の授業の後に期末試験実施) 期末試験返却・達成度確認	1	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合							
	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	人文特論 I B
科目基礎情報					
科目番号	0114		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般科目		対象学年	5	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	関口存男「関口・新ドイツ語の基礎」(三修社)				
担当教員	林 大地				
到達目標					
1 ドイツ語の基礎的な語彙や初級ドイツ語文法を習得する 2 ドイツ語の簡単な文章を読解する能力を身に付ける 3 ドイツ語の学習を通してドイツ文化への理解を深める					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	ドイツ語の基礎的な語彙や初級ドイツ語文法を十分に習得している。		ドイツ語の基礎的な語彙や初級ドイツ語文法をある程度習得している。		ドイツ語の基礎的な語彙や初級ドイツ語文法を習得していない。
評価項目2	ドイツ語の簡単な文章を読解する能力が十分に身に付いている。		ドイツ語の簡単な文章を読解する能力がある程度身に付いている。		ドイツ語の簡単な文章を読解する能力が身に付いていない。
評価項目3	ドイツ語の学習を通してドイツ文化への理解が十分に深まっている。		ドイツ語の学習を通してドイツ文化への理解がある程度深まっている。		ドイツ語の学習を通してドイツ文化への理解が深まっていない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<p>本授業では、初級レベルのドイツ語の習得を目指す。ドイツ語の基礎的な語彙および初級ドイツ語文法を習得すること、そしてそれらの知識をもとにして、ドイツ語の簡単な文章を読解する能力を身に付けること、それが本授業の目指すところである。なおそのようにしてドイツ語の文章を読み解いていく過程で、ドイツ文化、とりわけドイツが生んだ思想や文学への理解を深めることができればと思う。ドイツ語というひとつの言語を学ぶとともに、その言語によって形づくられてきた文化の豊かさに触れること、それが本授業の最終的な目的である。</p> <p>本授業では、指定の教科書に加えて、ドイツの思想家や作家が残したテキストを適宜用いて授業を進める。扱うテキストは受講者の関心に応じて変えることもあるが、今のところは、ニーチェ、マルクス、アーレントといった思想家たち、またゲーテ、カフカ、エンテといった作家たちのテキストを取り上げる予定である。最終的には、こうした思想家や作家たちの文章を、辞書を引きながらゆっくりと読み進めることのできるレベルにまで到達できればと思う。</p>				
授業の進め方・方法	<p>【授業方法】 授業は基本的に講義形式で行なうが、必要に応じて、出席者に質問を投げかけることもある。なお授業の終わりには、簡単な練習問題を解いてもらう。解いてもらった練習問題は、次週に答え合わせをし、解説を加える。</p> <p>【学習方法】 文法事項は授業中に詳しく解説するが、語学の学習には予習と復習が不可欠であるため、可能なかぎり各自で予習・復習を行なってもらいたい。また授業中には教科書以外にもさまざまな参考文献を紹介する予定である。そこには、ドイツ語に関する本だけでなく、ドイツ思想やドイツ文学に関する本も含まれるかもしれない。受講者には(試験と直接関係するわけではないが)こうした文献にもできるだけ目を通して、その面白さや豊かさに触れてもらいたい。本授業ではとりわけ「読む」ことに力点を置くため、多種多様なテキストを読むことを厭わずに授業に参加してもらえればと思う。</p>				
注意点	<p>【成績の評価方法・評価基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間試験および期末試験を行なう。 ・試験時間は50分とする。 ・持ち込みは一切不可とする。 ・中間試験と期末試験の点数を合わせて評価する(70%)。 ・また各回の練習問題の点数を加味する(30%)。 ・中間試験、期末試験、練習問題の点数を総合的に評価し、到達目標への到達度と照らしたうえで、成績を決定する。 <p>【備考】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書を忘れずに持参すること。 ・辞書を忘れずに持参すること(紙の辞書、電子辞書、アプリの辞書など、どれでも可とする。辞書については初回の授業で説明する)。 ・予習・復習を怠らないこと。 <p>【教員の連絡先】 研究室 B棟2階 非常勤講師室 (B-206) 内線電話 8125</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	シラバス内容の説明, 受動形	1, 2, 3	
		2週	前置詞	1, 2, 3	
		3週	分離動詞	1, 2, 3	
		4週	関係代名詞	1, 2, 3	
		5週	完了時称	1, 2, 3	
		6週	zu不定句	1, 2, 3	
		7週	再帰動詞	1, 2, 3	

4thQ	8週	中間試験	
	9週	比較級と最高級	1, 2, 3
	10週	形容詞の名詞化	1, 2, 3
	11週	非人称動詞	1, 2, 3
	12週	命令法, 接続法の形	1, 2, 3
	13週	接続法の用法 (1)	1, 2, 3
	14週	接続法の用法 (2)	1, 2, 3
	15週	まとめ	1, 2, 3
	16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・達成度確認	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	人文特論Ⅱ B
科目基礎情報					
科目番号	0115		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般科目		対象学年	5	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	特定の教科書は用いない。適宜、レジュメ等を配布する。				
担当教員	萩田 みどり				
到達目標					
1 課題に対して資料を収集・分析し、適切に扱うことができる。 2 状況・用途に応じた語彙を選択し、駆使できる。 3 言葉以外の表現やレイアウトに対しても試行錯誤し、状況・用途に応じて適切に選択できる。 4 自分の考えを遺漏なく他者へ伝達できる。 5 ピア活動において相互に協力し、他者に建設的な意見を伝えることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	課題に対して資料を収集・分析し、適切に扱うことができる。	課題に対して資料を収集・分析し、適切に扱うことができると認められる。	課題に対して資料を収集・分析し、適切に扱うことができない。		
評価項目2	状況・用途に応じた語彙を選択し、駆使できる。	状況・用途に応じた語彙を選択し、駆使できると認められる。	状況・用途に応じた語彙を選択し、駆使できない。		
評価項目3	言葉以外の表現やレイアウトに対しても試行錯誤し、状況・用途に応じて適切に選択できる。	言葉以外の表現やレイアウトに対しても試行錯誤し、状況・用途に応じて適切に選択できると認められる。	言葉以外の表現やレイアウトに対しても試行錯誤し、状況・用途に応じて適切に選択できない。		
評価項目4	自分の考えを遺漏なく他者へ伝達できる。	自分の考えを遺漏なく他者へ伝達できると認められる。	自分の考えを遺漏なく他者へ伝達できない。		
評価項目5	ピア活動において相互に協力し、他者に建設的な意見を伝えることができる。	ピア活動において相互に協力し、他者に建設的な意見を伝えることができると認められる。	ピア活動において相互に協力し、他者に建設的な意見を伝えることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	自身の考えを的確に他者へ伝えるための技術を実践的に学ぶ。 特にアカデミックな分野での発信を、専門外の人にも伝わるように意識することに努める。				
授業の進め方・方法	【授業方法】 ・学生間の相互学習を中心とした演習形式で授業を進める。 ・適宜、課題提出を求める。 【学習方法】 ・課題は締切・要項を守った上で、持ちうる最大限の力を発揮して提出すること。 ・能動的・主体的な学生相互の相談・教員への相談を推奨する。				
注意点	【成績の評価方法・評価基準】 随時課す提出課題 (70%)、発表や質疑応答 (30%) によって評価する。 上記の到達目標の到達度を評価基準とする。 【備考】 提出課題は要項をよく確認し、必ず提出すること。 遅刻・欠席・提出遅れ等は、原則事前に連絡を入れること。 発表・質疑応答において、能動的な姿勢を求める。 【教員の連絡先】 研究室 B棟3階 (B-301) 内線電話 8904 e-mail: m.ogita@maizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること。)				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	シラバスの説明, 文章表現	2	
		2週	先行研究の扱い方、ビブリオバトル1	1	
		3週	序論1、ビブリオバトル2	1, 2, 4, 5	
		4週	序論2、ビブリオバトル3	1, 2, 4, 5	
		5週	図表1、ビブリオバトル4	1, 2, 3, 4, 5	
		6週	図表2、ビブリオバトル5	1, 2, 3, 4, 5	
		7週	パラグラフ・ライティング1、ビブリオバトル6	2, 4, 5	
		8週	パラグラフ・ライティング2、ビブリオバトル7	2, 4, 5	
	4thQ	9週	中間発表ブラッシュアップ1	2, 3, 4, 5	
		10週	中間発表ブラッシュアップ2	2, 3, 4, 5	
		11週	プレゼンテーションと質疑1	2, 3, 4, 5	
		12週	プレゼンテーションと質疑2	2, 3, 4, 5	

	13週	プレゼンテーションと質疑3	2, 3, 4, 5
	14週	プレゼンテーションと質疑4	2, 3, 4, 5
	15週	プレゼンテーションと質疑5、講評	2, 3, 4, 5
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	30	0	0	70	0	100
基礎的能力	0	30	0	0	70	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	人文特論ⅢB
科目基礎情報					
科目番号	0116	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般科目	対象学年	5		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	特に指定しない。				
担当教員	牧野 雅司				
到達目標					
1 地域の歴史、社会環境及び諸制度を理解する。 2 産業活動などの人間活動の歴史的発展過程または現在の地域的特性、産業などの発展が社会に及ぼした影響について理解できる。 3 地域が抱える諸課題を見出し、その要因や解決策を考える。 4 自らがつかんだ問題点を他者に的確に伝えることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	1. について理解している。	1. について概ね理解している。	1. について理解できていない。		
評価項目2	2. について理解している。	2. について概ね理解している。	2. について理解できていない。		
評価項目3	3. について考察できる。	3. について概ね考察できる。	3. について考察できない。		
評価項目4	4. について伝えることができる。	4. について概ね伝えることができる。	4. について伝えることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	地域の歴史及び社会環境や制度を理解した上で、地域が抱える諸課題とその要因を見出し、その解決策を自ら考えることを目的とする。				
授業の進め方・方法	【授業方法】 1. 地域に関わる様々なテーマを講義形式で概説する。 2. フィールドワークを行い、自分の目で地域社会を見る。 3. 自らの考えを発表する。 【学習方法】 1. 日頃から新聞やニュースなどから社会についての情報を集めておく。 2. 自分の身の回りの社会に関心を持つ。				
注意点	【成績の評価方法・評価基準】 評価基準について、提出物 (100%) とする。 上記の到達目標にもとづき、各項目の理解についての到達度を評価基準とする。 【備考】 常に地域の問題を自分の問題としてとらえ、考察を深めていってほしい。 【教員の連絡先】 研究室 B棟3階 (B-309) 内線電話 8903 e-mail: m.makino@maizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること。)				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	シラバスに基づく講義内容の説明と課題の設定		
		2週	地域振興策としての観光	1, 2, 3	
		3週	文化財保護と課題	1, 2, 3	
		4週	フィールドワーク	1, 2, 3	
		5週	レポート作成	1, 2, 3, 4	
		6週	フィールドワーク	1, 2, 3	
		7週	レポート作成	1, 2, 3, 4	
		8週	フィールドワーク	1, 2, 3	
	4thQ	9週	フィールドワーク	1, 2, 3	
		10週	レポート作成	1, 2, 3, 4	
		11週	レポート作成	1, 2, 3, 4	
		12週	レポート作成	1, 2, 3, 4	
		13週	レポート作成	1, 2, 3, 4	
		14週	レポート発表	1, 2, 3, 4	
		15週	総括	1, 2, 3, 4	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	100	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	人文特論ⅣB
科目基礎情報					
科目番号	0117		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般科目		対象学年	5	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材					
担当教員	山根 秀介				
到達目標					
1 宗教(学)の基礎知識を使って、具体的な宗教事象を捉える。 2 日本の宗教・宗教文化、またそれが有する諸問題を理解する。 3 宗教という視点から現代日本社会を分析・考察し、その成果を他者に伝える。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	宗教(学)の基礎知識を使って、具体的な宗教事象を捉えることができる。		宗教(学)の基礎知識を使って、具体的な宗教事象を捉えることができる。		宗教(学)の基礎知識を使って、具体的な宗教事象を捉えることができない。
評価項目2	日本の宗教・宗教文化、またそれが有する諸問題を十分に理解できている。		日本の宗教・宗教文化、またそれが有する諸問題を理解できている。		日本の宗教・宗教文化、またそれが有する諸問題を理解できていない。
評価項目3	宗教という視点から現代日本社会を分析・考察し、その成果を他者に伝えることができる。		宗教という視点から現代日本社会を分析・考察し、その成果を他者に伝えることができる。		宗教という視点から現代日本社会を分析・考察し、その成果を他者に伝えることができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	本授業は、宗教学の基礎的な概念を身に付けつつ、現代日本における宗教、そしてそれに関連する諸事象について考察し、その成果を適切な仕方では他者に伝える力を身に付けることを目標とする。				
授業の進め方・方法	【授業方法】 授業者が配布する資料を用いつつ、日本社会における宗教及び宗教文化の諸相について学習する。 【学習方法】 基本的には授業で扱われた内容が試験に出題されるため、まずはそれらをしっかりと学ぶことが重要である。それに加えて、必要な書籍や資料を通して知識を蓄え、設定した問題を考察し分析し、その成果を表現する技術を身に付けること。				
注意点	【成績の評価方法・評価基準】 中間試験および期末試験を行う。時間は50分。 2回の試験(80%)と課題(20%)から、総合的に成績を評価する。 到達目標への到達度を評価基準とする。 【備考】 自分で関心のある主題を探しつつ受講すること。 【教員の連絡先】 研究室 B棟3階 人文ゼミナール室(B-305) 内線電話 8902 e-mail: s.yamane アットマーク maizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること。)				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	シラバス内容の説明 日本において宗教はどのような存在か	1, 2, 3	
		2週	日本古代の宗教(1)	1	
		3週	日本古代の宗教(2)	1	
		4週	日本中世の宗教	1, 2	
		5週	近代日本の宗教(1)	1, 2	
		6週	近代日本の宗教(2)	1, 2	
		7週	現代日本と宗教	1, 2	
		8週	中間試験	1, 2, 3	
	4thQ	9週	試験の返却と解説	1, 2	
		10週	日本の宗教と政治(1)	1, 2	
		11週	日本の宗教と政治(2)	1, 2	
		12週	現代日本の文化と宗教	1, 2	
		13週	現代日本の教育と宗教	1, 2	
		14週	戦後日本の新宗教(1)	1, 2	
		15週	戦後日本の新宗教(2)	1, 2, 3	
		16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・達成度確認		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100	
基礎的能力	80	0	0	0	20	0	100	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	